

新潟市文化財センター年報

第6号

—平成29（2017）年度版—

2019

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター年報

第6号

—平成29（2017）年度版—



秋葉区 程島館跡出土 環状浮線文土器

2019

新潟市文化財センター

新潟市文化財センター

【設 置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査などにより出土した考古資料の収集及び保存並びに公開、そのほかの活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る755か所の遺跡が知られています（平成30年3月末）。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業などの増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどりました。その後も継続して発掘調査は一定数行われており、毎年新たに遺跡も発見され、遺跡数も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備などに伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月に開館しました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設しており、敷地内には新潟市指定文化財の旧武田家住宅や畜動舎を移築復元しています。








新潟市文化財センター及び旧武田家住宅と王冠型土器（秋葉遺跡）モニュメント

例 言

- ・本書は、新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）及び文化スポーツ部歴史文化課（以下「歴史文化課」）の主に埋蔵文化財に係る平成29年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノートなどの研究活動について収録している。
- ・『新潟市文化財センター年報』（以下「年報」）は平成25年度から刊行され、本書は第6号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号〔渡邊・八藤ほか2014〕に記載されている。
- ・本書は文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は執筆者が替わる各文章の末尾に記載した。なお、全体の統一を図るために内容が変わらない範囲で編集者が字句の修正を行った。しかし、Ⅴについては各執筆者の研究成果の側面があるため、執筆者の意向に則して編集している。
- ・本書に記載されている施設名及び所属などについては、本書刊行当時のものである。
- ・本書における調査面積などは、小数第2位を四捨五入して表記している。
- ・Ⅱ1の事前審査について、『平成29年度新潟市文化財調査概要』（新潟市教育委員会2018）と件数や内容の齟齬がある場合は、本書の記載をもって正とする。
- ・Ⅱ2の試掘・確認調査の概要は主要なもののみを掲載した。
- ・Ⅱ2、Ⅲ2の各概要の図1「調査地点の位置」は、新潟市地形図（10,000分の1）を使用しており、縮尺は主として10,000分の1、地図の上位が北である。
- ・図・表番号は、章ごとに1から付している。しかし、Ⅱ2、Ⅲ2は項（概要）ごとに、Ⅴは節ごとに番号を付している。なお、写真には番号を付していない。
- ・Ⅱ2の各概要の図「トレンチ位置図」のトレンチの凡例は右のとおりである。
- ・Ⅱ2の各概要の図「土層柱状図」における土層注記の粘性及びしまりの強弱は、◎→○→△→×の順で弱くなっている。
- ・Ⅱ2の土層の色調観察は『新版 標準土色帖』（小山・竹原1967）を用い、色調名と番号を示した。
- ・Ⅱ2の各概要の図「遺物実測図」では、遺物の全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。また、土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。さらに、土器については黒色処理を■のトーンで表現している。
- ・掲載遺物の実測・トレースなどは文化財センターで行った。
- ・本書の編集は龍田優子・八藤後智人が行った。

トレンチ凡例

	調査対象範囲
	遺物・遺構未検出トレンチ
	遺物検出トレンチ
	遺構検出トレンチ
	遺物・遺構検出トレンチ

目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
2 平成29年度の前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要	8
Ⅲ 文化財センターの事業	30
1 本発掘調査の概要	30
2 平成29年度の本発掘調査	31
3 整理作業の概要	38
4 資料の収蔵・保管	39
5 資料の公開・展示	40
6 教育普及活動	46
7 保存処理	51
8 決算額	52
Ⅳ 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場	53
1 資料の公開・展示	53
2 教育普及活動	58
3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進	60
Ⅴ 研究活動－資料紹介・研究ノートなど－	61
1 近世新潟町長善寺跡出土の木製塔婆と骨蔵器	61
引用・参考文献	68
付録（各表）	69

I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

概要 新潟市では、「文化財に関する事項」は『行政組織規則』により市長部局の歴史文化課が主に補助執行することとされている。そのうち埋蔵文化財については、歴史文化課及び文化財センターが所管している。

事務分掌としては、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課が、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用などを文化財センターが行っている。

開発事前審査 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日施行）に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、『文化財保護法』（以下『法』）第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に基づいて『法』に伴う指示を行っている。

本発掘調査 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。また、本市が原因者の場合は関係各部署からの依頼を受託し、同様に実施している。

平成29年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1のとおりである。内容に本発掘調査と記載されているものが、平成29年度に本発掘調査を実施した事業である。本発掘調査と記載していないものは、平成28年度以前に本発掘調査が行われた事業である。

埋蔵文化財 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が755か所存在する（平成30年3月31日時点）。平成29年度は、試掘調査による新発見遺跡が12か所、近世新潟町跡（近世新潟町跡の取扱いは『年報』1号〔渡邊2014a〕に記載）の周知化地点が1か所ある。今後も試掘調査などによる遺跡数の増加が見込まれる。

本発掘調査件数 新潟市で近隣市町村との合併（平成17年度）が行われてから平成29年度までの本発掘調査件数は表2のとおりである。13年間で78件の本発掘調査を行っており、平均すると1年間で6件の本発掘調査を行っていることとなる。

全体の件数では、平成19・20年度が10件と最も多く、徐々に件数は減少傾向に見えるが、1件あたりの本発掘調査の内容では、個人住宅などの小規模なものから、圃場整備などの大規模なものまであり、必ずしも件数の減

少が調査面積の減少を示してはいない。

種別で見ると新潟県地域振興局（以前は新潟県農地事務所）による圃場整備関係や新潟市による道路改良関係（政令指定都市指定以前は新潟県土木事務所）が定期的実施されており、民間開発関係は不定期に行われている状況である。

現状では、本発掘調査は毎年一定件数実施しており、今後も継続する可能性が高い。平成29年度は個人住宅建設に伴う突発的な本発掘調査が2件あった。今後もその他の民間開発などに伴う調査の増加が想定され、いかなる状況にも柔軟に対応できる文化財センターとしての体制を維持する必要がある。（龍田優子）

表1 平成29年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	遺跡名	内容	事業費(円)	調査面積(m ²)	担当
2017001	民間	赤館砂山遺跡発掘調査事業	赤館砂山遺跡	本発掘調査整理作業	15,700,000	240.6	立本宏明
2016001	新潟市	大沢谷内遺跡発掘調査事業	大沢谷内遺跡	整理作業報告書刊行	18,000,000	-	速藤恭雄
2009002				整理作業		-	相田泰臣
2010002				本発掘調査整理作業		1,746.9	-
2011006				整理作業報告書刊行			
2017002	県地域振興局	両新地区ほ場整備発掘調査事業	細池寺道上遺跡	本発掘調査整理作業	203,000,000	-	立本宏明
2016002				整理作業			
2009003				整理作業報告書刊行			
2010003				整理作業			
2015002				整理作業報告書刊行			
2005003	新潟市	芥木遺跡発掘調査事業	芥木遺跡	整理作業報告書刊行	800,000	-	龍田優子
2006003				整理作業			
2016003	新潟市	芥木遺跡発掘調査事業	芥木遺跡	整理作業報告書刊行	800,000	-	龍田優子
2017003	新潟市	浦木東遺跡発掘調査事業	浦木東遺跡	本発掘調査整理作業	75,300,000	1,452.2	金田拓也
2017004	新潟市	亀田道下遺跡発掘調査事業	亀田道下遺跡	本発掘調査整理作業	64,650,000	1,675.4	速藤恭雄
2017005	民間	小規模緊急発掘調査事業	秋葉遺跡	本発掘調査整理作業	3,810,000	97.9	今井きやか
2017006	民間	小規模緊急発掘調査事業	程島船跡	本発掘調査整理作業	5,940,000	124.6	相澤裕子
合計					387,200,000	5,337.6	

表2 新潟市本発掘調査件数（平成17～29年度）

種別	年度(平成)													小計
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
民間	2	5	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	3	17
県地域振興局(農地)	2	2	2	2	1	3	5	3	1	2	1	1	1	27
県土木	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
新潟市	1	1	5	7	2	3	1	3	2	2	0	2	2	31
合計	7	9	10	10	4	4	5	8	6	3	3	3	6	78

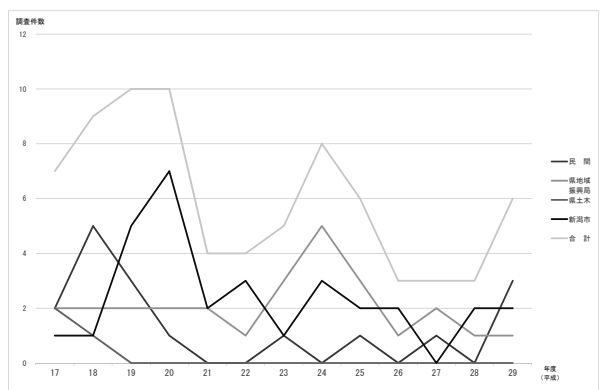


図1 新潟市本発掘調査件数の推移（平成17～29年度）

II 開発事前審査

1 事前審査内容

(1) 開発事前審査

概要 新潟市は、国内でも有数な規模を誇る越後平野の中央に位置する。市域の大半を占めるこの越後平野は、長い年月をかけ信濃川・阿賀野川といった大河川が運んできた土砂により形成された沖積平野である。新津や角田・弥彦の丘陵地帯、新潟砂丘（新砂丘Ⅰ～Ⅲ）に代表される砂丘地帯のように標高の高い地域もあるが、大半は低湿地帯である。丘陵を除く地域には鳥屋野潟や福島潟などに代表される潟湖が多数存在し、かつては洪水などの水害が多い地帯であった。江戸時代には、新田開発に伴い潟や沼などの水抜き工事が行われており、明治・大正・昭和へと引き継がれた。特に1950年代以降の土木技術の発展に伴う土地改良の結果、湿地帯は徐々に解消されていった。

遺跡（埋蔵文化財包蔵地）は、その大半が地中に埋まっており、地表面観察からの把握は困難である。長年の耕作などにより地表面に露出してきた遺物を丹念に観察・収集し、遺跡の所在把握に取り組んできたが、機械掘削が主体となっている現在の工事では、存在が把握されないまま地中にある遺跡に、直接掘削が及ぶ機会が増大している。すでに周知化されている遺跡及び未周知遺跡の把握・周知・保護は行政の責務と考える。

このような変化に対応しつつ迅速に保護対応を図るため、本市では以下のような取り組みを実施している。

公共事業 国・県機関の実施する土木事業については、年に1度、新潟県教育庁文化行政課が一括して関係機関に照会し、得られたデータを県下の市町村に提供して審査及び事業者との協議を依頼している。

国・県機関実施事業のうち、平成29年度の新潟市関連分は51件であった。平成28年度の123件から72件の減少である。内訳は表1に示した。県事業40件のうち17件は圃場整備事業に係る事業で、前年度に引き続き協議を行っている。事業実施に際し『法』94条通知が行われている。

市の実施する事業については、年度ごとに市内全部署へ照会をかけ、その回答を基に協議している。

規模を問わず原則全ての事業を対象とするため、審査件数が膨大になり、短期間での審査・協議が困難となっている。また、年1度の照会で把握しているため、年度

途中で生起する小規模事業を拾いきれない場合があり、事業担当課へも自発的に歴史文化課へ協議するよう各種の機会をとらえて声掛けを行っている。

民間事業 事業計画地における遺跡の有無、もしくは保護協議の対象地であるかを、歴史文化課窓口及びFAXで対応している。

民間事業中で最多の建築事業については、建築確認申請を提出する際、本市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があり、建築主は歴史文化課へ照会して確認番号を取得する必要がある。その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。照会目的の大半は専用住宅建築にかかる建築確認番号取得である。次いで土地取引もしくは不動産鑑定評価など計画段階での事前調査であり、電柱、看板設置などがこれに続く。特にFAXでの照会は、民間事業者に定着してきているが、日々の審査業務時間は増大している。

開発行為については、8区すべての『開発審査協議会設置要領』に規定されているとおり、『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出されたのち、歴史文化課を含む庁内関係各部署に意見照会されるため、全ての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

また、本市では土木事業などが農地内で行われることが多い。その場合、事前に『農地法』に係る転用許可・届出が必要であることから、市内に存在する6つの農業委員会事務局（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）に歴史文化課への情報提供を依頼し、全件審査の上、取扱い方針を決定している。また、必要なものについては事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発などは、許認可事務を担当する庁内各部署などと緊密に連携して事前把握を行っている。しかし、専用住宅建築を含む民間事業は、決定してから実施までが速く、試掘・確認調査の実施とその結果を踏まえた協議時間が非常に短い。制度と実行力にバランスが保てるような体制の強化が急務である。

平成29年度 平成29年度の協議実績の概要は以下のとおりである。

国・県事業の件数については先に触れた。国関係では、遺跡に該当しても、実際に確認調査が必要となったものはなかった。県関係では、圃場整備及び地盤沈下対策関係がほとんどであった。圃場整備は、西蒲区内で複数の圃場整備事業が採択段階まで進んできており、採択された順に可能な限り試掘調査を実施している。計画中の事業地域が複数あり、各地域とも予定面積が広大であることから、今後も試掘・確認調査が大幅に増加する見込みである。秋葉区両新地区の圃場整備については、埋蔵文化財の取り扱い協議は概ね終了しており、現地本発掘調査も平成29年度で終了した。今後は、報告書作成業務を進めていくこととしている。

市事業の審査件数は613件であり、平成28年度の725件から112件減少している。主な内訳としては、道路関係321件（全体の約52.4%）、水道関係158件（同25.8%）、下水道関係94件（同15.3%）、公共施設関係40件（同6.5%）である。公共施設関係は、ほとんどが改修工事や設計であった。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。平成28年度とほぼ同傾向であるが、案件ごとの重複を除いた実数は8,331件（平成28年度8,199件に比して132件の増）であった。内訳をみると、開発行為は大幅増（平成28年度の54件から88件）、農地転用はやや増加（同480件から520件）、建築確認申請に係る審査件数はやや減少（同4,383件から4,140件）している。開発行為では宅地造成が最も多く、福祉施設・共同住宅がこれに続く。

(2) 試掘・確認調査

概要 事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、その詳細な内容が不明な場合は確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出している（事業費の約50%は文化庁の補助を受けている）。原則として事業者へ経費負担を要求していない。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施している。以前はまれに試掘調査の実施を拒否される場合があったが、近年はほぼ全ての案件で承諾が得られている。試掘調査の意義と効果に対する理解が事業者に浸透してきていると思われる。

平成29年度 表1・3のとおり試掘調査28件、確認調査49件、計77件の調査を実施した（事業計画の変更に

表1 平成29年度公共事業審査事業主体別内訳

事業主体	件数	遺跡に該当	試掘調査の協議をしたもの	〔法〕94条通知
国	11	1	0	1
県	40	0	15	9
市	613	33	14	26
計	664	34	29	36

表2 平成29年度民間事業事前審査件数

区名	審査種別					審査・照会件数	〔法〕93条届出
	開発行為	農地転用	建築確認	窓口照会	文書照会		
北 区	10	1	391	381	0	783	11
東 区	11	60	696	575	0	1,342	15
中央区	21	35	808	910	0	1,774	6
江南区	10	50	392	319	2	773	55
秋葉区	10	98	419	257	0	784	29
南 区	4	62	286	165	3	520	2
西 区	18	185	909	706	2	1,820	2
西蒲区	4	29	239	261	2	535	10
合 計	88	520	4,140	3,574	9	8,331	130
遺跡に該当	5	11	87	94	0	197	-
試掘調査等の協議をしたもの	26	0	*	325	0	351	-

※建築確認のみの案件（個人住宅など）は周知の遺跡範囲にかかるもののみ協議の対象としているため、原則として試掘調査は生じない。

表3 平成29年度試掘・確認調査、工事立会件数

区名	調査内容	事業者	件数		埋蔵文化財検出件数	割合(%)
北 区	確認調査	公共	0	5	0	0
		民間	0			
	試掘調査	公共	0	5	4	80
東 区	確認調査	公共	2	6	10	3
		民間	4			
	試掘調査	公共	0	4	2	50
中央区	確認調査	公共	1	15	16	2
		民間	14			
	試掘調査	公共	0	1	1	100
江南区	確認調査	公共	1	7	17	4
		民間	6			
	試掘調査	公共	3	10	3	30
秋葉区	確認調査	公共	0	9	16	3
		民間	9			
	試掘調査	公共	2	7	4	57
南 区	確認調査	公共	1	3	3	0
		民間	2			
	試掘調査	公共	0	0	0	0
西 区	確認調査	公共	1	5	6	2
		民間	4			
	試掘調査	公共	0	1	0	0
西蒲区	確認調査	公共	3	4	4	1
		民間	1			
	試掘調査	公共	0	0	0	0
合 計	確認調査	公共	9	49	77	15
		民間	40			
	試掘調査	公共	5	28	14	50
工事立会	公共	23	65	4	6	
	民間	42				

表4 平成29年度経費（調査支援委託費のみ 単位：千円）

調査内容	金額
試掘・確認調査	36,640
管内踏査（工事立会）	3,165

表5 平成29年度試掘・確認調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開発種別 事業名 内容	調査地	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積) (㎡)	調査担当	検出土遺物	出土遺物	取扱い	備 考	
2017101	-	試掘調査	民間 福祉施設	伏見区 矢代田字西山 329番2 外	-	-	-	4/18・19	2	809 (1,175.0)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017102	-	試掘調査	民間 貸家住宅	南区 神屋字前畑 370番1 外	-	-	-	4/25	1	442 (2,371.1)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017103	-	試掘調査	民間 店舗	中央区 女池第一丁目 1231番1 外	-	-	-	4/21	1	285 (2,806.1)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017104	日本遺跡 398	確認調査	民間 個人住宅	江南区 梅見右三丁目 87番	集落跡	古墳・ 古代・中世	古代	4/18	1	122 (245.0)	塚山えりか	溝・性格不明遺構・ ビット(古代)	土師器・須恵器(古代)	工事立会・ 慎重工事		
2017105	-	試掘調査	民間 店舗	中央区 開原浜松町 79番1 外	-	-	-	4/24	1	285 (2,622.1)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		
2017106	正尺A遺跡 291	確認調査	民間 集合住宅	北区 葛塚字正尺 3088号1 外	-	-	古墳	4/25・27・28	3	223 (929.2)	塚山えりか	溝・性格不明以降(古墳)	土師器(古墳)	工事立会		
2017107	フル子A遺跡 74	確認調査	民間 工場	西区 神山字フル子 253番 外	遺物包含地	古代	-	4/27・28	2	1119 (3,841.0)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要	工事立会	
2017110	大野中遺跡 741	確認調査	公共(市) 公共施設	伏見区 新津東町二丁目 1352番1 外	遺物包含地	縄文・古代	-	5/1・2	2	334 (33,724.0)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要	慎重工事	
2017117	-	試掘調査	民間 宅地造成	伏見区 小阪字藤巻 86番1 外	-	-	-	5/10	1	699 (2,878.4)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017118	(近世新町跡) 575	試掘調査	公共(市) 駐輪場	中央区 本町通六番町 1135番1	港町跡	近世	近世	5/11	1	72 (271.2)	塚山えりか	性格不明遺構(近世)	陶磁器(近世) (18～19世紀代)	取扱不要	※1	
2017121	中里山遺跡 317	確認調査	民間 個人住宅	北区 太田字中里山 甲2794番1 外	遺物包含地	縄文・古墳・ 古代・中世・ 近世	縄文・ 古墳・古代	5/18	1	566 (769.0)	瀬田幸幸	土坑・溝・性格不明遺構・ ビット(古墳・古代)	縄文土器・土師器(古墳・古代)	継続協議	追加調査(2017155)	
2017122	-	試掘調査	民間 宅地造成	南區 巻字古瀬郷屋 乙164番1 外	-	-	-	5/22	1	408 (777.6)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017123	-	試掘調査	公共(市) 市道	南区 瀬字通南 3707番 外	-	-	-	6/12～23	10	6300 (41,900.0)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017124	-	試掘調査	民間 宅地造成	江南区 直り山字坂上 282番 外	-	-	-	5/12	1	343 (978.0)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		
2017125	(近世新町跡) 575	試掘調査	民間 集合住宅	中央区 一番堀通町 349番2 外	港町跡	近世	近世	5/16～20	5	1012 (547.3)	塚山えりか	土坑・溝(近世)	陶磁器(近世)	取扱不要	※1	
2017126	(上部D遺跡) 781	試掘調査	民間 宅地造成	江南区 横越中央五丁目 3476番の内外	遺物包含地	古代・中世	古代・中世	5/30～6/1	3	916 (3,222.0)	塚山えりか	性格不明遺構・ビット(古 代)	土師器(古代)・珠洲焼(中世)	工事立会	新発見遺跡	
2017130	川根谷内遺跡 365	確認調査	民間 事務所	江南区 横越川根四丁目 2720番4	遺物包含地	古代	不明	6/2	1	34 (281.3)	瀬田幸幸	溝(不明)	なし	慎重工事		
2017131	(山木戸下遺跡) 782	試掘調査	民間 宅地造成	東区 山木戸下四丁目 1066番1 外	遺物包含地	古代	古代	6/6・7	2	719 (1,315.9)	塚山えりか	なし	須恵器(古代)	工事立会	新発見遺跡	
2017132	程島館跡 168	確認調査	民間 個人住宅	伏見区 程島字船内 1616番2 外	城跡	縄文・中世	縄文・ 古代・中世	6/13	1	122 (245.4)	塚山えりか	性格不明遺構・ビット(不 明)	縄文土器・土師器(古代)・ 陶磁器(中世)	継続協議後 本発掘調査	同年本発掘調査実施	
2017133	舟戸遺跡 132	確認調査	民間 個人住宅	伏見区 古津字舟戸 1900番2	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・古代	-	6/3	1	162 (333.1)	塚山えりか	なし	なし	慎重工事		
2017134	-	試掘調査	民間 福祉施設	東区 空巻西二丁目 214番14 外	-	-	-	6/13	1	445 (6,281.0)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		
2017135	-	試掘調査	公共(市) 公有地 売却	東区 物見山二丁目 17番 外	-	-	-	6/14	1	183 (10,102.3)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		
2017138	砂岡遺跡 406	確認調査	民間 宅地造成	江南区 砂岡二丁目 1521番1 外	遺物包含地	縄文・古代	-	6/8	1	179 (513.0)	塚山えりか	なし	なし	工事立会・ 慎重工事		
2017146	-	試掘調査	民間 個人住宅	江南区 松山字塚上 1497番2 外	-	-	-	7/3	1	180 (449.9)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017147	-	試掘調査	民間 宅地造成	伏見区 額日本字前畑 1616番1 外24番	-	-	古代	7/5～13	7	3220 (6,000.0)	瀬田幸幸	なし	土師器・須恵器(古代)	取扱不要	※3 2017196と同事業	
2017148	(新川底跡) 783	試掘調査	民間 店舗	西区 穂橋 1425番15	水利施設	近世	近世	6/17～26	7	933 (4,648.0)	塚山えりか	底層構柱(近世)	陶磁器・木製品(近世)	継続協議後 慎重工事		
2017149	古津八幡山遺跡 173	確認調査	公共(市) 範囲確認	伏見区 古津 324番 外	集落跡	旧石器・ 縄文・弥生・ 古墳・古代	縄文・弥生	7/19～11/13	58	2178	相田泰臣	竈穴遺構・溝・性格不明遺 構・ビット	縄文土器・弥生土器・石器・礫	現状保存	史跡指定外において弥生時代の 竈穴住居と掘立柱建物のビットを確認	
2017150	-	試掘調査	民間 事務所	中央区 上近江四丁目 154番1 外	-	-	-	6/19・20	2	536 (1,539.4)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		
2017151	-	試掘調査	公共(市) 防火設備	東区 白根二丁目 7番1	-	-	-	7/25	1	150 (40.0)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017152	(道下遺跡) 99	試掘調査	民間 宅地造成	西区 中塚字字三番 2335番 外	遺物包含地	古代・中世	古代・中世	6/26・28	2	463 (3,000.0)	塚山えりか	なし	土師器(古代)・珠洲焼(中世)	工事立会	範囲拡大	
2017153	大沢谷内遺跡 342	確認調査	公共(市) 排水路	伏見区 天ヶ沢 853番4 地先	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・古代・ 中世	-	8/1・2	2	200 (126.0)	瀬田幸幸	なし	なし	慎重工事		
2017154	-	試掘調査	民間 駐車場	南区 能登二丁目 325番2 外	-	-	-	7/20・21	2	820 (4,962.0)	瀬田幸幸	なし	なし	取扱不要		
2017155	中里山遺跡 317	確認調査	民間 個人住宅	北区 太田字中里山 甲2794番1 外	遺物包含地	縄文・古墳・ 古代・中世・ 近世	縄文・古墳	8/4～10	5	367 (769.0)	瀬田幸幸	掘立柱建物・井戸・土坑・ 溝・性格不明遺構・ビット (古墳)	縄文土器・土師器(古墳)	工事立会	2017121の追加調査	
2017156	砂崩ノ山遺跡 401	確認調査	公共(市) 市道	江南区 桑津 2308番1 外	敷布地	古代	-	8/23～9/4	8	809 (5,690.0)	瀬田幸幸	なし	なし	慎重工事	※3 2017157と同事業	
2017157	砂岡前遺跡 421	確認調査	公共(市) 市道	江南区 砂岡字早稲田 697番1 外	遺物包含地	縄文・ 古代・近世	縄文・古代	8/23～9/4	8	1147 (5,990.0)	瀬田幸幸	井戸	縄文土器・土師器・須恵器(古代)	本発掘調査	※3 2017156と同事業 遺跡範囲拡大	
2017159	-	試掘調査	民間 宅地造成	西区 島新田字大洲 505番1 外	-	-	-	7/19	1	328 (1,995.4)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		
2017161	葛塚遺跡 266	確認調査	民間 個人住宅	北区 葛塚字上大口 3400番17	遺物包含地	古墳	古墳	7/11・12	2	162 (249.3)	塚山えりか	なし	土師器(古墳)	工事立会		
2017167	近世新町跡 (575-18)	確認調査	民間 保育施設	中央区 上大川通二番町 135番1	港町跡	近世	近世	7/26～29	4	440 (1,824.8)	塚山えりか	土坑・溝(近世)	陶磁器・木製品・銭貨・鉄滓(近世)	工事立会	平成27年度試掘(2015240)・ 平成28年度追加確認(2016130)	
2017168	-	試掘調査	民間 宅地造成	中央区 西大塚町字大塚下 613番4 外	-	-	-	7/21	1	450 (1,468.8)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		
2017169	塚ノ山遺跡 407	確認調査	民間 個人住宅	江南区 龜田水通町四丁目 2532番2	敷布地	古代	-	7/13	1	81 (154.2)	塚山えりか	なし	なし	継続協議		
2017170	-	試掘調査	公共(市) 学校	西区 大野字村中 137番 外	-	-	-	8/8	1	231 (19,000.0)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		
2017177	-	試掘調査	民間 宅地造成	中央区 南山町第一丁目 435番13 外	-	-	-	8/25	1	316 (2,289.2)	塚山えりか	なし	なし	取扱不要		

に伴い実施した確認調査が1件あるので実数は78件)。平成28年度の件数と比較すると、試掘調査・確認調査ともに減少している。公共事業に伴う試掘調査では道路・圃場整備事業が多い。民間事業に伴う試掘調査は宅地造成や店舗建設、確認調査では専用住宅建設が多い。道路建設や農業基盤整備事業など1件当たりの事業規模(調査対象面積)が大規模なものは調査期間も長期に及ぶため、業務量は調査件数だけでは測れない。市職員の現地調査日数は増加し続け、平成28年度並みに費やしている。

地域別では例年どおり秋葉区・江南区が多い。両区は、遺跡数はもとより、公共事業・民間事業ともに他の区よりも目立つ。また、今年度も中央区で近世新潟町跡に関連する試掘調査が多かった。

今年度の試掘調査で新しく発見された遺跡は、山木戸^{やまきど}居下^{いした}遺跡^{つづみうち}・堤内^{きゅうにいがたぜいかん}遺跡(東区)、旧新潟税関跡(中央区)、上郷D^{かみごう}遺跡^{すなくずれわ}・砂崩^{せだ}早稲田^{たくちごう}遺跡(江南区)、宅地郷^{まえばた}遺跡^{まえばた}(秋葉区)、新川底^{しんかわそこひ}樋跡^{みやうえ}(西区)、宮上南^{みやうえ}遺跡^{みやうえ}・宮上^{にし}西^{にし}遺跡^{きつねじま}・西^{にし}遺跡^{きつねじま}・狐島^{きつねじま}遺跡(西蒲区)の計13遺跡と近世新潟町跡で1地点である。西蒲区の遺跡は圃場整備に伴う試掘調査で発見された遺跡である。ほかには宅地造成などの開発事業に伴う試掘調査で発見された遺跡がある。

旧新潟税関跡は史跡外に設置予定の防火水槽設置に伴い行った試掘調査で発見された。明治2(1869)年に実施された税関用地の造成に伴う盛土工事の一過程を示すと推測される板組遺構が発見された。このことにより、これまでの史跡範囲に試掘調査地を含めた範囲を埋蔵文化財包蔵地として周知化した。

新川底樋跡は、西区槇尾の開発事業地に江戸時代末期の慶応4(1868)年に修復された底樋が残っている可能性が高いことを地元の「越後新川まちおこしの会」(以下「まちおこしの会」)が把握し、開発者と行政を仲介する形で進めた調査の結果、発見された遺跡である。事前にまちおこしの会がボーリング調査により底樋の底板と想定される板材を検出後、底樋の位置を推定して市の試掘調査で発見した。市の調査では底樋の束柱と想定される部材と、底樋設置に係る地業跡の一部が検出された〔朝岡・諫山2017〕。この底樋はかつて存在した大潟・田潟・鎧潟の水を抜くことを目的に西川の下を通すために設置されたものである。開発者からは、底樋の意義について理解していただき、工事・調査間の調整を図るなど多大な協力をいただいた。

平成29年度は、上記のように近代で1遺跡、近世で1遺跡が周知化された点が特徴である。

(3) 工事立会

概 要 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各



確認調査風景(2017125・近世新潟町跡)



確認調査風景(2017161・葛塚遺跡)



確認調査風景(2017193・旧新潟税関跡)

種土木工事などに対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握した上で、『埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について(通知)』(平成10年9月29日付庁保記第75号 各都道府県教育委員会教育長宛文化庁次長通知、以下『文化庁標準』)及び『発掘調査の要否等の判断基準』(平成11年9月10日付教文第578号、以下『新潟県基準』)に従って実施している。具体的には、
・「土木工事などにより、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小(『新潟県基準』)により原

則として掘削幅1m以下)であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの」

・「掘削が遺物包含層などにおよばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計通りであるか立会によって確認する必要がある場合」などである。

工事立会にあたっては、『法』93条の届出・同94条の通知に対する取扱い指示文を事業者へ通知する。事業者は工事日程が決定次第当課へ連絡する。工事立会は、事業者の工程に従って新潟市の埋蔵文化財担当専門職員が可能な限り現地に訪れている。しかし、工事立会は件数が多く市全域に及ぶため、現状では委託業者の作業員数名で行う場合が多い(表6の調査担当者欄には、実際に現地へ赴いた市職員あるいは委託事業者名を記載した)。

工事立会は、直前の連絡だけでは工事日程との調整が難しい。特に長期間に及ぶ大規模な工事の場合は、事業者の協力を得て、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、保護施策の意義を理解してもらうことができ、工程の一部変更などを早期に連絡してもらえる体制が強化されてきている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。遺跡によっては相当量の遺物が出土することがあり、多量の遺物の注記を外部に委託することがある。遺跡の貴重な情報としての工事立会結果を十分に生かすため、重要と判断したものは『年報』で報告している。

また、大規模開発や圃場整備などに伴う長期間の工事立会では、限られた人数の市職員での対応に困難な場合があり、かつ経費も相当にかかる。人員の体制など今後検討していく必要がある。なお、年々減少しているが工事立会指示が出ているにもかかわらず、事後報告となる例が後を絶たない。今後も事業者に対して理解と協力を得るため丁寧な説明を続けていく必要がある。

平成29年度 表3・6のとおり65件の工事立会を行った。平成28年度よりも増加している。工事内容は個人住宅関係・水道などが多く、秋葉区・西蒲区の圃場整備関係は対象面積が大規模で長期間に及ぶ。

主要な試掘・確認調査の概要をⅡ2に示した。

(朝岡政康)

表6 平成29年度工事立会一覧(調査番号順)

調査番号	遺跡名		開発種別		所在区	調査期間	調査担当	検出遺構	出土遺物
	遺跡番号	事業者	内容	内容					
2017108	前山遺跡11	民間	集合住宅		江南区	5/10~6/14	委託(吉沢組)	×	×
2017109	塚ノ山遺跡407	民間	個人住宅		江南区	5/1~5/19	委託(吉沢組)	×	×
2017111	山崎遺跡127	民間	宅地造成		江南区	5/9~5/23	委託(吉沢組)	×	×
2017112	新田郷南遺跡775	民間	個人住宅		江南区	5/6~5/8	委託(吉沢組)	×	×
2017113	日本遺跡398	民間	個人住宅		江南区	5/8~5/18	委託(吉沢組)	×	×
2017114	日本遺跡398	民間	個人住宅		江南区	5/8~5/18	委託(吉沢組)	×	×
2017115	新田郷南遺跡775	民間	個人住宅		江南区	5/8	委託(吉沢組)	×	×
2017116	牛道遺跡499	民間	倉庫等		江南区	5/17	委託(吉沢組)	×	×
2017119	上町遺跡464	民間	電柱		西蒲区	6/7	委託(吉沢組)	×	×
2017120	山谷北遺跡189	民間	土地区画整理		秋葉区	5/8~7/25	委託(吉沢組)	×	×
2017127	赤崎砂山遺跡778	民間	店舗		西蒲区	5/30~9/27	委託(吉沢組)	×	×
2017128	塚ノ山遺跡407	民間	個人住宅		江南区	5/30	委託(吉沢組)	×	×
2017129	近世新潟町跡575-19	公共(市)	水道		中央区	6/29~7/31	委託(吉沢組)	×	○
2017137	所島前遺跡754	民間	個人住宅		江南区	6/15-16	委託(吉沢組)	×	×
2017139	新田郷南遺跡775	民間	個人住宅		江南区	6/22~7/8	委託(吉沢組)	×	×
2017140	ツル子A遺跡74	民間	工場(加工)		西区	7/1	委託(吉沢組)	×	×
2017141	程島船跡168	民間	宅地造成		秋葉区	8/21~9/28	委託(吉沢組)	×	×
2017142	法華塚遺跡81	公共(市)	水道		北区	10/16~17	委託(吉沢組)	×	×
2017143	新久免の塚148	公共(市)	下水道		秋葉区	10/5~11/9	委託(吉沢組)	×	×
2017144	地蔵山遺跡29	民間	集合住宅		中央区	6/22~7/4	委託(吉沢組)	×	×
2017145	塚ノ山遺跡407	民間	個人住宅		江南区	7/5~19	委託(吉沢組)	×	×
2017158	芥木遺跡764	公共(市)	道路		江南区	7/19	委託(吉沢組)	×	×
2017160	正尺A遺跡291	民間	集合住宅		北区	7/18~12/14	委託(吉沢組)	×	×
2017162	峰岡上町遺跡731	公共(市)	道路		西蒲区	7/27~9/6	委託(吉沢組)	×	×
2017163	丸山遺跡13	公共(市)	下水道		江南区	8/1-2	委託(吉沢組)	×	×
2017164	砂岡遺跡406	公共(市)	水道		江南区	8/25~31	委託(吉沢組)	×	×
2017165	近世新潟町跡575-17	民間	電柱		中央区	9/19~21	委託(吉沢組)	×	×
2017166	葛塚遺跡266	民間	個人住宅		北区	7/25~27	委託(吉沢組)	×	×
2017171	津山上田遺跡750	公共(県)	圃場整備		西蒲区	10/25-26	委託(吉沢組)	×	×
2017172	島瀬瀬遺跡623	公共(県)	圃場整備		西蒲区	12/8~4/5	委託(吉沢組)	×	○
2017173	下新田遺跡573	公共(県)	圃場整備		西蒲区	11月着工	委託(吉沢組)	-	-
2017174	日本遺跡398	民間	個人住宅		江南区	7/18	委託(吉沢組)	×	○
2017175	仲赤切遺跡572	公共(県)	圃場整備		西蒲区	12/4	鎌山えりか	×	○
2017176	上郷D遺跡781	民間	宅地造成		江南区	9月中旬着工	鎌山えりか	-	-
2017181	西江浦遺跡150	公共(県)	圃場整備		秋葉区	11/7	委託(吉沢組)	×	○
2017182	細池寺道上遺跡151	公共(県)	圃場整備		秋葉区	10/25~3/24	委託(吉沢組)	×	○
2017183	砂崩上ノ山遺跡401	民間	個人住宅		江南区	9/11	委託(吉沢組)	×	×
2017192	近世新潟町跡575-18	民間	保育施設		中央区	9/16~10/6	委託(吉沢組)	×	×
2017199	神明社裏遺跡19	公共(市)	道路		江南区	10/12	委託(吉沢組)	×	×
2017201	山水戸遺跡112	民間	集合住宅		東区	9/5~12/18	委託(吉沢組)	×	×
2017202	塚ノ山遺跡407	民間	個人住宅		江南区	9/22	委託(吉沢組)	×	×
2017203	近世新潟町跡575-19	公共(市)	下水道		中央区	7/21~10/5	委託(吉沢組)	×	○
2017204	旧新潟税関跡788	公共(市)	文化財施設		中央区	3/22-29-30	朝岡政康	×	×
2017205	菖蒲塚古墳625	民間	墓石		西蒲区	11/28-30	朝岡政康	×	×
2017206	菖蒲塚古墳625	民間	墓石		西蒲区	10/22-25	朝岡政康	×	×
2017210	家掛遺跡748	公共(県)	圃場整備		西蒲区	10/27~11/14	委託(吉沢組)	×	×
2017211	亀田道下遺跡768	公共(市)	下水道		江南区	3/22~3/30	委託(吉沢組)	×	×
2017212	道上荒田遺跡548	公共(県)	圃場整備		西蒲区	12/4-5	委託(吉沢組)	×	○
2017214	宅地遺跡783	民間	宅地造成		秋葉区	10/24~11/9	委託(吉沢組)	×	×
2017218	亀田道下遺跡768	民間	用水路		江南区	3/1	委託(吉沢組)	×	×
2017219	中新田久保遺跡208	公共(市)	水道		秋葉区	-	委託(吉沢組)	×	×
2017220	中新田久保遺跡208	公共(市)	水道		秋葉区	11/30~12/20	委託(吉沢組)	○	○
2017221	中新田久保遺跡208	公共(市)	水道		秋葉区	10/16	委託(吉沢組)	×	○
2017222	前畑遺跡786	民間	宅地造成		秋葉区	12/18	委託(吉沢組)	×	×
2017225	道下遺跡99	民間	宅地造成		西区	10/6	委託(吉沢組)	×	×
2017226	寺山遺跡20	民間	寺社		東区	10/10~12	委託(吉沢組)	×	×
2017231	森田遺跡218	民間	個人住宅		秋葉区	8-8	委託(吉沢組)	×	×
2017233	新田郷南遺跡775	公共(市)	下水道		江南区	12/19	鎌山えりか	×	×
2017234	新田郷南遺跡775	民間	集合住宅		江南区	3/5	鎌山えりか	×	×
2017239	程島船跡168	民間	個人住宅		秋葉区	12/11-12	委託(吉沢組)	×	×
2017242	日本遺跡398	民間	個人住宅		江南区	6/26~7/18	委託(吉沢組)	×	×
2017243	山水戸遺跡112	民間	集合住宅		東区	2/20	委託(吉沢組)	×	×
2017247	迎山遺跡390	民間	個人住宅		江南区	3/26	委託(吉沢組)	×	×
2017248	迎山遺跡390	民間	個人住宅		江南区	3/2	委託(吉沢組)	×	×
2017249	原遺跡126	民間	個人住宅		秋葉区	3/1	委託(吉沢組)	○	○

2 平成29年度の事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会の概要

(1) 上郷D遺跡 第1次調査 (2017126)

所在地 新潟市江南区横越中央五丁目3476番 外
 調査の原因 宅地造成 (民間事業)
 調査期間 平成29年5月30日～6月1日 (3日間)
 調査面積 91.6㎡ (調査対象面積3,222.0㎡)
 調査担当 諫山えりか
 処置 工事立会

調査に至る経緯 宅地造成に伴い、平成29年4月に江南区建設課より当該地の遺跡の有無について照会があり、その確認を目的に、5月29日付で着手報告を提出し (新歴B第28号の4)、試掘調査 (2017126) を実施した。

位置と環境 調査地点は阿賀野川の自然堤防左岸に位置し、現況は宅地・水田・畑である (図1)。畑部分は標高5.0m前後と高く、水田部分は標高4.5m前後である。周囲には古代・中世の遺跡が点在し、北東約410mには下郷南遺跡、南東約75mには上郷北遺跡、西約170mには横越館跡などがある。

概要と層序 トレンチを10か所設定した (図2)。基本層序はI層:表土・耕作土、II a～c層:粘土、III a・b層:粘質細砂、IV a・b層:粘土～粘質シルト、V a～c層:粘質シルト、VI a～c層:粘土、VII a～e層:シルト質粘土～細砂混粘質シルトである。遺物包含層は2層確認され、上層がV a層:暗灰褐色粘質シルト (中世)、下層がVI c層:暗灰色粘土 (古代) である (図3)。

検出遺構 7Tで性格不明遺構1基、9Tでピット1基を検出した。これらはVI c層下で検出されていることから古代に属する。

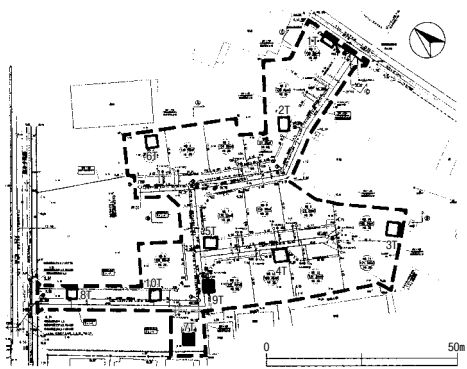


図2 トレンチ位置図 (1/2,000)

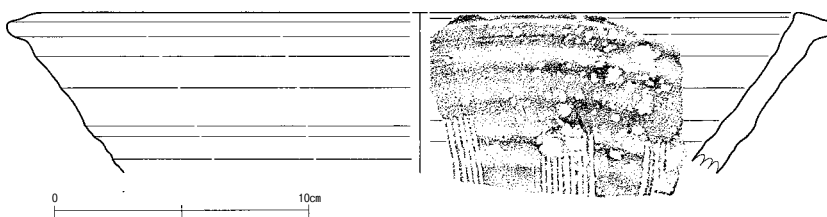


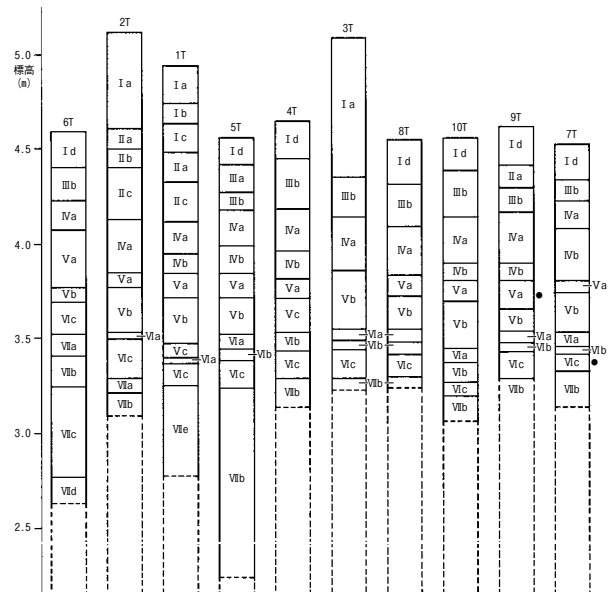
図4 遺物実測図 (1/3)



図1 調査位置図 (1/10,000)

出土遺物 7T下層から古代土師器66点 (破片数)、9T上層から吉岡編年IV 2期 [吉岡1994] の珠洲焼播鉢1点 (図4) が出土し、うち1点を図化した。なお、出土した土師器は小片で、図示し得ず時期も明瞭でない。

まとめ 試掘調査の結果、古代の遺構・遺物、中世の遺物を検出し、遺物包含層が良好な状態であることが確認され、「上郷D遺跡」として周知化した。調査成果を基に協議した結果、宅地造成工事での下水道管理設に伴う掘削では遺跡に与える影響が軽微であると判断し、工事立会での対応とした。 (相澤裕子)



基本層序
 I層: 表土・耕作土 a: 褐色土 (畑耕作土) b: 灰褐色土 c: 灰褐色土 礫大礫混入 d: 暗灰褐色粘土 (水田耕作土)
 II層: 粘土 a: 灰褐色 粘性・しまり○ c: 淡褐色 粘性・しまり○
 III層: 粘質細砂 a: 褐色 粘性・しまり○ b: 黄褐色 粘性・しまり○
 IV層: 粘土～粘質シルト a: 灰褐色細砂混 粘性・しまり○ b: 黄灰褐～灰色 粘性・しまり△
 V層: 粘質シルト a: 暗灰褐色 粘性・しまり△ 中世遺物包含層 b: 淡褐色 粘性・しまり○ c: 青灰色 粘性・しまり○
 VI層: 粘土 a: 暗灰褐色 粘性・しまり△ b: 灰色 粘性・しまり△ c: 暗灰色 粘性・しまり△ 古代遺物包含層
 VII層: シルト質粘土～細砂混粘質シルト a: 灰色シルト質粘土 粘性・しまり○ b: 灰白色細砂質粘土 粘性・しまり△ 古代遺構確認面 c: 灰色粘質シルト 粘性・しまり△ d: 灰白色細砂質シルト 粘性・しまり△ e: 青灰色粘質砂 粘性・しまり○
 ●: 遺物出土層

図3 土層柱状図 (1/40)

(2) 中黒山遺跡 第3・4次調査(2017121・2017155)

所在地 新潟市北区黒山甲2794番 外

調査の原因 個人住宅建設(民間事業)

調査期間 平成29年5月18日(1日間・2017121)

平成29年8月4～10日(5日間・2017155)

調査面積 56.6㎡(調査対象面積769.0㎡・2017121)

36.7㎡(調査対象面積769.0㎡・2017155)

調査担当 潮田憲幸

処置 工事立会

調査に至る経緯 平成29年5月に歴史文化課へ宅地造成の協議があり、同年5月15日付で報告して(新歴B第37号の2)確認調査を実施した(第3次・2017121)。その後、同住宅における土間の施工については保護層の確保が困難なため、同年8月1日付で報告し(新歴B第37号の11)、追加の確認調査を実施した(第4次・2017155)。

位置と環境 新砂丘I-2南麓に立地する。昭和59年の分布調査で中世陶磁器片が採集され、周知化された。調査区は遺跡範囲の南端にあたり、現況は畑及び宅地である(図1)。標高は2.5～3.0mを測り、北から南へ緩い下り勾配となる。同砂丘列上に立地する主な遺跡としては、北東約300mに縄文時代前期後半と古墳時代初頭の土器が採集された上黒山遺跡、南西約1kmには弥生時代中期から古墳時代前期を主体とする椋C遺跡など、縄文時代から中世の遺跡が点在する。

概要と層序 第3次調査で4か所(1～4T)、第4次調査では2か所(5・6T)のトレンチを設定した(図2)。基本層序は、I層：黒色腐植細砂(表土)、II層：黒褐色腐植細砂、III層：暗褐色腐植中粒砂、IV層：明褐色中粒砂(遺構確認面)で基盤となる砂丘堆積である。I～III層は耕作などによって部分的に攪乱されている。

検出遺構 2・3・5・6Tで掘立柱建物(SB)1棟、土坑(SK)5基、溝(SD)5条、性格不明遺構(SX)7基、ピット(SP)22基をいずれもIV層上面で確認した(図4～7・表1)。ほとんどの遺構で遺物を伴わないため所属時期は明瞭でない。5Tで検出されたSB27は、主軸方向N-10°-Eを向く。梁行長約2m、桁行長不明で、梁間1間、独立棟持柱の掘立柱建物と推測されるが、時期は不明である。また、6Tで検出されたSX19は、竪穴状遺構の一部と推定され、縄文土器1点が出土した。

出土遺物 2TのSD1で縄文土器1点、SD2で時期不明の土師器底部片1点、3Tでは、SK2で土師器小片と鍛冶関連遺物とみられる粘土質溶解物、5TのII層では、内面にハケメが施され、古墳時代と考えられる土師器甕底部片1点、6TのSX19で縄文土器片1点、このほか縄文土器1点を表採した。SX19出土の縄文土器1点



図1 調査位置図(1/10,000)

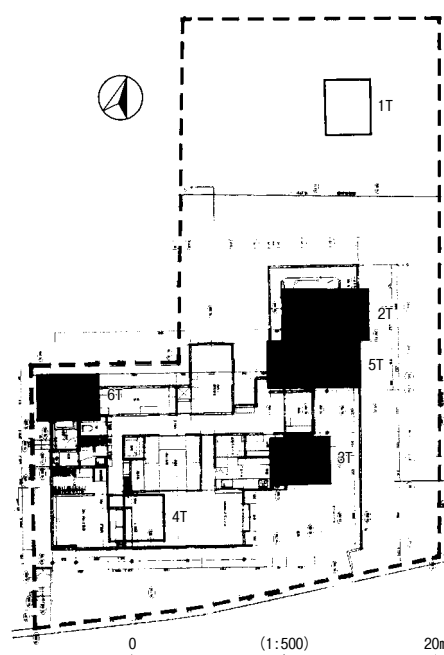
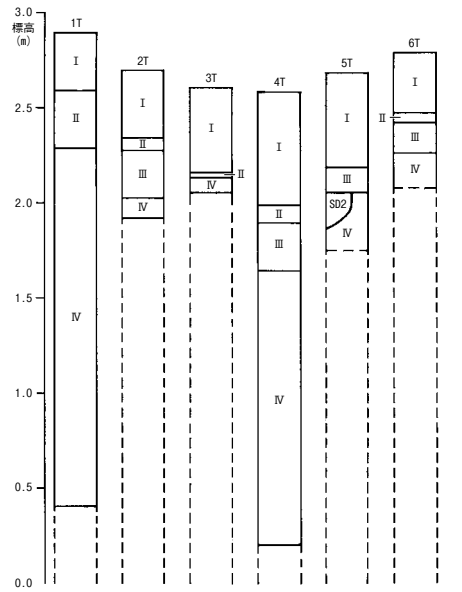


図2 トレンチ位置図(1/500)

を図化した(図6)。単節縄文LRが施される深鉢胴部片である。胎土は精緻で、長石をわずかに含む。時期は縄文時代中期から後期と考えるが明瞭でない。また、ほかの縄文土器2点は、これとは異なる胎土で石英を主体とした破碎粒子を多く含む。

まとめ 調査区全面に部分的に攪乱が見られ、また遺構から出土する遺物も少量にとどまり不明瞭な部分が多いものの、6TのSX19は縄文時代中期から後期、2・3Tの各遺構は古墳時代から古代及びそれ以前と推定される。

今回の調査では、砂丘南麓斜面中位のトレンチにおいて、縄文時代から古代の遺構・遺物が確認された。2回行った調査で検出された遺構はほぼ完掘し、記録も取ることができた。その後の取扱いは、住宅建設で掘削を伴う部分について工事立会とした。(遠藤恭雄・澤野慶子)



基本層序

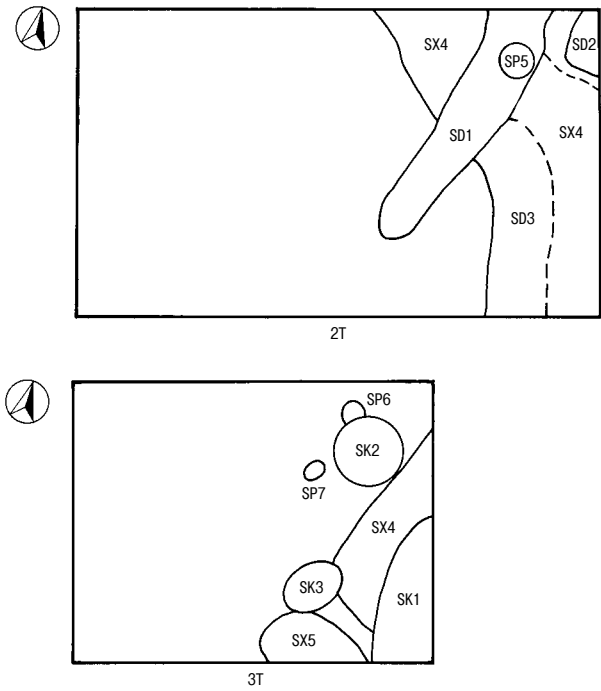
I層：表土 黒色腐植細砂 粘性× しまり× 耕作等により攪乱された土壌（盛土ではない）、表面で遺物が採集される。

II層：黒褐色腐植細砂 粘性× しまり× 炭化物を含むことがある。III層との境界が明瞭で、攪乱を受けている可能性が高い。遺物がわずかに出土する。

III層：暗褐色腐植中粒砂 粘性× しまり× IV層が斑状に混入することがある。黒砂の下部堆積で遺物包含層と思われるが遺物は出土しない。4T以外ではIV層との漸移帯が観察できず、本層も部分的に攪乱を受けている可能性がある。

IV層：暗褐色中粒砂 粘性× しまり× 基盤となる砂丘堆積。上部に酸化による鉄分の凝集が見られる。発埋構造が観察される部分がある。上部が遺構確認面となる。

図3 土層柱状図 (1/40)



遺構覆土

- 5 T
SE12
- 1層：N5/0 (灰) 腐植質細砂 人為影響層 粘性× しまり× 炭化物を多く含む。
- 2層：N5/0 (灰) 腐植質細砂 粘性× しまり× 炭化物をわずかに含む。
- 3層：SP4/1 (暗紫灰) 腐植質細砂 粘性× しまり× 弱い発埋構造あり。
- 4層：SP3/1 (暗紫灰) 腐植質細砂 粘性× しまり× 弱い発埋構造あり。
- 5層：10BG5/1 (青灰) 腐植質細砂・IV層混層 廃棄物のブロック構造人為堆積 粘性× しまり×
- 6層：SB3/1 (暗青灰) 腐植質細砂 粘性× しまり×
- 7層：SPB5/1 (青灰) 還元質細砂・腐植質細砂混層 粘性× しまり× 底部流入土。
- 8層：SPB6/1 (青灰) 還元質細砂・腐植質細砂混層 粘性× しまり×
- SD2
- 1層：中粒砂 粘性× しまり× III層由来の土壌多い。IV層斑状に入る。
- 2層：中粒砂 粘性× しまり× IV層ブロック状に入る。
- SP16
- 1層：2.5Y5/3 (黄褐) 還元質細砂 粘性× しまり× 腐植質細砂を斑状に含む。
- SP17
- 1層：5Y3/1 (オリーブ黒) 腐植質細砂 粘性× しまり× 腐植質細砂を含む。
- 2層：N4/0 (灰) 腐植質細砂 粘性× しまり× III層質土小ブロック混入。
- 3層：2.5GY4/1 (暗オリーブ灰) 腐植質細砂 粘性× しまり× 水酸化鉄斑状に分布。
- 4層：5Y5/2 (オリーブ) 腐植質細砂 粘性× しまり× III層質土小ブロックを多く含む人為堆積層。
- SP24
- 1層：SP2/1 (紫黒) 腐植質細砂・IV層質砂層 ブロック構造の人為堆積 粘性× しまり×
- SP25
- 1層：N2/0 (黒) 腐植質細砂 粘性× しまり× IV層小ブロック斑状を含む。
- 2層：N2/0 (黒) 腐植質細砂・IV層混層 ブロック構造 粘性× しまり×

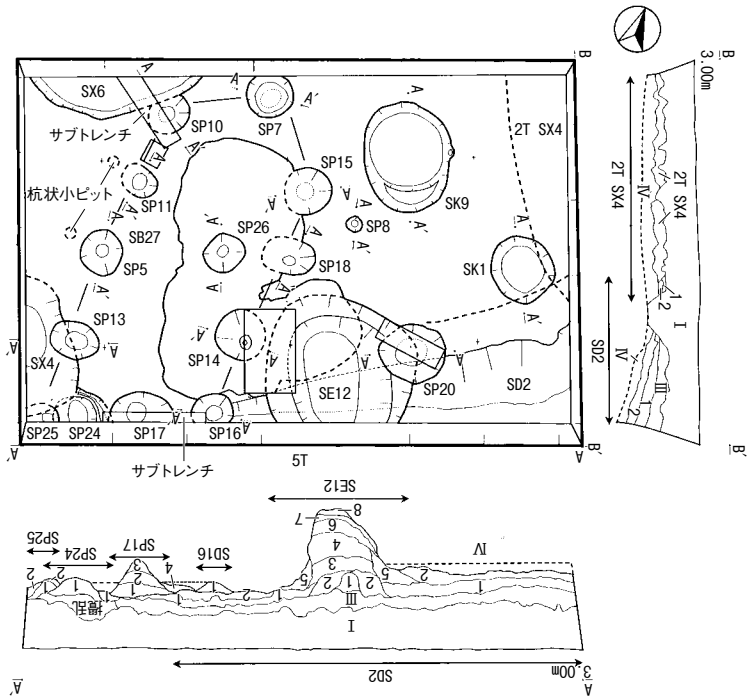
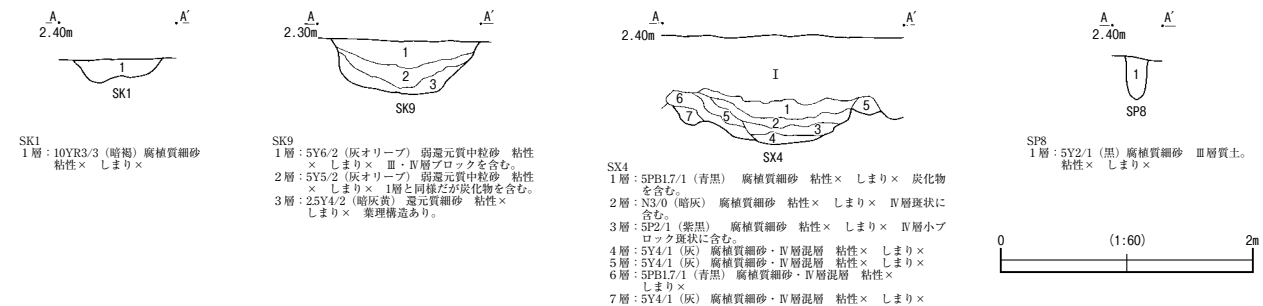


図4 2・3・5Tトレンチ平面図、5T遺構断面図1 (1/80)



SK1
1層：10YR3/3 (暗褐) 腐植質細砂
粘性× しまり×

SK9
1層：5Y6/2 (灰オリーブ) 弱還元質中粒砂 粘性× しまり× III・IV層ブロックを含む。

2層：5Y5/2 (灰オリーブ) 弱還元質中粒砂 粘性× しまり× 1層と同様に炭化物を含む。

3層：2.5Y4/2 (暗灰黄) 還元質細砂 粘性× しまり× 発埋構造あり。

SX4
1層：5PB17/1 (青黒) 腐植質細砂 粘性× しまり× 炭化物を含む。

2層：N3/0 (暗灰) 腐植質細砂 粘性× しまり× IV層斑状に含む。

3層：SP2/1 (紫黒) 腐植質細砂 粘性× しまり× IV層小ブロック斑状に含む。

4層：5Y4/1 (灰) 腐植質細砂・IV層混層 粘性× しまり×

5層：5Y4/1 (灰) 腐植質細砂・IV層混層 粘性× しまり×

6層：5PB17/1 (青黒) 腐植質細砂・IV層混層 粘性× しまり×

7層：5Y4/1 (灰) 腐植質細砂・IV層混層 粘性× しまり×

SP8
1層：5Y2/1 (黒) 腐植質細砂 III層質土。
粘性× しまり×

図5 5T遺構断面図2 (1/60)

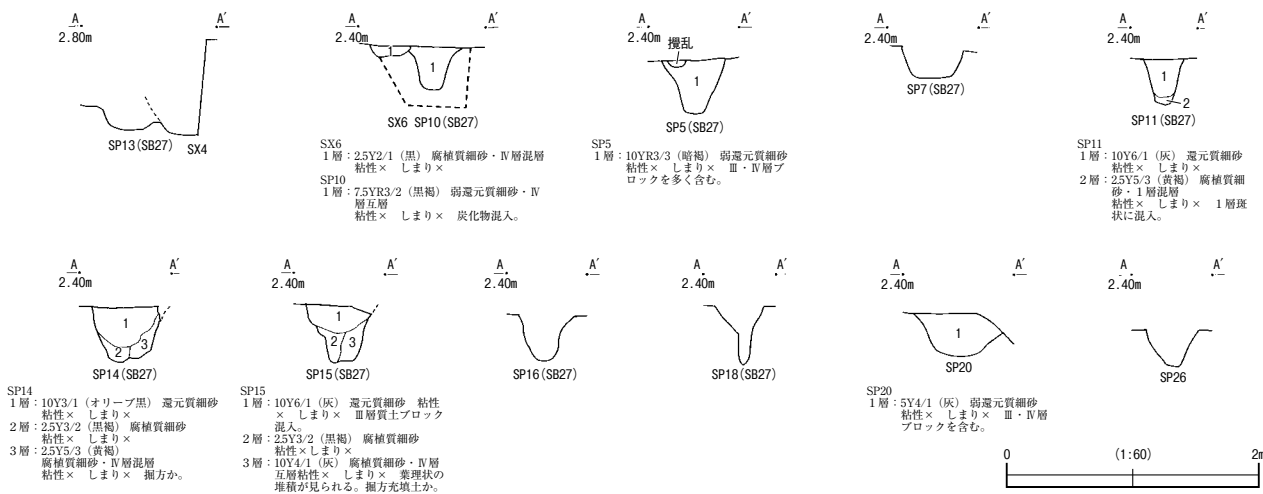


図6 5T遺構断面図3・エレベーション図 (1/60)

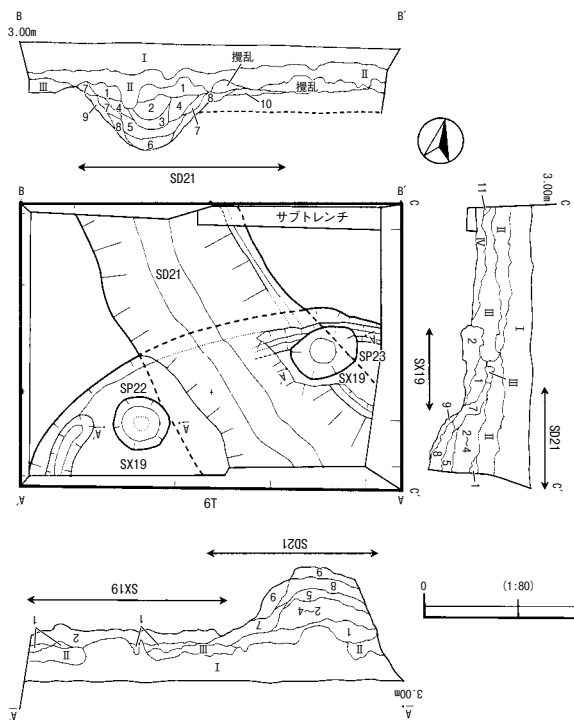


図7 6Tトレンチ平面図 (1/80)、6T遺構断面図・エレベーション図 (1/60)

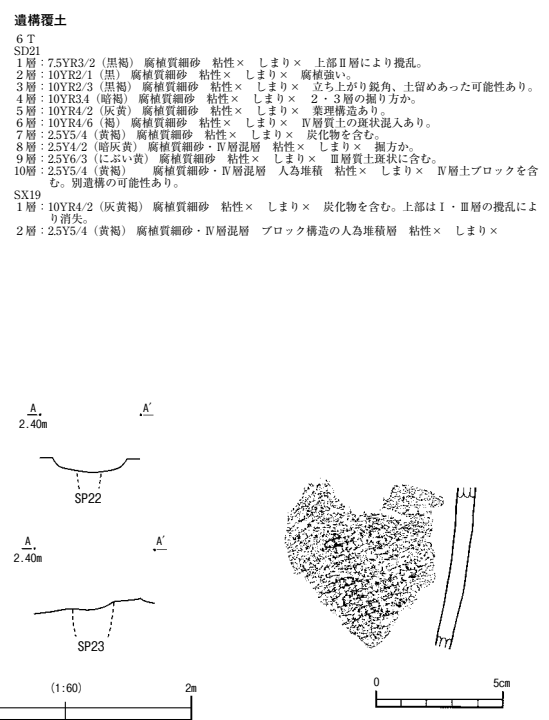


図8 遺物実測図 (1/3)

表1 遺構一覧表

トレンチ	遺構	時代	出土遺物	備考
2	SX 4	SD 1 以前		SD 3 を切る。SD 1、SP 5 に切られる。テラス状。SD 3 付帯遺構か。
2	SD 1	古代以前か	縄文土器	SX 4、SD 3、SP 5 を切る。SD 2 と同時期か。遺物は流れ込みと推定。
2	SD 2	古代以前か	土師器	SD 1 と同時期か。
2	SD 3	SD 1 以前		SX 4、SD 1 に切られる。SX 4 と同一遺構か。
2	SP 5			SX 4 を切る。SD 1 に切られる。
3	SK 1			SX 4 を切る。井戸か。SK 2・3 と同時期か。深さ58cm。
3	SK 2	古代か	土師器・鍛冶関連遺物	SP 6 を切る。SK 1・3 と同時期か。深さ75cm。
3	SK 3			SX 4・5 を切る。SK 1・2 と同時期か。深さ85cm。
3	SX 4			SK 1・3 に切られる。SX 5 と同時期か。
3	SX 5			SK 3 に切られる。SX 4 と同時期か。
3	SP 6			SK 2 に切られる。
3	SP 7			
5	SE12			SD 2、SP20 を切る。SX 3 に切られる。3 時期あり。SD 2 とセットか。
5	SK 1			
5	SK 9			
5	SX 3			SE12、SP14~16・18・26 を切る。底面凹凸激しい。
5	SX 4			SP13・25 を切る。
5	SX 6			SP10 を切る。
5	SD 2			SP16・17・20・24 を切る。SE12 に切られる。2 時期あり。SE12 とセットか。
5	SP 5			SB27
5	SP 7			SB27

トレンチ	遺構	時代	出土遺物	備考
5	SP 8			
5	SP10			SB27
5	SP11			SB27
5	SP13			SX 4 に切られる。SB27
5	SP14			SX 3 に切られる。SB27
5	SP15			SX 3 に切られる。SB27
5	SP16			SX 3、SD 2 に切られる。SB27
5	SP17			SD 2 に切られる。SB28
5	SP18			SX 3 に切られる。SB27
5	SP20			SE12、SD 2 に切られる。SB28
5	SP24			SD 2、SP17・25 を切る。
5	SP25			SX 4、SP24 に切られる。SB27
5	SP26			SX 3 に切られる。SB28
5	SB27			SX34、SD 2、SP24 に切られる。主軸：N-10°-E SP 5・7・10・11・13-16・18・25 で構成。
5	SB28			SE12、SX 3、SD 2、SP24 に切られる。 SP17・20・26 で構成
5	SP29			SB27 の付帯遺構か。未掘削。
5	SP30			SB27 の付帯遺構か。未掘削。
6	SX19	縄文時代か	縄文土器 (13 層)	SD21 を切る。周溝状の溝あり。覆土上部は削平を受け、消失。
6	SD21			SX19、SP23 を切る。2 時期あり。
6	SP22			SX19 を切る。SD21 に切られる。SX19 に付帯する可能性あり。一部掘削。
6	SP23			SX19 に付帯する可能性あり。一部掘削。

(3) 葛塚遺跡 第3次調査 (2017161)

所在地 新潟市北区葛塚字上大口3400番17

調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成29年7月11・12日 (2日間)

調査面積 16.2㎡ (調査対象面積249.29㎡)

調査担当 諫山えりか

処 置 工事立会・慎重工事

調査に至る経緯 1997年の本発掘調査 (1997005) では明確な遺構は確認されなかったが、古墳時代を中心とする多くの土器のほか「朱塗り線刻人物画土器」や縄文土器、勾玉、管玉などが出土している〔関1999〕。

個人住宅建設に伴い『法』93条の届出が提出された (平成29年6月30日付)。基礎工事内容は、布基礎部分を幅50cm、深度45cmで掘削し、柱状改良を73か所 (直径50cm、長さ5.5m) 行う計画であった。取扱いを決めるため、同年7月10日付で着手報告を提出し (新歴B第101号の3)、確認調査を実施した。

位置と環境 葛塚遺跡は福島潟から西へ約1.5km、新井郷川右岸の標高約2.0mの自然堤防上に立地する。また、東側から北側にかけては旧大口川の河道があり、本遺跡付近はその蛇行域にあたる。

調査地点は遺跡範囲の北西部に位置する。現地標高は2.7m前後である。現況は住宅地となっている (図1)。

概要と層序 トレンチを2か所設定した。基本層序はⅠa～d層：表土・埋土 (ゴミ混)、Ⅱa・b層：灰色砂質土、Ⅲa～e層：灰黄色～暗灰褐色砂質粘土 (遺物包含層)、Ⅳa・b層：灰色～明青灰色粘土である (図2)。

検出遺構 遺構は検出されなかった。

出土遺物 1Tで遺物包含層が確認され、古墳時代の土師器を中心に、古代の土師器、砥石がコンテナ1箱分出土した。なお、2Tでは遺物包含層は確認されず、表土から遺物が出土したのみである。

1Tから出土した遺物の一部を図化した (図3)。各遺物の出土層位は、1がⅠa層、2・3がⅢb層、4～9がⅢc層、10～15がⅢd層、16～18がⅢe層である。

1は底部有孔鉢の底部。2はロクロ土師器で無台碗と推測する。3は砥石。4・5は高杯脚部で、4が柱状であるのに対し、5はハの字状の形態。6は須恵器模倣杯で、頸部は括れて段を有し、口縁部は外側上方へのびる。内面は横位の丁寧なヘラミガキ調整で、黒色処理されている。7は壺の底部。8・9は土師器の甕で、9は頸部の屈曲が弱く、最大径を体部にもつ。口縁部は端部を外方へ摘みながらヨコナデを行っている。10は小型丸底壺で、底部は径の小さい平底である。全体的に粗製である。11は高杯脚部。12～14は甕である。15は砥石。16は土

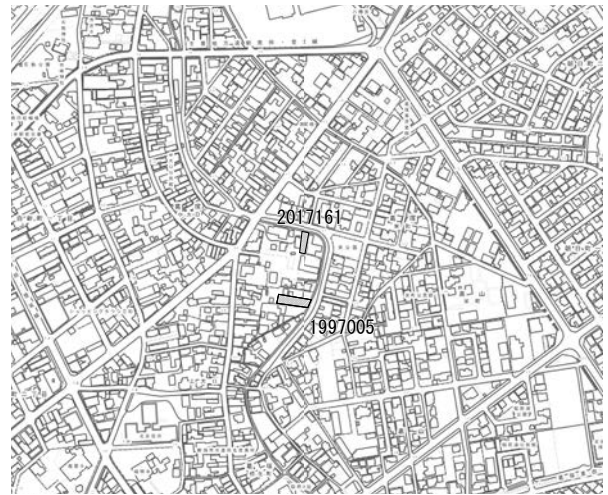


図1 調査位置図 (1/10,000)

師器杯の口縁部破片で、端部は摘まれ内面が内斜する。内外面とも横位のヘラミガキ調整で、内面は黒色処理されている。17は口縁部の大半を欠損する。須恵器模倣杯と推測され、頸部で段を有し、口縁部が外反してのびる。

土器の年代については、5・13が古墳時代前期、4・10～12が古墳時代中期、6・9・16・17が古墳時代後期頃と考える。

まとめ 上記年代観が正しければ、Ⅲd層より下層のⅢe層出土土器の方がより新相の土器を含むことから、層位的に新旧関係の逆転現象が認められることになる。南方約50mに位置する1997年の本発掘調査においても同様の状況が確認されており、その要因として、人為的な土砂の移動あるいは水害や河川の影響で微高地の土砂が崩れて堆積した可能性が指摘されている〔関1999〕。本報告事例についても同様の要因が考えられる。

取扱いについては、駐車場及び管敷設の掘削時に遺跡への影響の有無を確認するため工事立会を行うこととし、それ以外の遺跡への影響がほぼない、または遺跡への損傷の恐れのある掘削が小規模にとどまるものについては慎重工事とした。 (相田泰臣)



1T 土層断面 (北から)

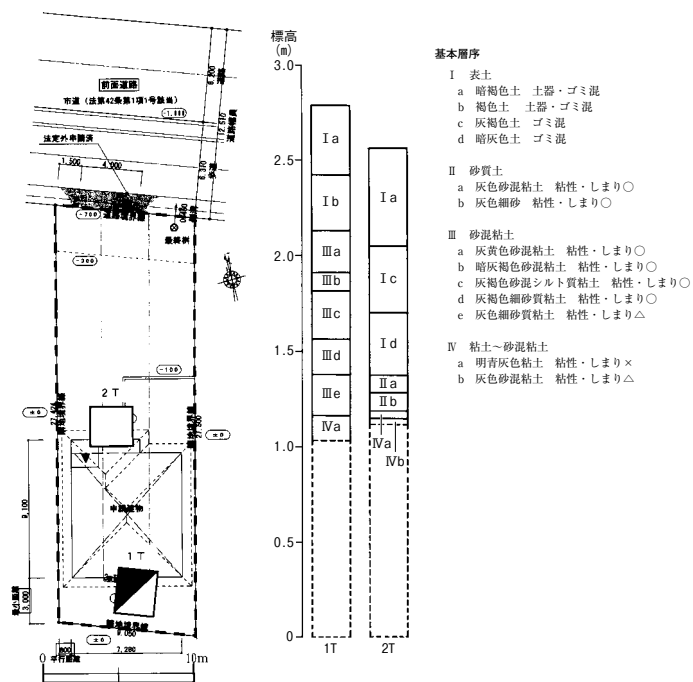


図2 トレンチ位置図 (1/500)・土層柱状図 (1/40)

表1 出土遺物層位一覧

出土位置			出土遺物	備考
トレンチ	層	深度		
1 T	I a	GL-0.0~0.4m	古墳時代土師器	近現代陶磁器混じる
	III b	GL-0.9m	古墳時代土師器・ 古代土師器・ 砥石	
	III c	GL-1.0~1.2m	古墳時代土師器	
	III d	GL-1.3~1.4m	古墳時代土師器・ 砥石	
	III e	GL-1.5~1.6m	古墳時代土師器	
2 T	I c	GL-0.5m	古墳時代土師器	近現代陶磁器混じる

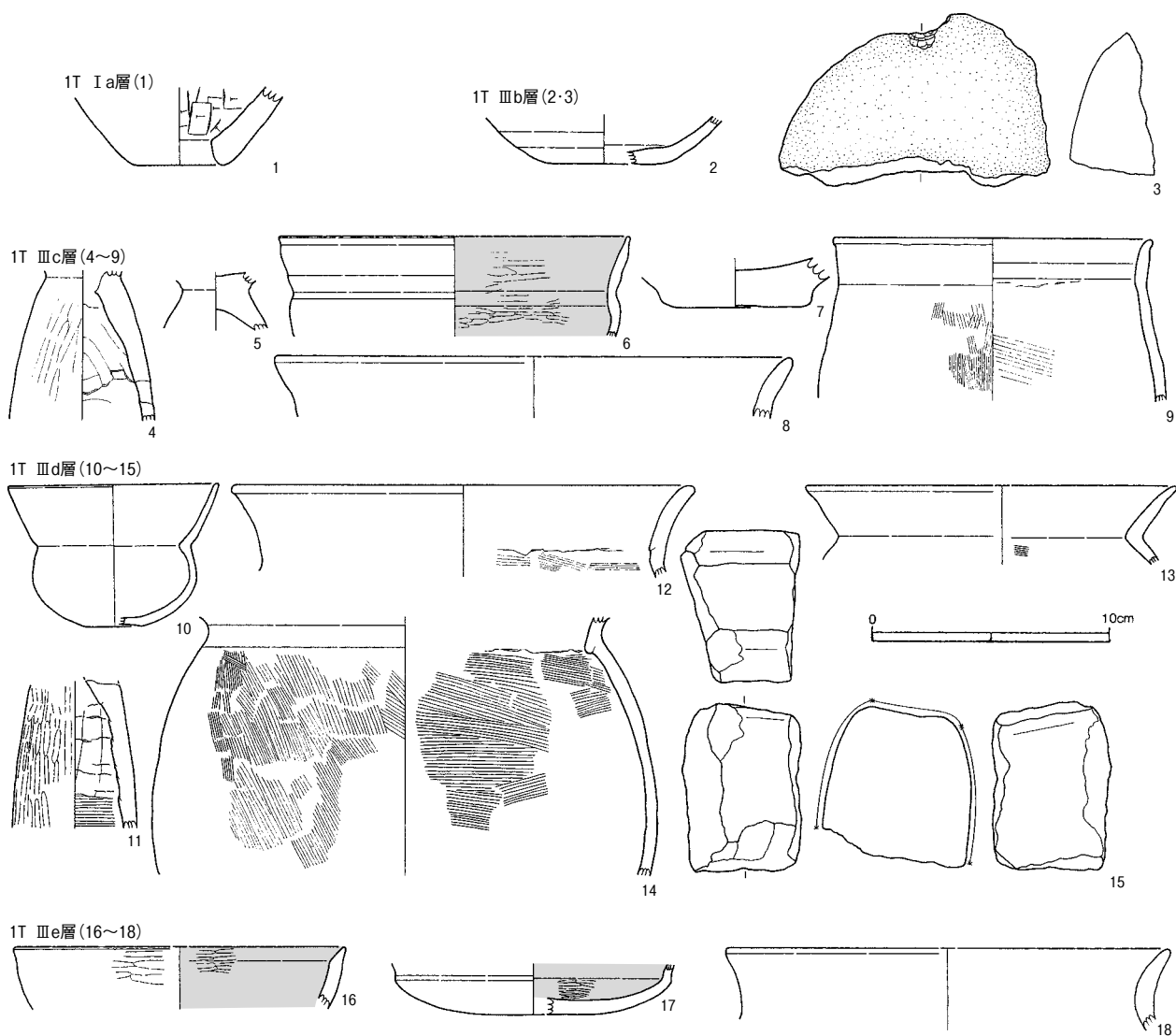


図3 遺物実測図 (1/3)

(4) 仲歩切遺跡 工事立会 (2016191・2017175)

所在地 新潟市西蒲区道上八幡浦664番地 外
 調査の原因 道上地区県営圃場整備事業（公共事業）
 調査期間 平成28年10月11日～
 平成29年2月3日（2016191・29日間）
 平成29年12月4日（2017175・1日間）
 調査面積 約86.1ha（2016191調査対象面積）
 約14.1ha（2017175調査対象面積）
 調査担当 諫山えりか

調査に至る経緯 遺跡は県営圃場整備事業道上地区に伴う分布調査で平成15年に発見された。平成21年に事業予定地内全域を対象に確認調査が行われ、北東から南西方向に細長く延びる奈良・平安時代を中心とする遺跡である事が確認された。その後、同事業に伴う確認調査や工事立会による埋蔵文化財の調査が毎年実施されている（表1）。そのうち平成26年度に実施された確認調査及び工事立会については、すでに報告している〔龍田2016〕。

平成28年、区画整理及び暗渠排水工事が計画され、新潟県地域振興局より『法』94条の通知が提出された（平成28年7月7日付）。施工区域は、従前の調査結果と工事に先立って実施された表土から包含層までの厚さを確認する簡易な掘削調査（図2-①～⑤部分）によって、遺跡への影響は軽微であると判断され工事立会となった（2016191）。翌年、区画整理の一部について、新潟県地域振興局より『法』94条の通知が提出されたが（平成29年6月21日付）、上記と同じ理由で工事立会となった（2017175）。

位置と環境 中ノ口川左岸の自然堤防上に立地する。現標高は約1.6～2.4mを測り、現況は水田・畑であるが昭和30年代の耕地整理によって旧地形は目視できない（図1）。調査地の北西に道上荒田遺跡、南に万坊江遺跡・万坊院跡など周辺には古代・中世の遺跡が点在する。

概要と層序 これまで仲歩切遺跡で行われた確認調査・工事立会では、遺物包含層は暗褐色～黒褐色粘土層と、その下の青灰色シルト質粘土層の2層が確認されている。また、遺構確認面は上記の下層包含層と青灰色粘土質シルト層上面である。広範囲に及ぶ今回の調査でも、ほぼ同様の層序であった。遺物は、現地表面から0.3～1.0mの深さの暗褐色粘土層（上記上層に相当する）で



図1 調査位置図 (1/40,000)

出土するが、ほとんどはGL-0.3～0.5mと浅い（表2）。

検出遺構 遺構は平成28年度の工事立会で地表面下0.3～0.5mの深さから検出された（図2）。内訳は、2-24号用水路で円形土坑1基と溝状遺構1基、万坊江その2用水路で円形土坑2基と性格不明遺構1基である。用水路部分の工事立会という調査のため、遺構のほとんどは工区外に延びて検出され、工事関係者の好意で可能な限りの記録を取っている。区画整理工事と暗渠排水工事では掘削深度はそれほど深くないため、遺構を掘削して調査することは少ない。なお、万坊江その2用水路工事に伴い壁際に検出された土坑から古代土師器が1点出土しているが、小片で図示し得なかった。

出土遺物 2か年にわたる広範囲の工事であり様々な地点から遺物が出土した。ほとんどが包含層相当層からで、古代土師器・須恵器、黒色土器、土製品、鍛冶関連遺物が出土している。平成28年度に調査された出土遺物の種別と点数は表2のとおりである（平成29年は須恵器1点のみ出土）。そのうち41点を図化した（図3・4）。以下、春日編年〔春日1999・2000など〕を参考に記載する。なお、須恵器は胎土により生産地を推定している。

1は土師器無台椀で、底面には糸切り痕と弧状沈線が認められ底部の立ち上りは明瞭である。2は土師器鉢で、内面にはコゲ、外面にはススが付着する。3は土師器高杯で、高台内面に輪積み痕を明瞭に残しⅡ期と考える。4～13は土師器甕・長甕で、4～6・10・12はハケメ成

表1 仲歩切遺跡調査履歴（調査日順）

調査回数	調査番号	調査原因	調査種別	着手日	終了日	調査担当者	検出遺構	出土遺物	備考
-	-	県営圃場整備事業（道上地区）	分布調査	2004/3/17	2004/3/17	金子優子	-	土師器・須恵器	新発見 〔道録中之口村誌編さん委員会2006〕
	2008285	県営圃場整備事業（道上地区）	工事立会	-	-	-	-	-	
1	2009177	県営圃場整備事業（道上地区）	確認調査	2009/10/1	2009/10/1	立木宏明	土坑・溝状遺構・性格不明遺構	土師器・須恵器・珠洲焼	
2	2011133	県営圃場整備事業（道上地区）	確認調査	2011/10/3	2011/10/3	立木宏明	なし	なし	
	2014178	県営圃場整備事業（道上地区）	工事立会	2015/1/5	2015/2/20	諫山えりか	柱穴・土坑・性格不明遺構	土師器・須恵器・石製品・鉄滓・柱根・焼骨・炭化米ほか	〔龍田2016〕
3	2014179	県営圃場整備事業（道上地区）	確認調査	2014/11/4	2014/11/7	諫山えりか	性格不明遺構	土師器・須恵器・中世土器	〔龍田2016〕
	2016191	県営圃場整備事業（道上地区）	工事立会	2016/10/11	2017/2/3	諫山えりか	土坑・溝状遺構・性格不明遺構	土師器・須恵器・土製品・鉄滓ほか	本書
4	2016257	県営圃場整備事業（打越地区）	試掘調査	2016/10/3	2016/11/21	潮田憲幸	畝状遺構・ピット	古墳時代土器・土師器・須恵器	範囲拡大
	2017175	県営圃場整備事業（道上地区）	工事立会	2017/12/4	-	吉沢組（委託）	なし	須恵器	本書

形の甕である。内面横位、外面には縦位のハケメが施されⅢ期と考える。7はいわゆる谷内Aタイプ〔滝沢ほか2007ほか〕の長甕で、口縁端部が上方につまみ上げられている。8・9はロクロ成形され一部にカキメが残る。7は9世紀代で8・9が9世紀後半の所産と考える。11は外面にカキメの後にV字状に沈線文が施されている。小片のため明瞭でないが、鋸歯状の文様になるのかもしれない。13は長甕の体部片で還元焰焼成により灰色を呈

し、内面には自然釉が付着する。内面は縦位ハケメ、外面にはケズリが施される。14は土師器甌で、内外面ともにロクロ成形が認められる。

15～19は須恵器無台杯である。15は酸化焰焼成で褐色を呈す。16・17は信濃川左岸の窯跡産、18は新津丘陵窯跡産、19は小泊窯跡産で、15～17はⅡ期の所産と考える。20～22は須恵器有台杯である。20は阿賀北の窯跡産、21・22は新津丘陵窯跡産と考える。23～25は須恵器杯蓋

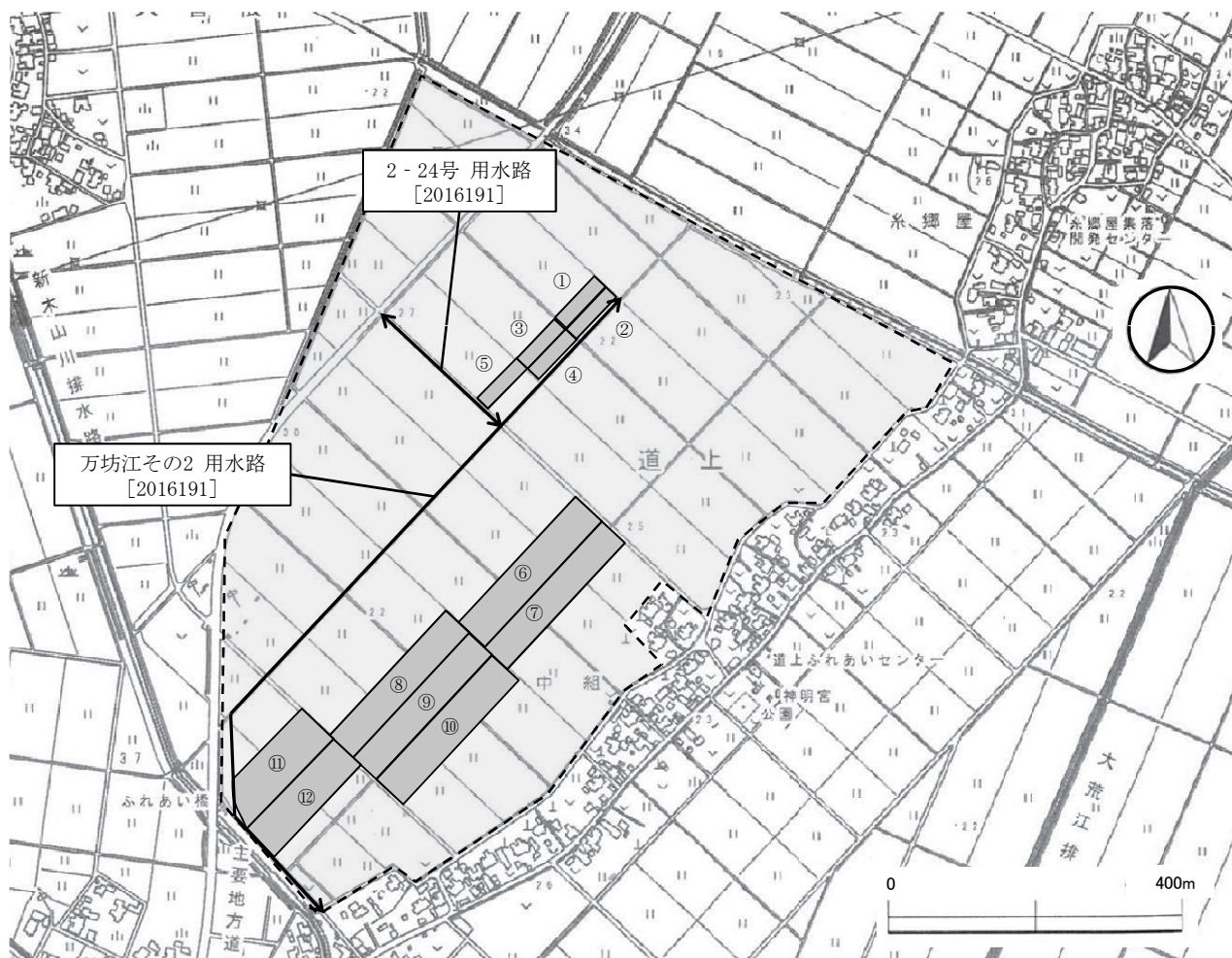


図2 工事立会位置図（網かけ区域は遺物出土地点・1/10,000）

表2 出土遺物集計表

No	路線及び田面No	出土地 (Noは図2に対応)	土師器		須恵器		黒色土器		瓦質土器		土製品		石製品搬入礫		アスファルト		鍛冶関連遺物		備考	
			点数	重さ (g)	点数	重さ (g)	点数	重さ (g)	点数	重さ (g)	点数	重さ (g)	点数	重さ (g)	点数	重さ (g)	点数	重さ (g)		
①	田20	-	1	4					1	50										
②	田19	-	1	3																
③	田17	-	31	114	2	21														
④	田18	-	1	2																
⑤	田14	-										1	347							
⑥	田42-5	-	4	53	2	157														
⑦	田42-4	-	9	27	1	11														
⑧	田43-5	-	100	780	40	846	2	15		1	29	2	44						羽口	
⑨	田43-4	-	76	639	25	724						3	20							
⑩	田43-3	-	1	1								2	7							
⑪	田44-5	-	43	308																
⑫	田44-4	-	101	751	15	201						1	35							
-	2-24号用水路 (1本目)	0.3~0.4m	4	12	1	17				1	125	2	49	1	5					板状土製品
-	2-24号用水路 (2本目)	0.3~0.5m	379	2,901	8	240				2	179	3	50	2	4	5	13			板状土製品・羽口
-	2-24号用水路 (3本目)	0.25m	16	97	2	78						1	6							
-	2-24号用水路 (6本目)	0.3m			1	17														
-	2-24号用水路 (遺構)		1	6																
-	2-24号用水路 (記載なし)	0.3~0.7m	15	228	3	219				1	10									円筒形土製品
-	万坊江その2用水路	0.2~1.0m	18	261	2	8				2	509	1	153							板状土製品・円筒形土製品
-	表採		2	13																
-	(2017175) 田面				1	16														

である。23・24は径が小さく内面に短いかえりが付き、いずれもⅡ期の所産と考える。23の外面上部にはケズリが認められる。25は新津丘陵窯跡産でⅣ1・2期と考える。26・27は須恵器甕で27の内面には車輪文のあて具痕が認められる。26が信濃川左岸の窯跡産で27は小泊窯跡産である。28～32は須恵器壺・瓶類である。28・29は横瓶で隣接する地点から出土しており、同一個体かは明瞭でないが2点とも信濃川左岸の窯跡産と考える。31は短頸壺の蓋で、外面には自然釉が認められる。30は小泊窯跡産で、31は新津丘陵窯跡産と考える。32は壺類の体部片で、外面上部に浅い横位沈線が巡りその下にカキメ、さらに下にはタタキメの後にケズリが施される。Ⅱ期の所産と考える。

33は黒色土器無台碗で、底面は回転糸切り痕が残りⅤ期と考える。34は瓦質土器の片口鉢である。外面の上半部にケズリが施され、外面一部及び割れ口には磨耗痕が残り転用砥石と考える。今回出土した唯一の中世遺物である。内面調整は異なるが、秋葉区大沢谷内遺跡〔細野・伊比ほか2012〕で13～14世紀と報告された類似品が出土している(図版307-423～425・428、図版312-514・515)。

35～37は板状土製品、38・39は円筒形土製品で、いずれもカマド部材の一部である。端部資料である板状土製品の断面形状は、ほぼ円形(35)と方形(36・37)の2種類があり、幅と厚さの比率が異なるようである。側面全面にハケメが施され、胎土には白色の泥岩状粒子を多量に含む点は共通するが、質感や端部形状は異なる。36の端部中央は凹み左右両端は外側へつまみ上げられる。また、35の下端部はやや磨滅しているが、37はハケメが残る。38は内面に横位のハケメ、39は内面に粘土の輪積み痕を明瞭に残し、外面には縦方向にハケメが施される。40は内径3.3cmの羽口である。大部分を欠くが残存している外面にはケズリが施される。41は碗形滓である。

まとめ 仲歩切遺跡を含め近隣で出土するカマド部材は円筒形土製品に限られていたが、今回板状土製品が初めて出土した。また、13～14世紀と考える中世の遺物も特筆される。これまでの調査で本遺跡からは古代(飛鳥・奈良・平安)を中心に古墳時代から中世までの遺物が出土している。今回の調査も概ね同様の結果であるが、上記2点ともに遺跡北部で出土しており、遺跡内及び周辺遺跡との関係を考える上で重要である。

工事立会とは、工事内容等から遺跡への影響が軽微と判断された際の対応である。特に、冬場の水田部は遺跡の立地や工事の実態などを考慮し、慎重な取扱いが求められる。なお、報告にあたり春日真実氏((公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)からご教示いただいた。(龍田優子)



仲歩切遺跡工事立会状況(東から)



2-24号水路遺構検出状況(東から)



2-24号水路遺物検出状況(東から)



万坊江その2水路遺構断面(南西から)

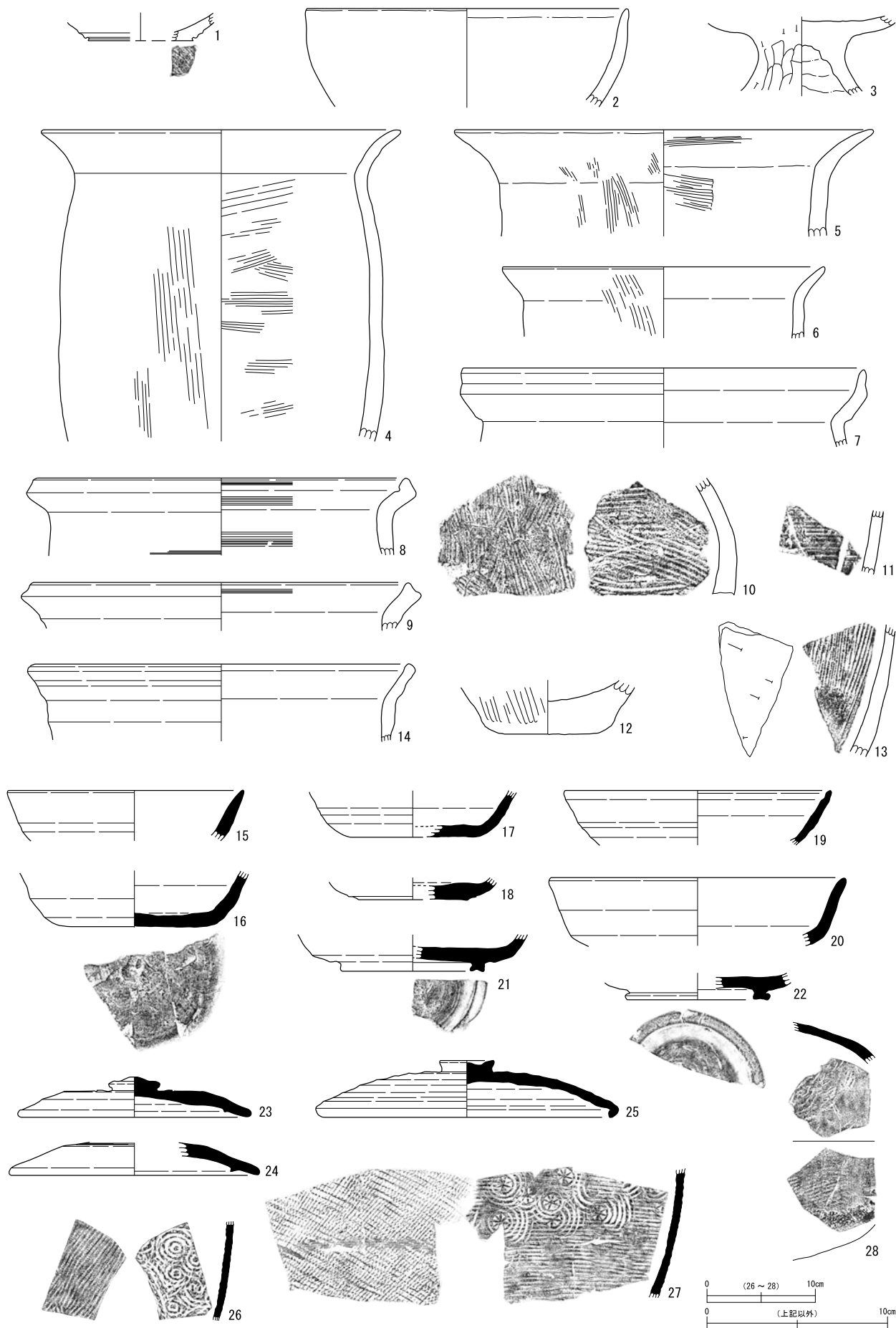


图3 遺物実測図 (1/3 · 1/5)

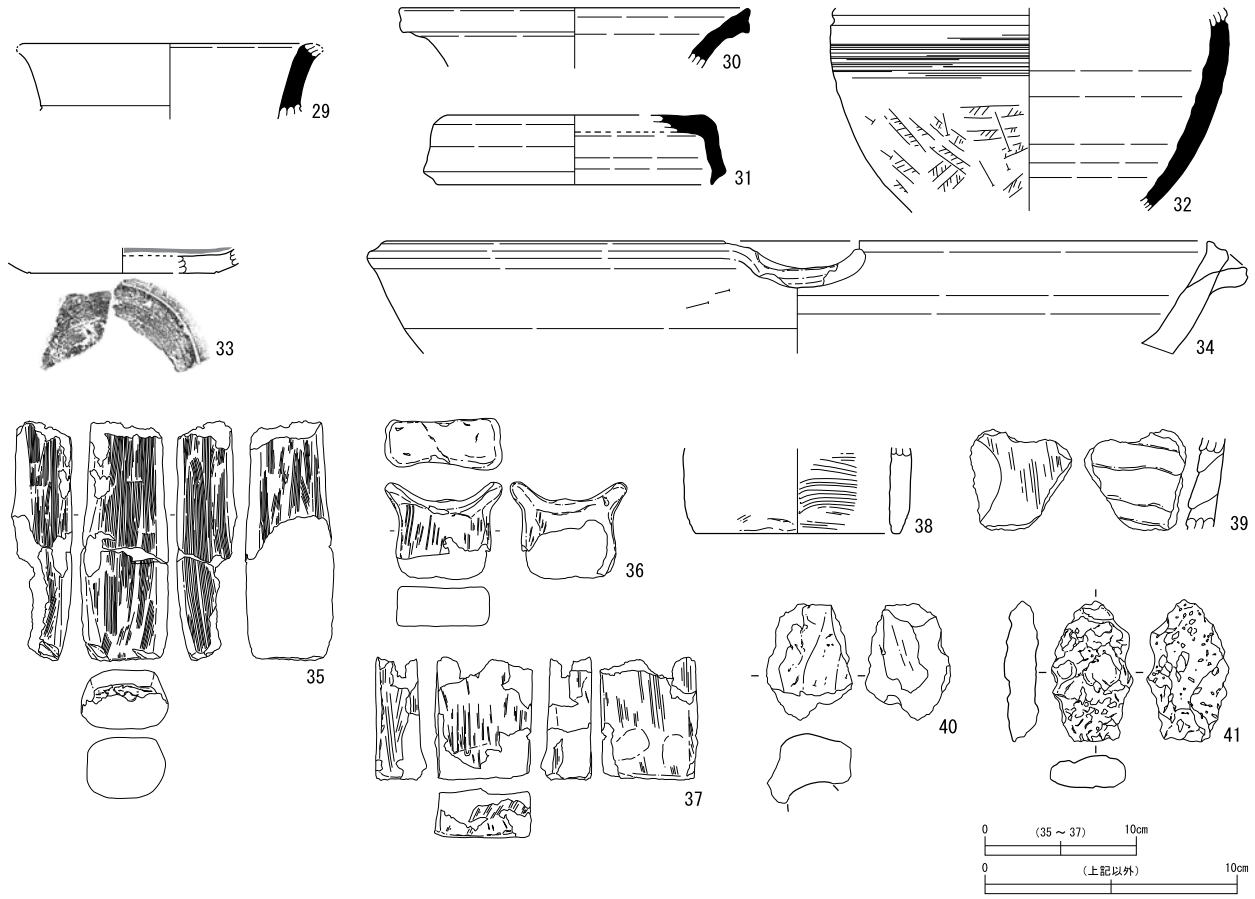


図4 遺物実測図(1/3・1/5)

表3 土器観察表

掲載 No	調査番号	出土位置			時期	種別	器種	焼成	法量 (cm)		調整/付着物など			遺存率		備考
		路線名 など	区割など	GLからの 深度					口径	底径・ つまみ	器高	内面	外面	底面	口縁部	
1	2016191	田44-4	-	-	-	土師器	無台碗	酸化				ロクロナデ	ロクロナデ			
2	2016191	2-24号	-	0.5m	II・III	土師器	鉢	酸化	17.8	(5.8)		ナデ/コゲ	ナデ/スス		2	3
3	2016191	2-24号	2本目	0.5m	II	土師器	高杯	酸化				ナデ	ケズリ・ヘラミガキ			
4	2016191	2-24号	2本目	0.3m	III	土師器	甕	酸化	20.0			ハケメ	ハケメ		14	
5	2016191	2-24号	2本目	0.5m	III	土師器	甕	酸化	23.4			ハケメ	ハケメ		5	
6	2016191	万坊江その2	5-①	0.4m	III	土師器	甕	酸化	18.0			ロクロナデ	ロクロナデ		3	
7	2016191	田43-4	-	-	V	土師器	長甕	酸化	22.4			ロクロナデ	ロクロナデ		4	谷内Aタイプ
8	2016191	田44-4	-	-	VI	土師器	長甕	酸化	20.7			ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ・カキメ		6	
9	2016191	田44-5	-	-	VI	土師器	長甕	酸化	21.0			ロクロナデ・カキメ	ロクロナデ		5	
10	2016191	万坊江その2	5-①	0.4m	III	土師器	甕	酸化				ハケメ	ハケメ			
11	2016191	田44-4	-	-	-	土師器	甕	酸化				ロクロナデ	カキメ・沈線(縮漏状?)			
12	2016191	2-24号	2本目	0.3m	III	土師器	甕	酸化		5.0		ナデ	ハケメ	ナデ	26	
13	2016191	田43-4	-	-	-	土師器	甕	還元				ハケメ	ケズリ			
14	2016191	田42-5	-	-	-	土師器	甕	酸化	21.0			ロクロナデ	ロクロナデ		6	
15	2016191	田44-4	-	-	II・III	須恵器	無台杯?	酸化	12.2			ロクロナデ	ロクロナデ		2	
16	2016191	田43-5	-	-	II	須恵器	無台杯	還元		7.8		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	14	
17	2016191	田44-5	-	-	II	須恵器	無台杯	還元		7.5		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	6	
18	2016191	2-24号	1本目	-	III・IV	須恵器	無台杯	還元		6.0		ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切	9	
19	2016191	田44-5	-	-	-	須恵器	無台杯?	還元	14.9			ロクロナデ	ロクロナデ		2	
20	2016191	田42-4	-	-	III・IV	須恵器	有台杯?	還元	16.6			ロクロナデ	ロクロナデ		3	
21	2016191	田43-4	-	-	-	須恵器	有台杯	還元		8.0		ロクロナデ	ロクロナデ		3	
22	2016191	田42-5	-	-	-	須恵器	有台杯	還元		8.0		ロクロナデ	ロクロナデ			13
23	2016191	2-24号	2本目	0.49m	II	須恵器	杯蓋	還元	12.7	2.8	2.2	ロクロナデ	ロクロナデ・ケズリ		19	かえり有
24	2016191	2-24号	3本目	-	II	須恵器	杯蓋	還元	13.8	9.7	3.7	ロクロナデ	ロクロナデ		4	かえり有
25	2016191	田44-4	-	-	IV	須恵器	杯蓋	還元	16.0	3.0	3.2	ロクロナデ	ロクロナデ		6	36
26	2016191	2-24号	マンホール	0.5m	-	須恵器	甕	還元				あて具	タタキ・カキメ			
27	2016191	田43-4	-	-	-	須恵器	甕	還元				あて具(平行・車輪)	タタキ			
28	2016191	田43-5	-	-	-	須恵器	横瓶	還元				あて具・ロクロナデ	タタキ→カキメ		18	
29	2016191	田43-4	-	-	-	須恵器	横瓶	還元	11.8			ロクロナデ	ロクロナデ			
30	2016191	田43-5	-	-	-	須恵器	壺類	還元	14.0			ロクロナデ	ロクロナデ		6	
31	2016191	田44-4	-	-	-	須恵器	短頸壺蓋	還元	11.0	10.4	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ/楕		3	4
32	2016191	2-24号	マンホール	0.5m	II	須恵器	壺類	還元				ロクロナデ	体上:カキメ・横位沈線 体下:タタキ→ナデ・ケズリ			
33	2016191	田43-5	-	-	IV	黒色土器	無台杯	酸化		7.4		黒色処理	ロクロナデ	糸切		8
34	2016191	田20	北	0.28m	13世紀	瓦質土器	片口鉢	酸化	34.0			ロクロナデ	ロクロナデ・撥痕		3	転用砥石

表4 土製品・鍛冶関連遺物観察表

掲載 No	調査番号	出土位置			種別	器種	法量					調整/付着物等		
		路線名 など	区割など	GLからの 深度			径 (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	内面	外面	端部
35	2016191	万坊江その2	3本目	0.5m	土製品	板状土製品			5.8	4.0	339.0		ハケメ	ナデ
36	2016191	2-24号	1本目	0.5m	土製品	板状土製品		(6.5)	7.9	26	125.0	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	ナデ
37	2016191	2-24号	2本目	0.5m	土製品	板状土製品		(8.1)	6.5	3.4	178.0	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ
38	2016191	2-24号	-	0.5m	土製品	円筒形土製品	8.2				10.0	ハケメ	ナデ	ハケメ・ナデ
39	2016191	万坊江その2	6-⑤	0.4m	土製品	円筒形土製品					170.0	ナデ(輪積み痕)	ハケメ	
40	2016191	田43-5	-	-	土製品	羽口	4.6/3.2(内径)		3.5	2.8	29.0			
41	2016191	田43-4	-	-	鍛冶関連遺物	楕形斧		5.6	3.3	1.3	15.0			

(5) 宅地郷遺跡 第1次調査 (2017189)

所在地 新潟市秋葉区北上新田字宅地郷1840番
1 外

調査の原因 宅地造成 (民間事業)

調査期間 平成29年9月26・27日 (2日間)

調査面積 86.6㎡ (調査対象面積2,407.6㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

調査に至る経緯 宅地造成に伴い、事業者より平成29年9月8日付で埋蔵文化財の事前調査の依頼が提出された。これを受け、平成29年9月25日付新歴B第96号の5で『法』99条1項による発掘調査の着手報告を提出し試掘調査を実施した。

位置と環境 調査地は阿賀野川左岸の自然堤防上に立地し、標高約4.0~4.5mである (図1)。現況は宅地で、同堤防上には上浦B遺跡や結七島遺跡など古代から中世にかけての集落遺跡が点在する。

概要と層序 トレンチを10か所設定した (図2)。基本層序は、I層：表土、II層：暗褐色砂混粘土 (近世遺物含む)、III層：黒褐色~暗灰褐色粘土 (遺物包含層)、IV層：灰~暗灰色シルト質粘土 (IVa層は遺構確認面)、V層：灰褐~青灰色粘質~砂質シルト・細砂である (図3)。

検出遺構 6Tで性格不明遺構 (SX1)、7Tで性格不明遺構 (SX2・3) とピット (Pit4)、8Tで溝 (SD7) とピット (Pit5・6) を検出した。いずれもIVa層上面で検出している。

出土遺物 6T III層から珠洲焼播鉢1点 (図4)、7T III層から古代土師器1点と珠洲焼鉢1点、8T III層から珠洲焼甕1点が出土している。図化した1点は吉岡編年II期 [吉岡1994] と考えられ、外面は研磨具として二次利用されている。

まとめ 古代・中世の遺物が出土し、遺構も検出されたため「宅地郷遺跡」として周知化した。遺跡は調査区外の東から南方向へ広がっていると考えられる。取扱いについては、継続協議後に、工事に伴う掘削では遺跡に与える影響が軽微であると判断されたため、工事立会とした。 (牧野耕作)

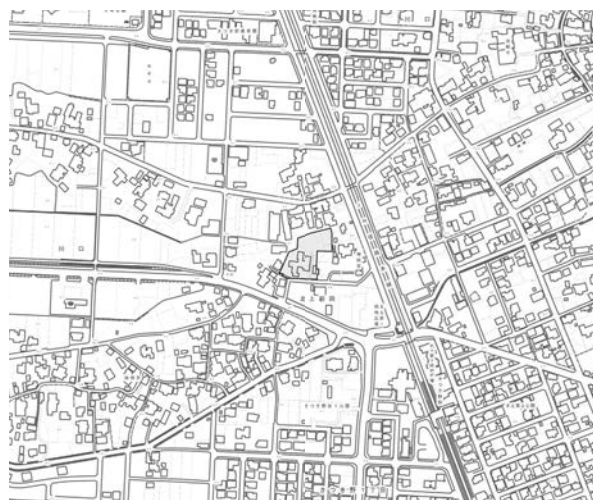


図1 調査位置図 (1/10,000)

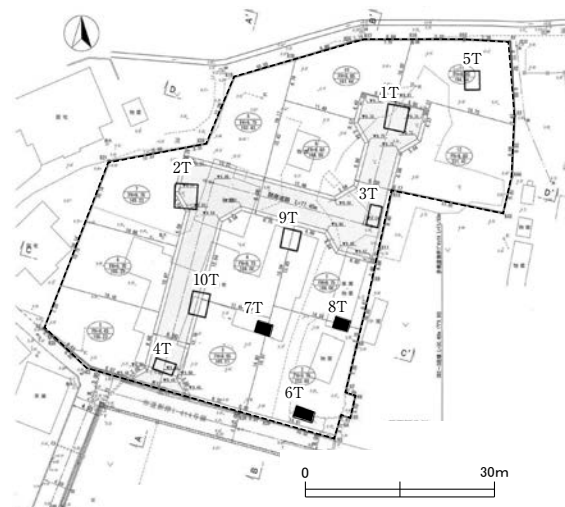
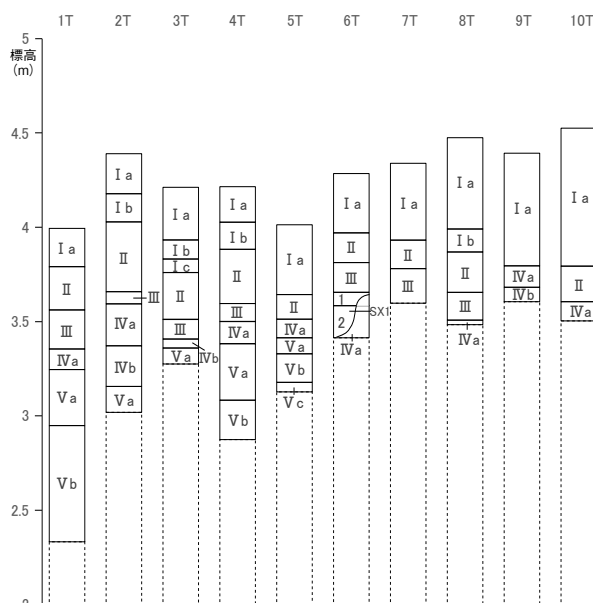


図2 トレンチ位置図 (1/1,200)



基本層序及び遺構覆土
 I層：表土 a：暗褐色土 b：暗灰褐色土 ゴミ混
 II層：暗褐色砂混粘土 粘性○ しまり○、近世遺物含む
 III層：黒褐色~暗灰褐色粘土 粘性○ しまり○ (遺物包含層)
 IV層：シルト質粘土 a：灰~暗灰色 粘性○ しまり○、b：暗灰色 粘性○ しまり○
 V層：粘質~砂質シルト a：灰褐色砂質シルト 粘性△ しまり△ (遺構確認面)、b：青灰色細砂質シルト 粘性△ しまり△
 SX1：1層 黒褐色粘土 粘性○ しまり○
 2層 暗灰褐色粘土 粘性○ しまり○

図3 土層柱状図 (1/40)

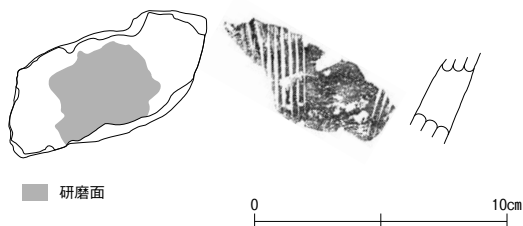


図4 遺物実測図 (1/3)

(6) 山木戸遺跡 第10・11次調査(2017180・2017198)

A 山木戸遺跡 第10次調査(2017180)

所在地 新潟市東区山木戸四丁目403番4 外

調査の原因 集合住宅建設(民間事業)

調査期間 平成29年8月17～18日(2日間)

調査面積 20.0㎡(調査対象面積1,378.6㎡)

調査担当 諫山えりか

処 置 工事立会

調査に至る経緯 集合住宅建設に先立つ事業照会が歴史文化課にあり、事業予定地の一部が遺跡範囲にかかることが判明した。事業者から平成29年7月12日付で『法』93条に基づく届出(新歴B第112号)及び調査依頼(新歴B第112号の2)が提出された。表層改良50cmを予定とのことであり、工事が遺跡に与える影響を見定める目的から、平成29年8月15日付で県教委に着手報告(新歴B第112号の3)を提出し確認調査を実施した(第10次・2017180)。

位置と環境 山木戸遺跡は、阿賀野川以東新砂丘Ⅱ-4列に比定される牡丹山砂丘に位置する。調査区は遺跡範囲の北西端部にあたり、砂丘北側の緩斜面に立地している(図1)。また、平成28年度に調査した第8次調査区(2016150)の北側に隣接し〔相澤2018〕、平成3・6年度に実施された本発掘調査区の西方約140mにあたる〔諫山2004〕。標高は0.3m前後で、現況は宅地である。牡丹山砂丘では、近年、新たな遺跡の発見が相次いでいる。調査区の東方約800mには牡丹山諏訪神社古墳(古墳時代中期)、西方約150mには山木戸居付遺跡(弥生時代後期・平安時代・中世)、山木戸居下遺跡(平安時代)が存在する。

概要と層序 トレンチを3か所設定した(図2)。基本層序は、Ⅰ層:最下層にビニールが混じる盛土、Ⅱa層:暗灰褐～褐色砂、Ⅱb層:黒褐色砂、Ⅱc層:黒褐色粘質砂、Ⅱd層:暗灰色砂、Ⅲ層:黄褐色砂。Ⅱa～d層は遺物包含層で、Ⅲ層は砂丘形成層・遺構確認面である。Ⅲ層上面の標高は北西部の3Tが最も低く、2Tとは約40cmの差がある。遺物包含層は南側の1Tでは認められず、Ⅲ層まで削平が及んでいるとみられる。2Tでは約70cm、3Tでは約100cmの厚さで残存しており、なかでもⅡc・d層はⅢ層上面の標高が低い3Tにのみ存在する(図3)。

検出遺構 2TではⅢ層上面で性格不明遺構1基を、3TではⅡb層中の硬化面でピット1基を検出した。遺構の時期は不明である。

出土遺物 1TではⅠd層より古代の土師器・須恵器小片が各1点出土したのみである。2TではⅡa・b層より古代土器・陶磁器・土製品・石製品・鉄滓が出土

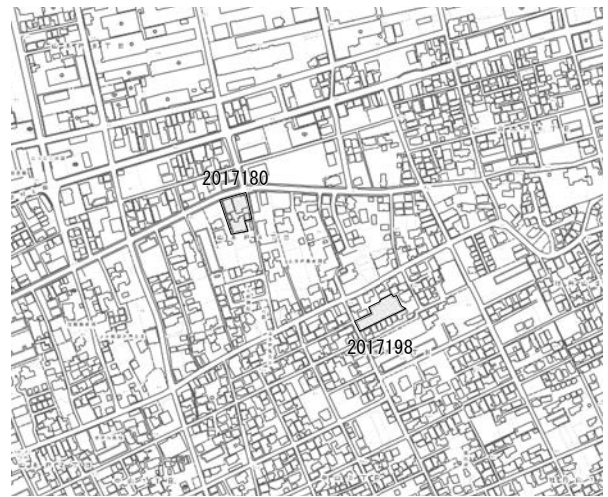


図1 調査位置図(1/10,000)

した。3TではⅡa～d層より古代土器・中世陶磁器・石製品・木製品・金属製品・骨が出土した。接合後の破片数の合計は、古代の土師器426点、同須恵器98点、同黒色土器6点、珠洲焼2点、中国産青磁1点、土錘1点、石製品1点(3TⅡb・c層)、木製品2点(3TⅡd層)、金属製品・鉄滓4点(2TⅡb層、3TⅡa・b層、3T排土)、骨1点(3TⅡb層)である。このうち13点を図化した(図4)。古代土器の出土点数は多いが接合率は低く、全容の判明するものは少ない。器種的には食膳具・貯蔵具・煮炊具があり、土師器ではロクロ使用・不使用のものがともに一定量存在している。須恵器では、無台杯は佐渡小泊窯産とみられる薄手のものではほぼ占められ、杯蓋や壺瓶類、甕などは小泊窯とは異なる産地とみられるものも存在して多様性がある。

1・2・4～8は須恵器である。1は底部から丸みをもって立ち上がるもので、やや深さがあり無台杯か有台杯かもしれない。2は杯蓋で、全体で約4分の1、擬宝珠形のつまみは完存する。焼け歪みがあり口縁端部が一部反りあがる。天井部にはつまみを囲むように弧状の融着痕があり、一方向から濃緑色の自然釉が厚くかかる。融着痕が途切れたところでは自然釉がさらにつまみ側にも及ぶので、別の製品の破片が焼成中に張り付いたか、のせていた別の製品が焼成中に破損したものであろう。3はロクロ使用の土師器無台碗。4は壺蓋とみられ、つまみ接着部がわずかに残る。天井部は回転ヘラケズリによって平坦に仕上げられている。5は薄手の壺瓶類の体部と推定するが、2条の沈線がめぐらされており、金属器写しかもしれない。光沢のある焼成や鈹物片を多く含む胎土の特徴は、後述する第11次調査の図7-5と共通しており、同じ産地の製品であろう。須恵器の甕は体部片しかないが、図化した6～8は比較的大きい破片で特徴のあるものである。柁目状に明瞭な木目がみられる同

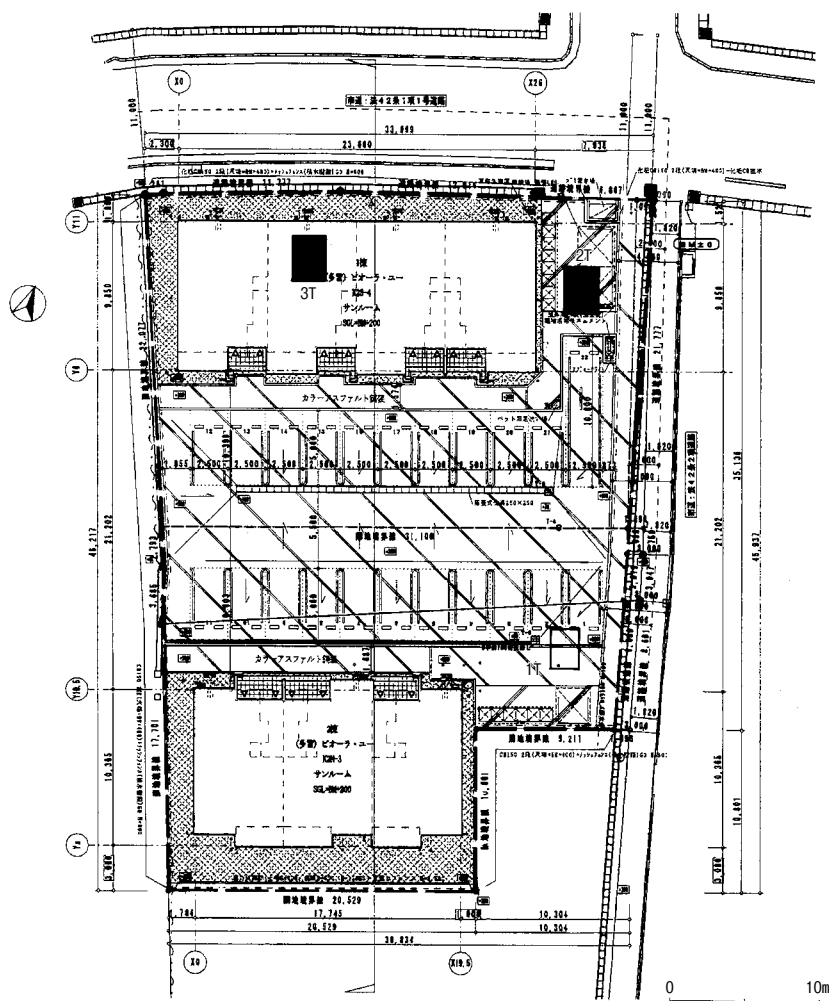
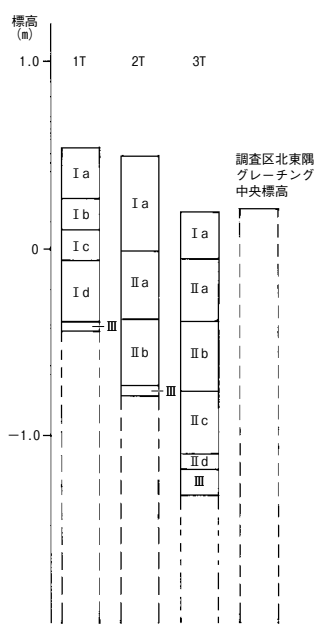


図2 第10次調査トレンチ位置図 (1/500)



基本層序
 I a～d層：黄土 I d層にはビニール泥
 II a層：暗灰色～褐色砂 粘性・しまり◎ (遺物包含層)
 II b層：暗灰色砂 明褐色サビ混 粘性・しまり○ (遺物包含層)
 II c層：黒褐色粘質砂 粘性・しまり△ 木片混 (遺物包含層)
 II d層：暗灰色砂 粘性・しまり△ (遺物包含層)
 III層：黄褐色砂 粘性・しまり△ (砂丘形成層)

図3 第10次調査土層柱状図 (1/40)

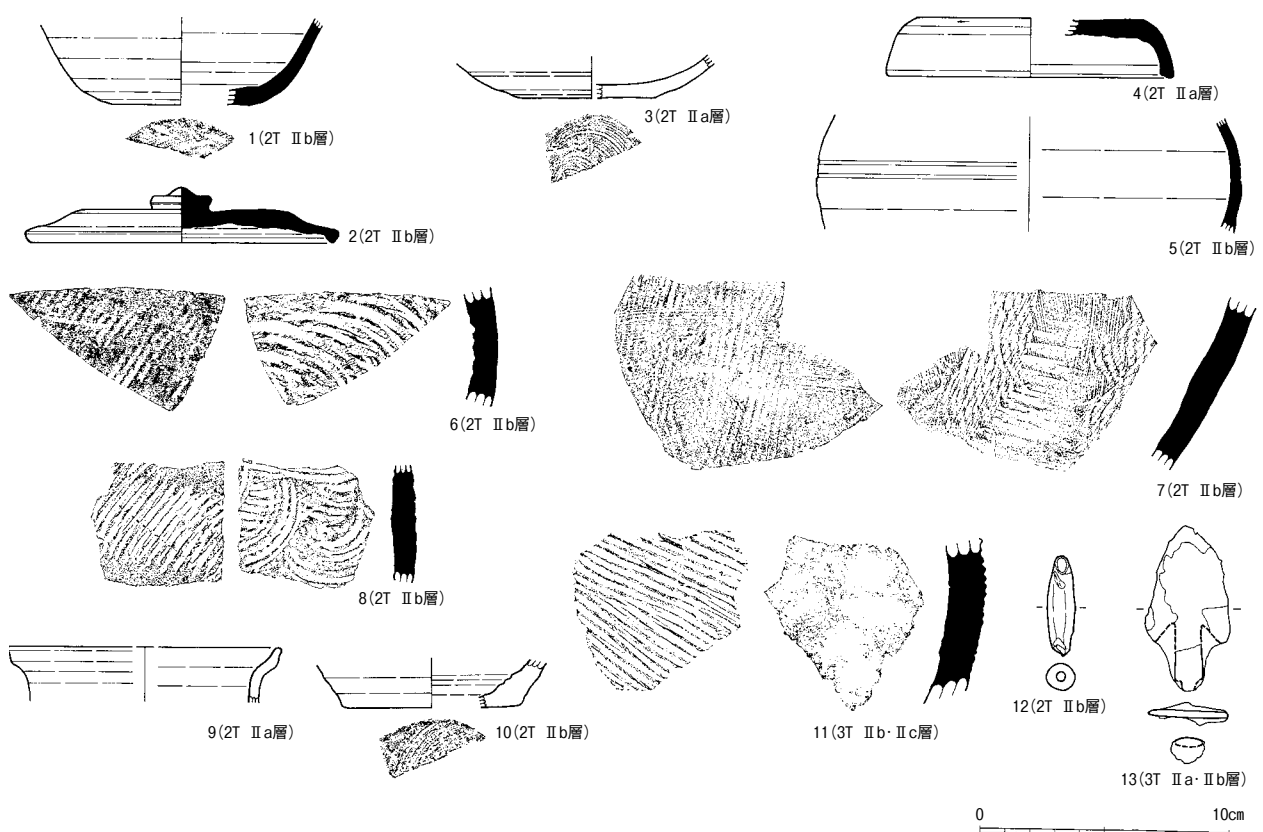


図4 第10次調査出土遺物実測図 (1/3)

心円文の当て具痕を残すものもみられる。9・10はロクロ使用の土師器小甕で、9は口縁部、10は体部から底部である。このほか土師器長甕も存在する。

中世の遺物は中国産青磁碗の小片(2T II b層)、珠洲焼甕頸部、体部片(11)が各1点あるのみである。12は小型の土錘で、今回の調査では1点しかない。木製品は細い板状のものと棒状のものが各1点、金属製品には鉄鏃1点(13)と細長い薄板状のものが1点ある。

まとめ 多く出土した古代土器は、土師器にロクロ使用・不使用のものがあることや佐渡小泊窯産須恵器の存在、壺甕類の多様性から年代的には8世紀～9世紀代のものと考えられる。中世の遺物は残りが悪く詳細な年代的位置づけは不明である。点数も少なく、ある程度中世の遺物が出土した隣接する第8次調査区とは異なる様相といえる。今回の調査では、調査区北半部に遺物包含層が良好に残存することが判明したため、遺跡範囲を拡大した。また、遺跡破壊を伴う表層改良は継続協議後に回避された。取扱いは、集合住宅建設に係る遺跡地内の掘削(ベタ基礎)は概ね施工される盛土範囲内に収まり、保護層を確保できる見通しとなったため、工事立会とした。

B 山木戸遺跡 第11次調査(2017198)

所在地 新潟市東区山木戸五丁目108番5 外

調査の原因 集合住宅建設(民間事業)

調査期間 平成29年10月5日

調査面積 45.0㎡(調査対象面積1,244.7㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 工事立会

位置と環境 調査区は山木戸遺跡南東端に近接する。阿賀野川以東新砂丘Ⅱ-4列に対比される牡丹山砂丘の北側斜面に立地し、標高は0.4m前後で現況は宅地である(図1)。平成3・6年度に実施された本発掘調査区の南方約100mにあたる〔諫山2004〕。

調査に至る経緯 山木戸遺跡の隣接地で集合住宅建設が計画され、事業に先立って事業者から平成29年9月25日付で調査依頼(新歴B第176号)が提出された。これを受けて、同年10月4日付で県教委に着手報告を提出し(新歴B第176号の2)、試掘調査を実施した(第11次・2017198)。

概要と層序 トレンチを6か所設定した(図5)。基本層序は、I a層:盛土、I b層:旧水田耕作土、II a層:灰褐色粘質砂、II b層:暗灰褐色粘質砂、II c層:暗褐～黒褐色砂、III層:黄褐色～淡褐色砂である。II a～c層は遺物包含層で、III層は砂丘形成層・遺構確認面である。III層上面の標高は最北部に位置する1 Tが最も高く、2、3、5、6 Tの順に低くなっていく。6 Tでは

1 Tより85cmほど低い。旧水田耕作土のI b層は6 Tにのみ認められ、調査区の南東部が低湿な土地であったことが分かった(図6)。

検出遺構 3 TではIII層上面でピット3基、5 TではIII層上面で性格不明遺構1基を検出した。遺構の時期は不明である。

出土遺物 1～3・5 Tで古代の遺物が出土した。1 TではII b層より平安時代土師器無台碗1点、2 TではII c層より古代の土師器4点・須恵器2点、砥石1点、3 TではII c層より古代の土師器小甕底部1点・須恵器無台杯底部2点、中国産青磁碗1点、5 TではII b層を主体としてII a～c層から古代の土師器30点・黒色土器2点・須恵器35点が出土した。接合後の出土破片数の合計は古代の土師器36点、同須恵器39点、同黒色土器2点、中世青磁1点、時期不明砥石1点である。土師器はロクロ使用のものを主体に、不使用のものがごくわずかにある。無台碗のほかに煮炊具の小甕・長甕・鍋の破片も出土する。須恵器は無台杯が23点と多く、ほかに有台杯、稜碗、甕がある。このうち5点を図化した(図7)。

1～4は須恵器である。1は無台杯で、底部を左回転のヘラケズリで丁寧調整し、平坦部から異なる傾斜の面を経て体部に移行する器形となる。底部外周から体部下端にかけて回転ヘラケズリする無台杯は8世紀前半に位置づけられている佐渡二見半島窯跡群の苗代の腰窯跡〔坂井ほか1991〕にあり、8世紀前半～9世紀前半の範囲でとらえておくべきものと考えられる。2は無台杯で、底部は回転ヘラキリ後ロクロナデが施され、その後ついたとみられる板状の圧痕が観察できる。外面体部は底部の際を強くロクロナデするため底部との境がくびれた形となる。3は無台杯の口縁部の小片であろうか、口縁直下に沈線状のくぼみがめぐり、端部が玉縁状になる。2・3は佐渡小泊窯産とみられ9世紀後半代のものであろう。4は体部中位に明確な稜をもち稜碗の範疇に入るものであるが、口縁端部を折り曲げてつまみ出す特異なものである。胎土には径2mm程度の白色の粒子を多く含みざらついた感触で、外表面は透明釉をかけたように光沢がある。稜より下は右回転のヘラケズリである。聖籠町山三賀Ⅱ遺跡SI6出土の阿賀北産とされる稜碗〔坂井1989〕が最も近い類例と思われ、折縁杯的な特異な端部の作り、胎土から8世紀後半～9世紀前半の阿賀北産の可能性が高いと考える。5は最も残りのよい土師器無台碗である。9世紀後半のものか。図化していないが、3 T出土の青磁は、中国同安窯系と思われる碗体部の小片で内面に劃花文が施されており、12世紀中～後半のものであろう。

全体として古代では8世紀～9世紀代のものがあり、

中世の貿易陶磁は少ないが12世紀代と考えられ、これまで明らかになっている当遺跡の存続年代に収まるものである。特徴のある仏器的なものがこれまでも知られていたが、4もそのような一例であろう。

まとめ 1～3・5 Tにおいて遺構や遺物が発見されたことから遺跡範囲を拡大した。当調査区は、平成元（1989）年の山木戸遺跡発見に伴って行われた分布調

査では遺物が採集できず、遺跡範囲には含まれなかった地点であったが、約30年を経て遺跡であることが確認された。

取扱いについては、継続協議後に布基礎敷設によって遺跡地内は掘削されるが、掘削幅が狭小であり遺跡に与える影響は軽微であると判断し、工事立会とした。

（奈良佳子）

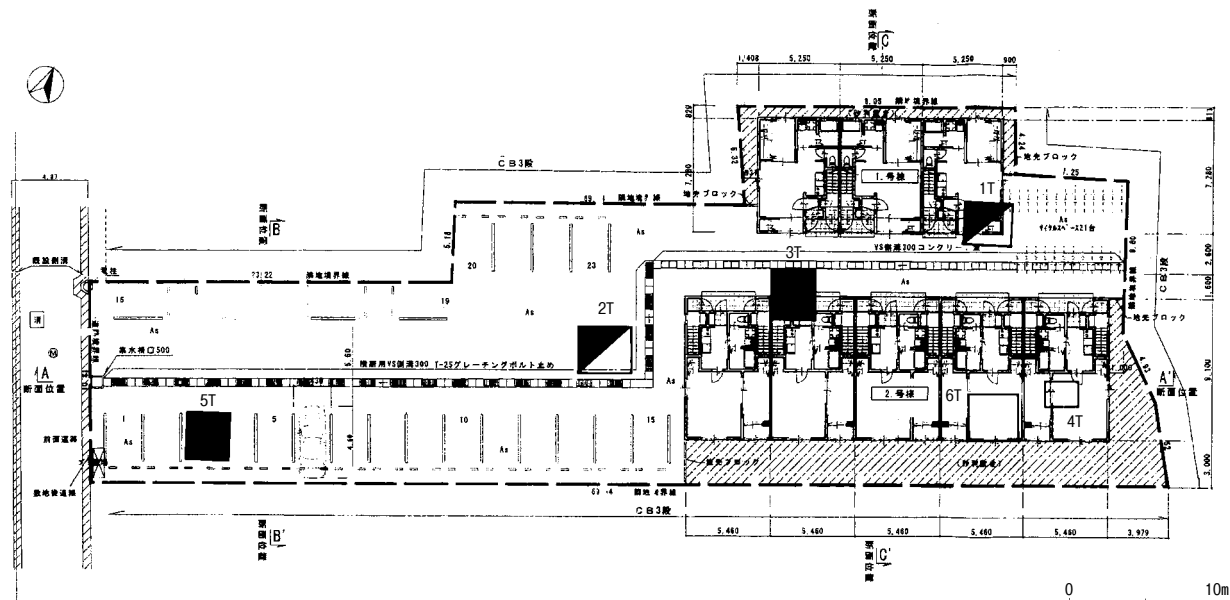
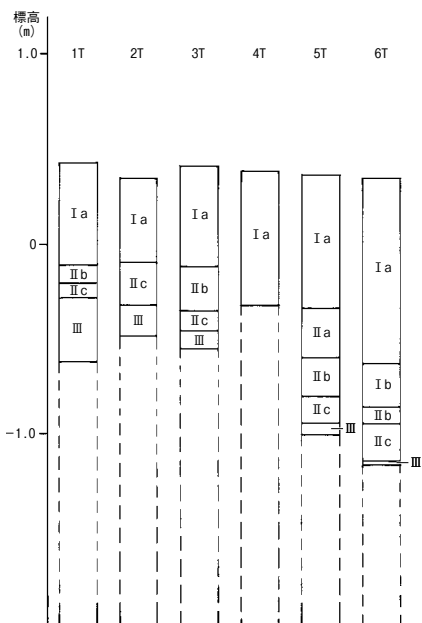


図5 第11次調査トレンチ位置図（1/500）



基本層序

- I a層：盛土
- I b層：旧水田耕作土
- II a層：灰褐色粘質砂 粘性・しまり○（遺物包含層）
- II b層：暗灰褐色粘質砂 粘性・しまり○（遺物包含層）
- II c層：暗褐色～黒褐色砂 粘性・しまり○（遺物包含層）
- III層：黄褐色～淡褐色砂 粘性・しまり○（砂丘形成層）

図6 第11次調査土層柱状図（1/40）

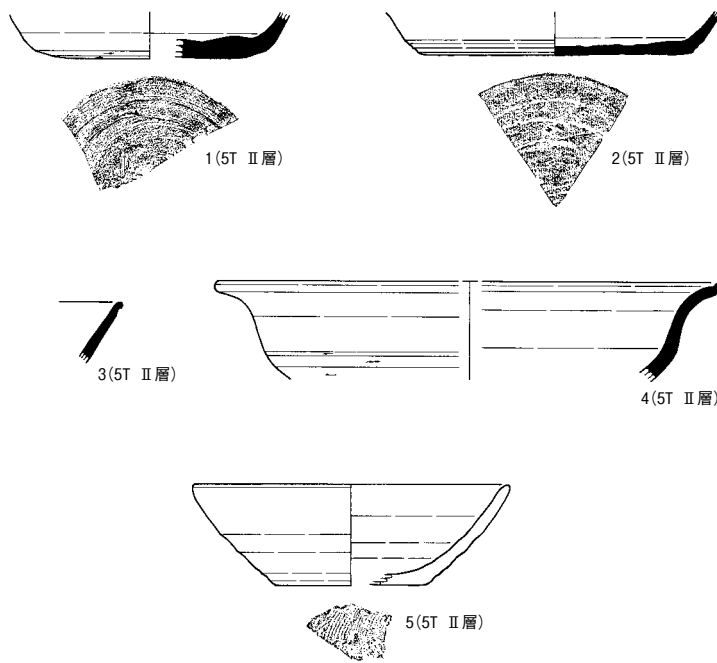


図7 第11次調査出土遺物実測図（1/3）

(7) 居附A遺跡 第2次調査 (2017230)

所在地 新潟市江南区小杉字居附 外

調査の原因 県営地盤沈下対策事業

亀田郷阿賀地区 (公共事業)

調査期間 平成29年11月15・17日 (2日間)

調査面積 36.3㎡ (調査対象面積10,664.7㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 継続協議

調査に至る経緯 県営地盤沈下対策事業亀田郷阿賀地区に伴い、県新潟地域振興局 (以下事業者) より平成29年10月13日付新振農第4116号で埋蔵文化財の事前調査依頼が提出された。これを受け、平成29年11月14日付新歴B第196号の2で県教委に着手報告を提出し、確認調査を実施した。

位置と環境 調査地は、阿賀野川左岸に広がる自然堤防上に立地し標高は3m前後である (図1)。現況は水田で、過去に遺跡の北端で確認調査が行われているが、遺構・遺物は発見されていない (第1次・1995109)。

概要と層序 トレンチを6か所設定した (図2左)。基本層序は、I層：耕作土、II層：灰褐色に暗灰褐色がまだらに混入する粘土 (遺物包含層)、III a層：灰褐色粘土 (遺構確認面)、III b層：灰白色シルト質粘土、IV a層：青灰色粘土、IV b層：青灰色シルト質粘土、IV c層：灰褐色粘土と灰色細砂の互層である (図2右)。

検出遺構 2 T III a層上面で性格不明遺構 (SX1) を1基検出した。

出土遺物 2 T II層から平安時代の土師器36点・黒色土器4点、4 T II層から平安時代の土師器24点、5 T II層から平安時代の土師器3点が出土している。器種の内訳は無台椀56点、長甕11点で、無台椀が大半を占めることが特徴である。このうち2点を図化した (図3)。1は土師器無台椀の底部破片で底部に回転糸切り痕を残す。2は黒色土器無台椀の口縁部破片で、内面が黒色処理されている。時代はともに9世紀代である。

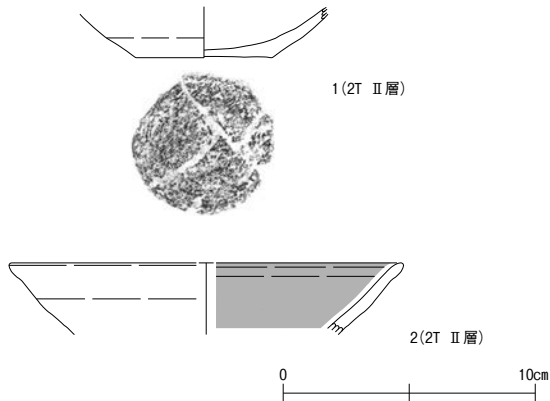
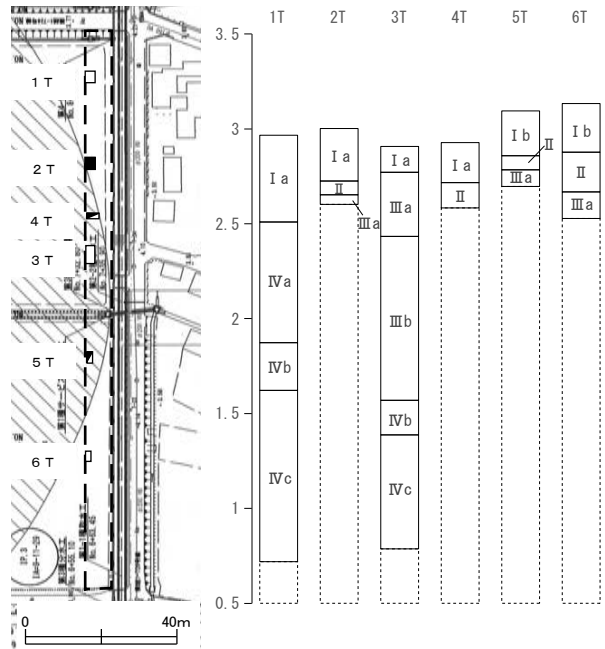


図3 遺物実測図 (1/3)



図1 調査位置図 (1/10,000)



基本層序
 I a層：褐色土 (畑土)
 I b層：褐色粘土 (水田耕作)
 II 層：灰褐色に暗灰褐色がまだらに混入する粘土 粘性・しまり ○ (遺物包含層)
 III a層：灰褐色粘土 粘性・しまり ○ (上面遺構確認面)
 III b層：灰白色シルト質粘土 粘性・しまり ○
 IV a層：青灰色粘土 粘性・しまり ○
 IV b層：青灰色シルト質粘土～細砂 粘性・しまり △
 IV c層：灰褐色粘土と灰色細砂の互層 粘性・しまり △

図2 トレンチ位置図 (1/2,000)・土層柱状図 (1/40)

まとめ 2・4・5 Tで遺物が出土し、2 Tでは遺構も確認された。遺構確認面 (III a層) は、3 Tを頂点として南北方向に傾斜し、表土直下に平安時代の遺物包含層 (II層)、包含層下に遺構が残っていることが確認された。調査の結果から遺跡範囲を拡張した。なお、事業における今回の調査区の工事は、2020年度施工予定であり現在詳細設計中であり、埋蔵文化財の取扱いは引き続き事業者と協議している。 (牧野耕作)

(8) 近世新潟町跡第40・43次調査(2017125・2017240)

A 近世新潟町跡の周知化と取扱い

新潟は1858年の開港5港に選ばれた日本海側有数の湊町である。江戸時代初期の17世紀半ばに現在の信濃川左岸の河口付近へ移転し、その後拡大しながら現在に至るが、その移転当初の範囲を「近世新潟町跡」としている。

現在、近世新潟町跡の周知化は、試掘調査によって江戸時代の土層及び遺物が確認された地点について行っている。平成29年度末で20か所が周知化されている(図1)。

B 平成29年度の試掘・確認調査

平成29年度に実施された試掘・確認調査は、公共事業に伴うものが1件、民間事業に伴うものが4件である。民間事業はマンションや複合ビル建設など再開発に伴うものが多い。遺跡内での工事立会も4件行っている。

本稿では、民間事業に伴う試掘調査2件を報告する。

(a) 一番堀通町地内試掘調査

第40次調査(2017125)(図1～3・6)

所在地 新潟市中央区一番堀通町340-2 外

調査の原因 マンション建設

調査期間 平成29年5月16日～5月20日(5日間)

調査面積 101.3㎡(調査対象面積547.3㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 取扱不要

調査概要 調査地は近世新潟町推定範囲の南端に位置する。一番堀通と本町通の双方に面しているが、地割は一番堀通を表として行われている。

試掘調査では5か所の試掘坑を設定した(図2)。コンテナで10箱分の陶磁器が出土し、そのうち10点を図化した(図6)。3Tでは地元(西蒲区)松郷屋焼の徳利(4～6)が土坑(SK1)内から6点まとまって出土した。松郷屋焼の徳利は、幕末期から明治にかけて焼酎や醤油の容器として地元で使用されたが、北前船によって主に北海道へと運ばれていた。広く道内全域で出土するほか、奥尻島や樺太での出土例もあり広域で流通していたことがわかる資料である。

標高-2.0m以下の層からは、17世紀前半の遺物が多く出土している。7・8は中国漳州窯産の皿である。底部が一部被熱している。9は肥前磁器の小壺で1630年代のものと考えられる。17世紀半ばの町建て以前から町建て初期の遺物がいくつか出土したが、明確な遺構を伴わないことから周知化は行わなかった。

(b) 古町通7番町944番地点試掘調査

第43次調査(2017240)(図1・4～6・7)

所在地 新潟市中央区古町通7番町944番地 外

調査の原因 建物解体

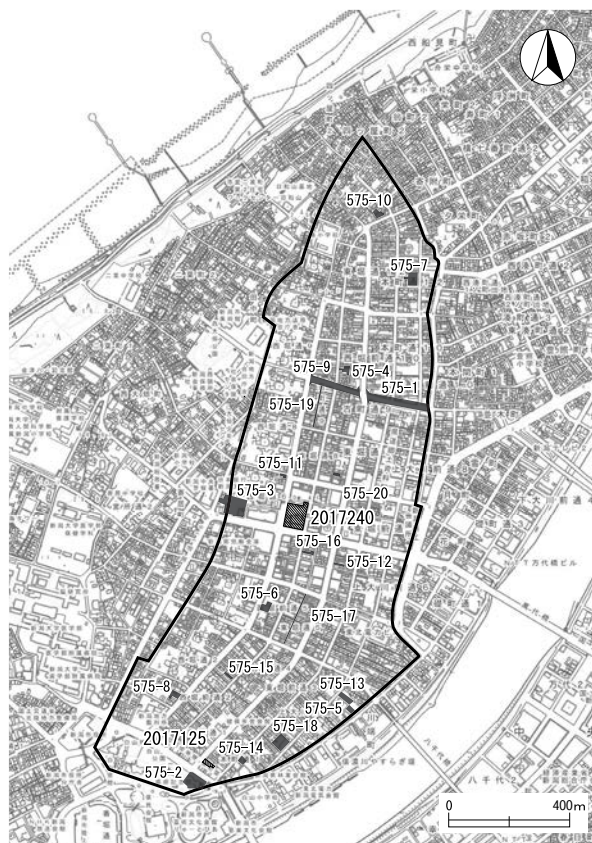


図1 近世新潟町周知化・試掘確認調査位置図(1/25,000)

調査期間 平成30年1月9日～11日(3日間)

調査面積 36.0㎡(調査対象面積800.0㎡)

調査担当 諫山えりか

処置 周知化

調査概要 店舗解体に伴い解体の事前に試掘調査を実施した。調査地は、江戸時代には信濃川の川岸に近く、明暦2(1656)年の新潟町地子帳によると古四之町西側にあたり、椀店と呼ばれる漆や和紙を扱う専売店があった地域である。椀店は町建て当初は会津や輪島などから仕入れた製品を小売りする業務形態だったが、18世紀末には塗りを専門とする塗師や木地師が記録にあらわれることから、新潟での漆器生産も盛んになっていたと考えられる。天保14(1843)年、新潟町の椀店が商う塗物は、会津産と新潟産が1・2位を占め、次いで京都産・輪島産があった。廻船で各地の塗物を買取って、新潟や近郷に卸していたようだ。新潟産の漆器は、その後明治～昭和初期にかけても生産が続き、現在でも数は減ったものの「新潟漆器」として伝統的工芸品に指定されている[新潟市歴史博物館2003]。

試掘調査では江戸時代の地割を基に4軒分の屋敷地の境にかかるようトレンチを2か所設定した(図4)。調査期間が3日間と限られていたことから、遺構は溝のみ略図を作成し、それ以外の遺構は壁面で観察できるものに

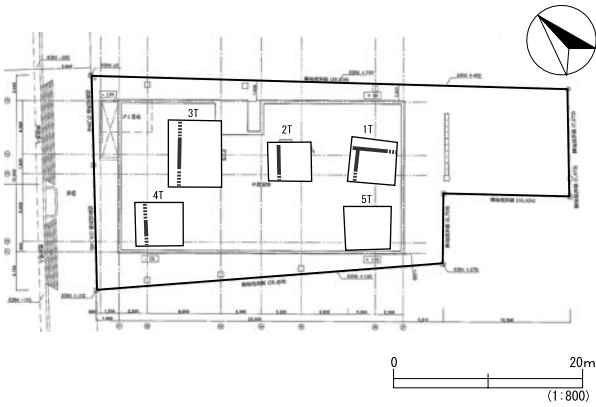


図2 第40次調査遺構配置図 (1/800)

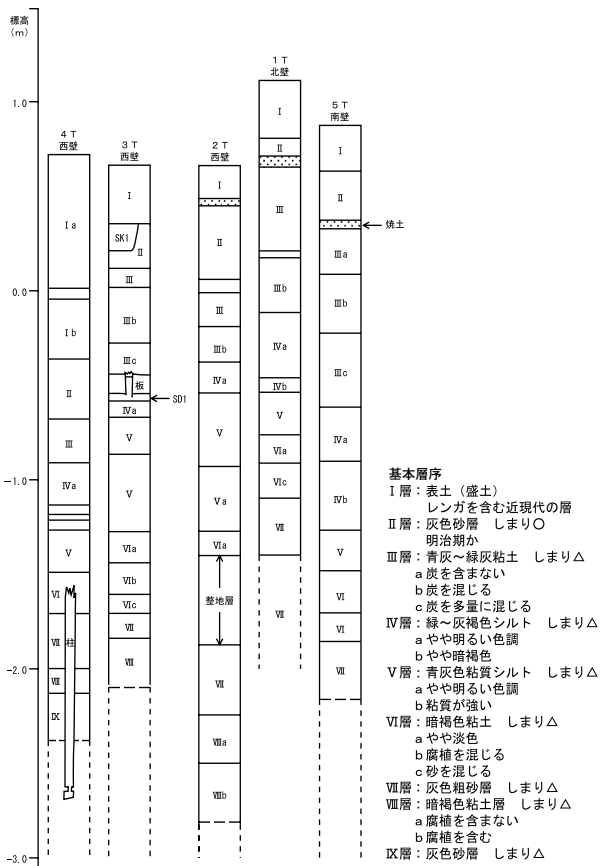


図3 第40次調査土層柱状図 (1/40)



第40次調査 4 T西壁土層堆積状況 (東から)

限り写真記録にとどめた。このため、壁面で確認できた遺物については遺構名や層位が特定できるものの、それ以外の遺物は、出土したレベルの情報に限られるため、平面的な位置や層位については記載していない。コンテナで陶磁器18箱、木製品1箱、金属製品1箱が出土した。そのうち陶磁器9点、木製品3点、漆工関連遺物4点を図化した(図6・7)。

1 Tでは地表下1.0mの土坑SK1から漆パレットとして使用された肥前磁器皿(12)や漆器皿(20)、漆濾し紙(23~26)が出土した。新潟漆器株式会社佐藤圭太氏によると現在も同様の漆濾し紙を使用しているとのことで当該地が漆工に関係していたことを裏付けている。近世期の漆器については、木地や朱漆の顔料によって優品か否かが決まってくるが、樹種・顔料いずれも未同定のため、詳細は不明である。また、この土坑は出土遺物から18世紀後半の遺構と考えられる。時代的にも塗師がいる店だったと考えてよいだろう。遺構は、地境に沿った溝が複数層に繰り返し掘られており、調査地は江戸時代をとおして区画の変更がほとんど行われなかったことがわかる。2 Tからも、漆工関連として卸目に煤が多量についているすり鉢(17)が出土している。黒漆を作る際の松煤をすったと推定される。また漆器皿(21)、漆器の脚部(22)が出土した。21は内外面ともに赤漆塗りされており、22は赤漆の上に金色の顔料で草木模様が描かれている。そのほか、図化はしなかったがハンズ一甕と呼ばれる18世紀代の肥前産陶器の大甕が地表下1.0mから出土した。この大甕には直径10cm前後の焼けた石が大量に入っていたが、用途などは不明である。

試掘調査で遺構・遺物が検出されたため、埋蔵文化財包蔵地としての周知化、出土遺物の文化財認定を行った。(今井さやか)

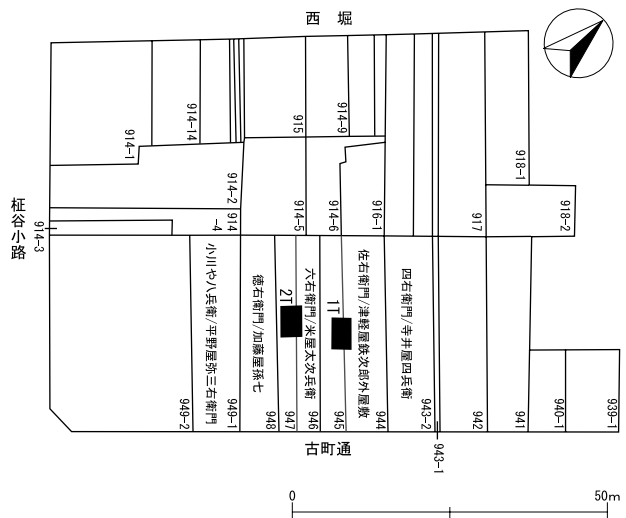


図4 第43次調査トレンチ位置図 (1/1,200)

※屋号・人名は『新潟市史』資料編2『小村・中村ほか1990』記載
『明暦2年地子帳(写し)』の人名を左側、『天保14年地子帳』の人名を右側に記した。

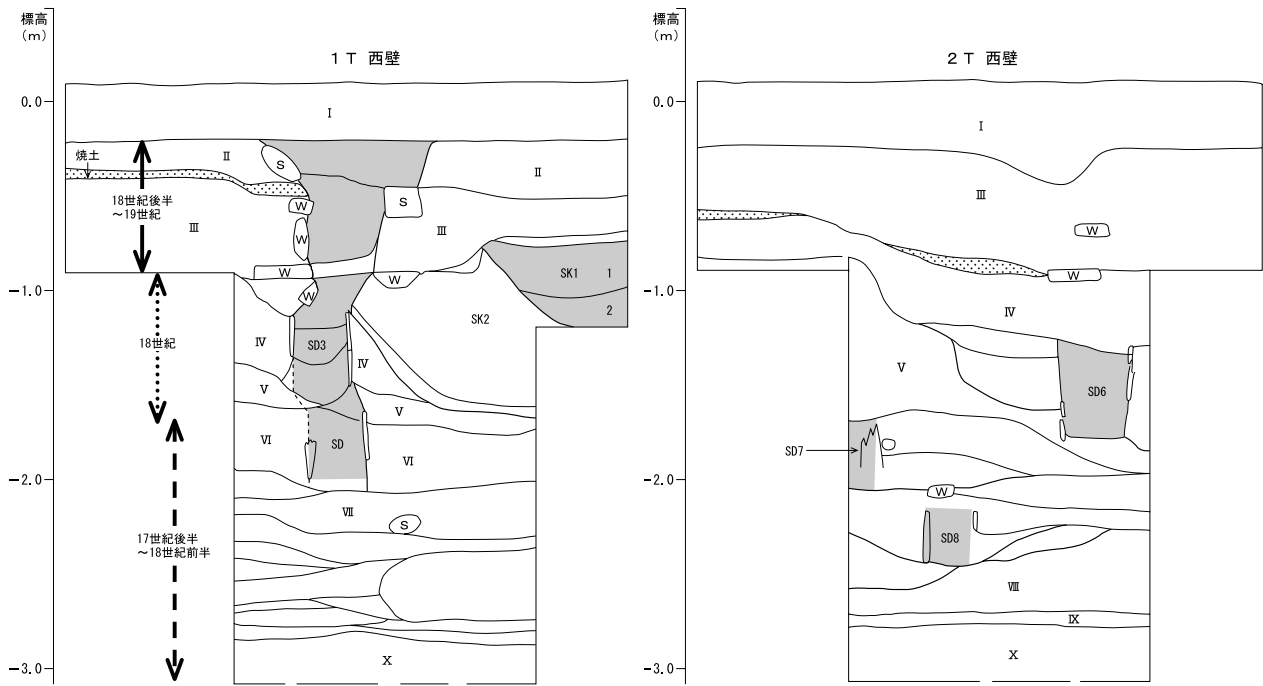


図5 第43次調査 西壁土層断面図 (1/40)

- 基本層序及び遺構覆土**
- I層：表土(盛土)
砕石を含む近現代の層
 - II層：暗褐色土
焼土・炭を多量に含む
 - III層：灰褐色粘土
 - IV層：灰褐色シルト質粘土 しまり△
 - V層：淡褐色粘土
 - VI層：褐色シルト質粘土
 - VII層：褐色粘土層 砂を混じる
 - VIII層：暗褐色粘土層 砂を混じる (整地層か)
 - IX層：黒褐色粘土層
 - X層：灰褐色シルト質粘土層
- SK1**
- 1 暗灰粘土 炭多量に混じる
 - 2 暗褐色粘土



第43次調査 1 T西壁土層断面 (東から)



第43次調査 1 TSK1 から出土の漆工関連遺物

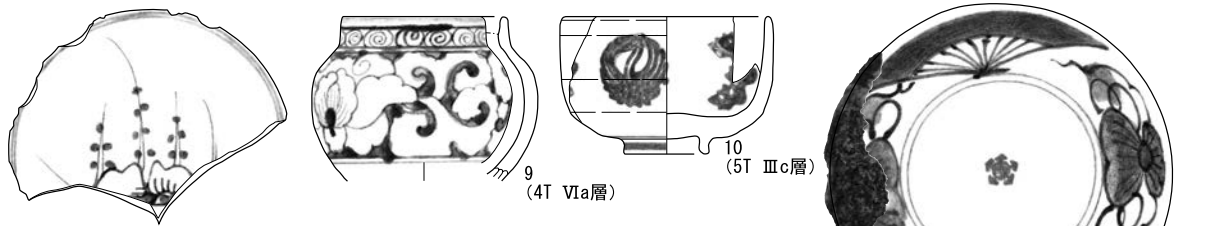
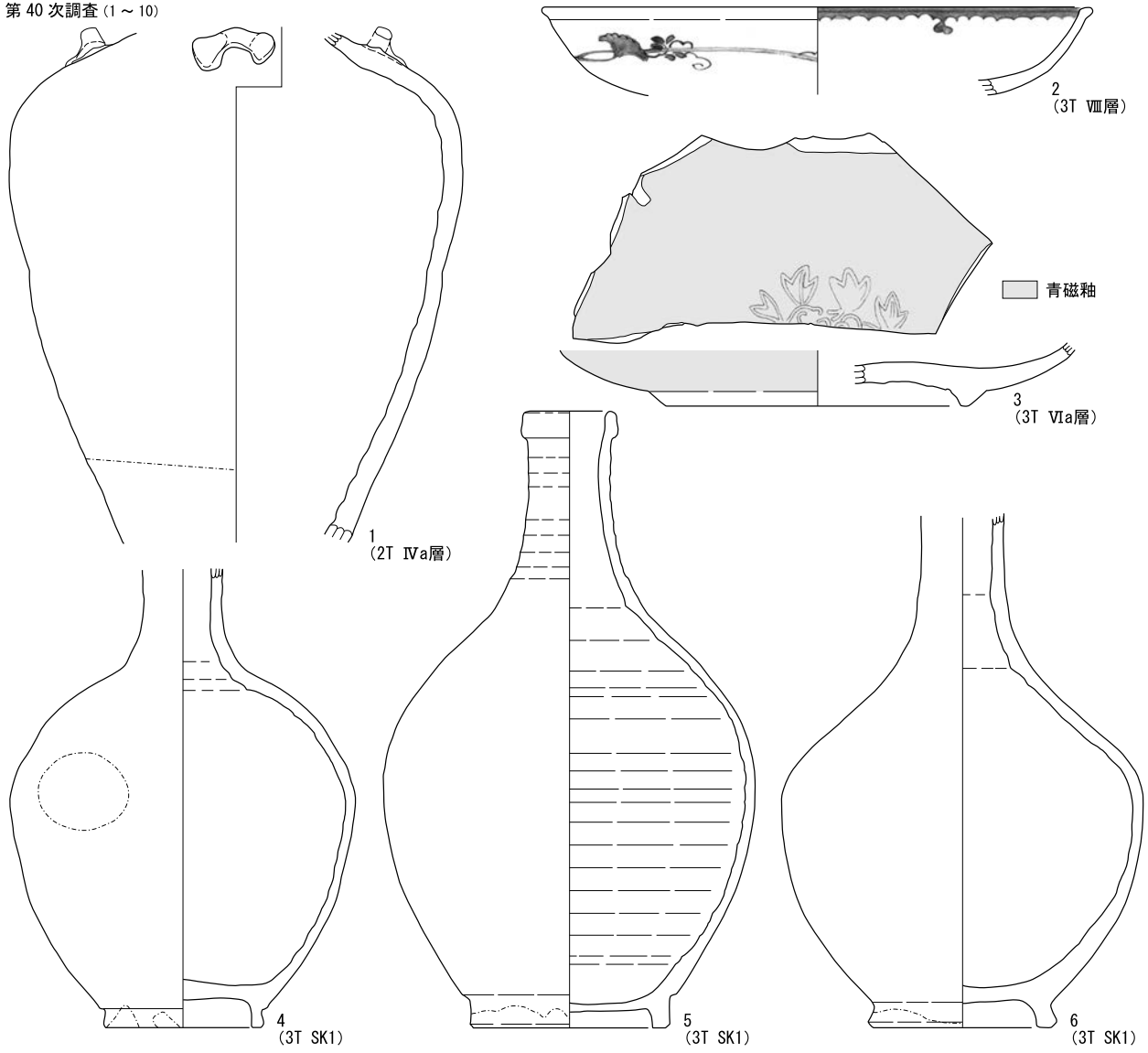
表1 土器・陶磁器観察表

掲載No	出土位置		種類	器種	産地	年代	法量 (cm)			器形・調整・文様・軸葉等	
	調査回数	トレンチ					口径	底径	器高		
1	第40次	3 T	IVa層	陶器	信楽	17~18世紀			(22.5)	鉄軸 下部に長石軸を施した腹白茶壺	
2	第40次	3 T	IV層	磁器	肥前(有田)	1660~1670	24.0	-	(3.8)	染付 内:雪輪文 外:唐草文	
3	第40次	3 T	IVa層	青磁	肥前(波佐見)	1650~1660		13.8	(2.7)	青磁 内:印刻文 高台:唐草文	
4	第40次	3 T	SK1	陶器	松郷屋	19世紀	-	7.0	(20.0)	灰軸	
5	第40次	3 T	SK1	陶器	松郷屋	19世紀	10.0	-	2.8		
6	第40次	3 T	SK1	陶器	松郷屋	19世紀	-	7.3	(22.4)		
7	第40次	4 T	IV層	磁器	中国(漳州)	17世紀前半	11.2	3.8	3.9	染付 外面被熱	
8	第40次	4 T	IV層	磁器	中国(漳州)	17世紀前半	11.4	4.0	3.9	染付	
9	第40次	4 T	IVa層	磁器	小壺	肥前	1630~1640	6.6	-	(6.5)	染付
10	第40次	5 T	IIIc層	磁器	碗	肥前	18世紀前半	8	3.9	5.5	染付 外:コンニャク印判輪
11	第43次	1 T	GL-09	磁器	皿	肥前(有田)	1660~1670	13.4	9.2	2.8	染付 外:花文 蔓草文
12	第43次	1 T	SK1	磁器	皿	肥前(波佐見)	18世紀前半	13.5	7.6	3.6	染付 内:扇文・見込みコンニャク印判五弁花 外:蔓草文 底部:満福 口縁に漆付着
13	第43次	1 T	GL-12	陶器	大皿	肥前(三島手)	17世紀後半	35.5	13.0	9.8	灰軸
14	第43次	1 T	GL-18	磁器	碗	肥前(有田)	17世紀後半	9.8	6.0	5.7	染付 外:梅文 素描
15	第43次	1 T	-	磁器	小皿	肥前(色絵)	1680~1700	-	3.6	(1.9)	色絵 漆継ぎ痕
16	第43次	1 T	GL-08	磁器	大皿	肥前(有田・南川原)	18世紀後半	27.6	16.0	5.9	型打ち成形 内:花鳥文 底部:大明成化半製 針灸之痕
17	第43次	2 T	GL-10	陶器	描鉢	肥前	18世紀	-	-	(4.3)	鉄軸全面施軸 脚目にスス大量に付着
18	第43次	2 T	-	陶器	皿	肥前	1610~1630	13.5	4.7	3.6	溝線皿・砂目
19	第43次	2 T	GL-10	磁器	袋物	肥前(色絵)	18世紀後半				色絵

表2 木製品・漆工関連遺物観察表

掲載No	出土位置		種類	器種	法量 (cm)			木取り	加工痕・調整
	調査回数	トレンチ			口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ		
20	第43次	1 T	SK1	食膳具	碗	12.0	-	(4.0)	縦木取り 内外面に黒漆付着
21	第43次	2 T	GL-11	食膳具	碗	10.6	5.0	3.7	縦木取り 内外面に赤色漆
22	第43次	2 T	-	食膳具	膳の脚か	7.0	1.6	1.5	赤色漆に金
23	第43次	1 T	SK1	漆工関連遺物	漆遣し紙	6.8	1.5		赤色漆
24	第43次	1 T	SK1	漆工関連遺物	漆遣し紙	4.9	1.1		赤色漆
25	第43次	1 T	SK1	漆工関連遺物	漆遣し紙	5.9	0.8		赤色漆
26	第43次	1 T	SK1	漆工関連遺物	漆遣し紙	6.5	1.1		黒色漆

第40次調査(1~10)



第43次調査(11・12)

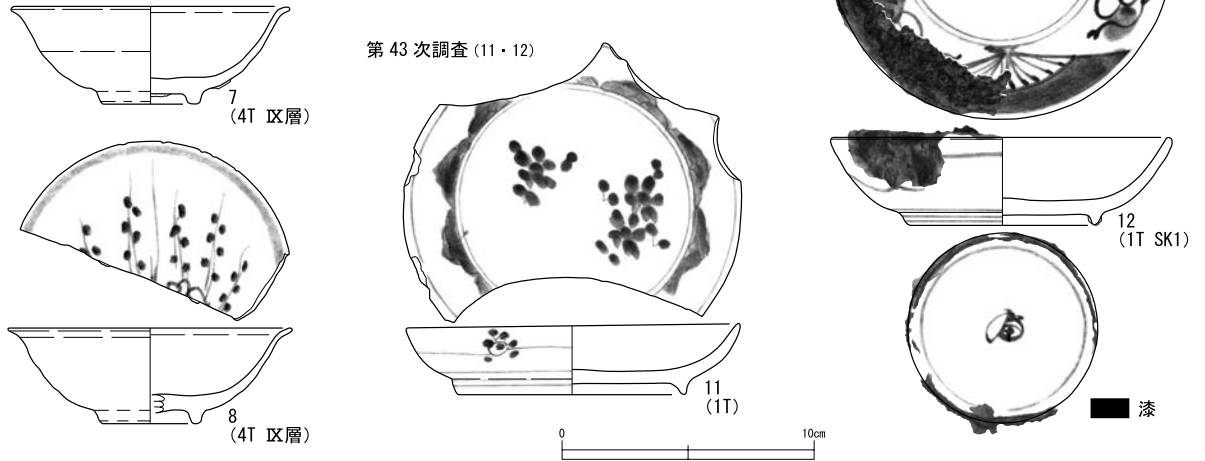
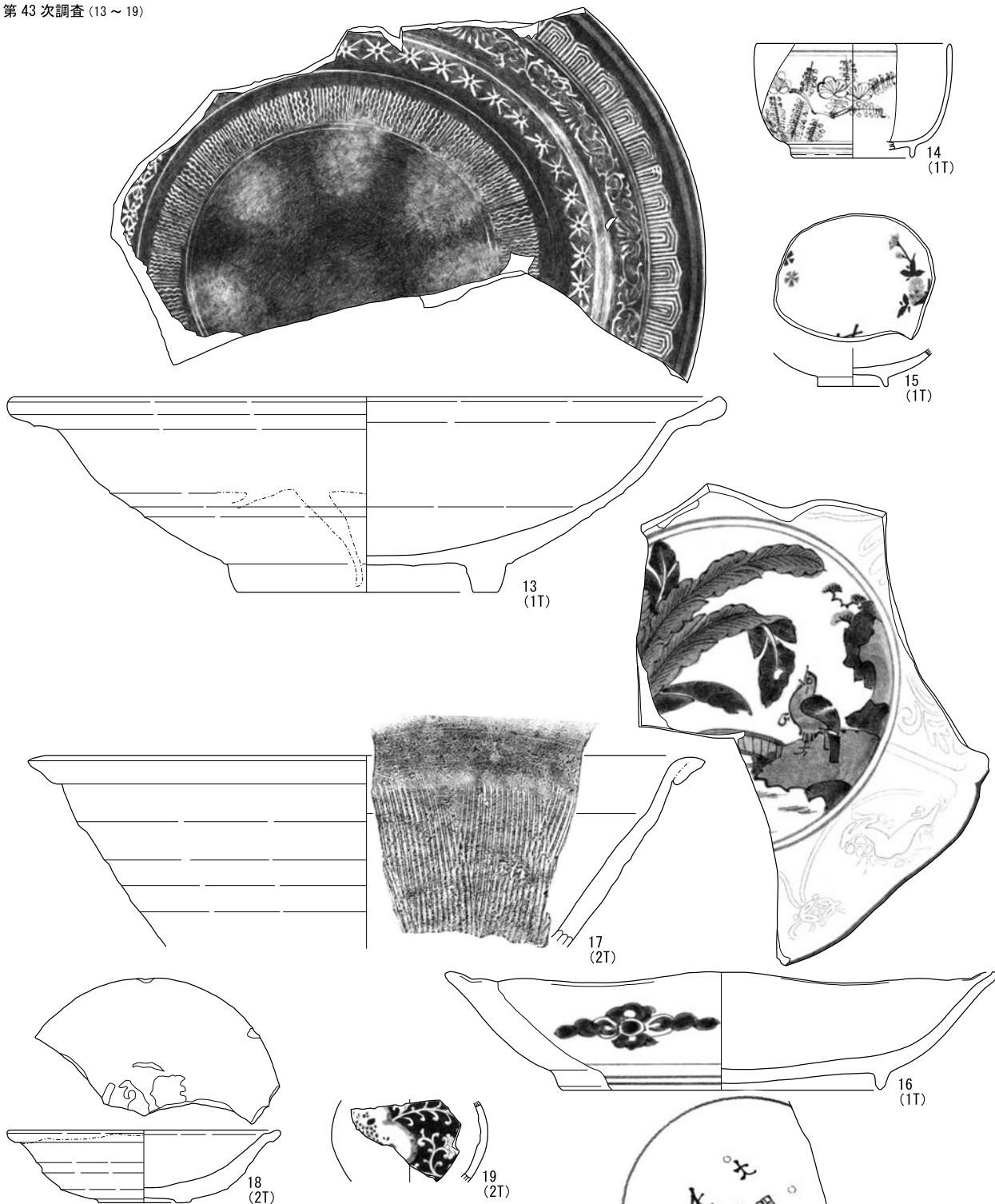


图6 遺物実測図(1/3)



木製品・漆工関連遺物 第 43 次調査 (20 ~ 26)

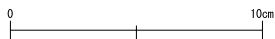
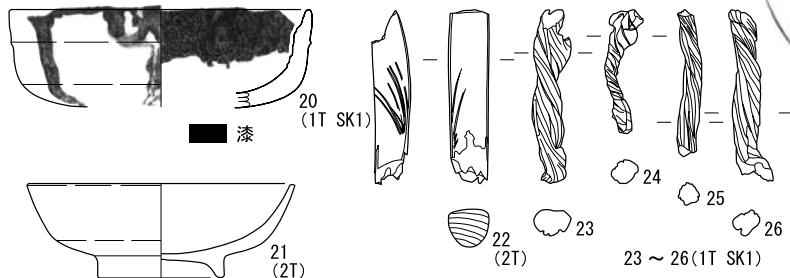


図 7 遺物実測図 (1 / 3)

III 文化財センターの事業

1 本発掘調査の概要

(1) 本発掘調査について

埋蔵文化財包蔵地は現状のまま保存され、後世に継承されることが望ましい。しかし工事によって掘削されるなど、現状保存が不可能な場合は、記録による保存を目的とした発掘調査が必要となる。これを本発掘調査と呼んでいる。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。

新潟市では、『法』94条の通知については、事前に試掘・確認調査を実施して遺跡の内容等を把握し、文化庁の示した標準（『文化庁標準』）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（『新潟県基準』）に則して取扱いに関する意見を付して県教育委員会へ副申している。これを受けて県教育委員会が判断した遺跡の取扱いに関する指示を通知者へ示している。

一方、『法』93条の届出については、『新潟県基準』とこれを参考に新潟市が定めた『新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に則して取扱いを決定し、届出者へ通知している。

本発掘調査が必要な場合は、遺跡内の掘削面積を最小限にするため、開発事業者などと遺跡の取扱いについて協議している。しかし、公共事業では各種法令に基づき設計されていることから、設計変更し遺跡の現状保存を図ることは困難な場合が多い。また、民間事業でも大規模な設計変更はできないのが現状である。

本発掘調査実施にあたっては、『法』99条により、新潟市教育委員会が実施するものとし、直営体制で実施している。新潟市では、歴史文化課が教育委員会事務を補助執行しており、埋蔵文化財担当が本発掘調査に係る全体協議と試掘・確認調査を、文化財センターが本発掘調査を担当している。しかし、調査の件数・規模に対し、

市専門職員の人数は限られていることから、市専門職員による調査担当（正）及び調査員（副）の正副調査員の配置が困難で、調査担当のみの配置となっている。また、発掘作業と並行して現年度調査分及び過年度調査分の整理・報告書作成作業も進めなければならない。解決手段の一つとして、民間調査組織を適切に導入し、調査員として調査業務の一部を委託している。調査担当は、本発掘調査全体管理のほか民間調査組織の監理も求められることになる。

(2) 平成29年度の本発掘調査

表1に示したとおり、6遺跡で本発掘調査を行った。圃場整備関係で1件、道路建設関係で2件、民間開発事業で1件、個人住宅関係で2件である。なお、古津八幡山遺跡では保存目的の確認調査を行っている。

（朝岡政康）

(3) 平成29年度の本発掘調査現地説明会

平成29年度は赤鎔砂山遺跡・古津八幡山遺跡・細池寺道上遺跡・亀田道下遺跡・浦木東遺跡で現地説明会を開催した（表2）。特に、西蒲区で行われた赤鎔砂山遺跡の現地説明会には、地元回覧のみの広報であったにもかかわらず、100名を超える参加者があり地域住民の遺跡への関心の高さがうかがえる。なお、個人住宅建設に伴って実施された秋葉遺跡・程島館跡の本発掘調査は、市街地における小規模な調査であり、緊急性を考慮して現地説明会は行わなかった。

（龍田優子）

表2 平成29年度発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数(人)
2017/7/16(日)	赤鎔砂山遺跡	118
2017/11/4(土)	古津八幡山遺跡	60
2017/11/11(土)	細池寺道上遺跡	80
2017/11/11(土)	亀田道下遺跡	139
2017/11/12(日)	浦木東遺跡	71

表1 平成29年度新潟市本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名	調査回数(次)	発掘調査面積(m ²)	調査地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2017001	赤鎔砂山遺跡	5	240.6	西蒲区 赤鎔字砂山331番3外	商業施設建設 (民間事業)	立木宏明 遠藤恭雄	澤野慶子	6/1~8/15	古代	掘立柱建物・井戸・土坑・溝・畑	土師器・須恵器・石製品・木製品(古代)
2017002	細池寺道上遺跡	50	1,746.9	秋葉区 飯柳1170-1外	圃場整備 (公共事業)	立木宏明	奈良佳子、 細野高伯・長澤展生 (株シン技術コンサル)	7/18~12/28	古代・中世	掘立柱建物・土坑・溝・畑・水田・旧河道・道路状遺構	土師器・須恵器(古代)、 珠洲焼(中世)、 石製品・木製品 他
2017003	浦木東遺跡	3	1,452.2	北区 浦木字浦木 45番外	道路整備 (公共事業)	金田拓也	稲垣裕二 (株イビック)	7/13~1/15	古墳・古代	土器集中(古墳)、 川跡(近代)	土師器(古墳)、 土師器・須恵器(古代) 他
2017004	亀田道下遺跡	2	1,675.4	江南区 荻曾根二丁目14-4外	道路整備 (公共事業)	遠藤恭雄	澤野慶子、 千田幸生(株ノガミ)	8/1~11/30	古代・近世	土坑・溝・畑(古代)、 掘立柱建物・井戸・土坑・溝 (近世以降)	土師器・須恵器・石製品(古代)、 近世陶磁器・石製品・土製品 (近世以降) 他
2017005	秋葉遺跡	12	97.9	秋葉区 秋葉一丁目4682番地6外	個人住宅建設 (民間事業)	今井さやか	—	6/12~6/26	縄文	掘立柱建物・土坑・柱穴	縄文土器・土製品・石器・石製品 (縄文)
2017006	程島館跡	7	124.6	秋葉区 程島字館ノ内1612番2外	個人住宅建設 (民間事業)	相澤裕子 龍田優子	—	7/21~8/22	縄文・古代・ 中世	掘立柱建物・土坑・溝・ 性格不明遺構・柱穴	縄文土器・石器・石製品(縄文)、 土師器・須恵器(古代)、 中世陶磁器

2 平成29年度の本発掘調査

平成29年度本発掘調査の概要を次項より記す。概要は、調査番号順である。概要掲載遺跡の位置を図1、一

覧を表3に、試掘・確認調査の概要掲載遺跡と併せて示した。各項題は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。
(龍田優子)

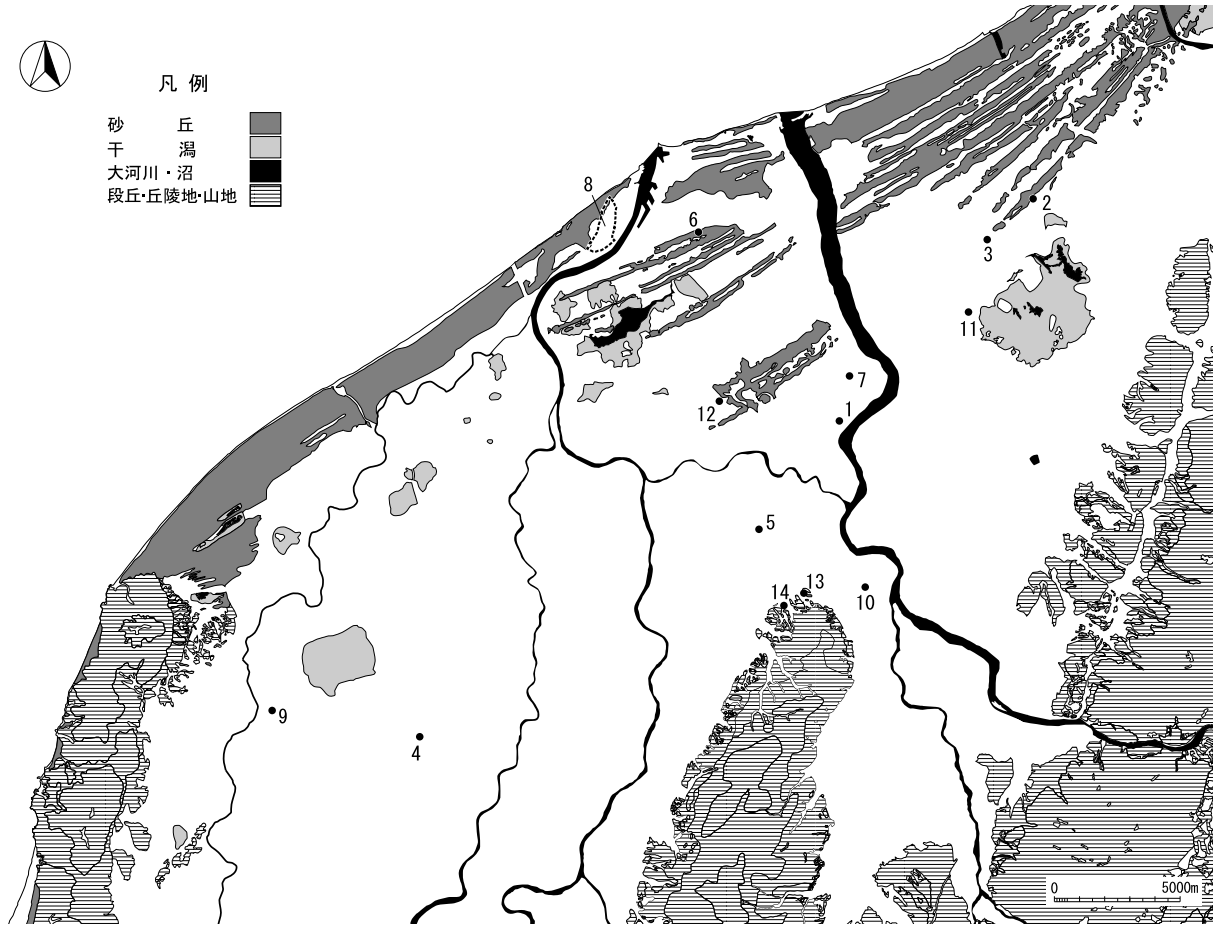


図1 平成29年度概要掲載発掘調査位置図 (1/300,000)

表3 平成29年度概要掲載発掘調査一覧

事前審査に係る試掘・確認調査及び工事立会

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
781	上郷D遺跡	1	2017126	1	8
317	中黒山遺跡	3・4	2017121・ 2017155	2	9
266	葛塚遺跡	3	2017161	3	12
572	仲歩切遺跡	—	2016191・ 2017175	4	14
785	宅地郷遺跡	1	2017189	5	19
112	山木戸遺跡	10・11	2017180・ 2017198	6	20
371	居附A遺跡	2	2017230	7	24
575	近世新潟町跡	40・43	2017125・ 2017240	8	25

本発掘調査

遺跡番号	遺跡名	調査回数(次)	調査番号	位置番号(図1)	掲載頁
778	赤縮砂山遺跡	5	2017001	9	32
151	細池寺道上遺跡	50	2017002	10	33
773	浦木東遺跡	3	2017003	11	34
768	亀田道下遺跡	2	2017004	12	35
182	秋葉遺跡	12	2017005	13	36
168	程島館跡	7	2017006	14	37



本発掘調査風景 (亀田道下遺跡第2次調査)

(1) 赤鎔砂山遺跡 第5次調査 (2017001)

所在地 新潟市西蒲区赤鎔字砂山331番3 外

調査の原因 商業施設建設 (民間事業)

調査期間 平成29年6月1日～8月15日

調査面積 240.6㎡

調査担当 立木宏明・遠藤恭雄

調査員 澤野慶子

処置 記録保存

調査に至る経緯 商業施設建設に伴い実施した試掘調査(第1次・2016186)の結果、開発範囲の南側で古代・中世の遺構・遺物が発見されたため、「赤鎔砂山遺跡」として登録された。その後、遺跡の広がりや本発掘調査範囲を確定するため、追加の確認調査を実施した。開発範囲の中心付近で実施した確認調査では、古代の土師器が1点出土している(第4次・2016254)。

これらの調査結果を基に協議を進めた結果、当該地の南側に設置される貯水槽部分と、開発に伴って実施される市道の拡幅部分について本発掘調査を行い、それ以外の範囲については工事立会・慎重工事で対応することとなった。事業主から『法』93条の届出が提出され(平成28年12月16日付)、平成29年6月1日付新歴F第10号の4で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 遺跡は西を西川、東を飛落川に挟まれた沖積地内の自然堤防上に立地する。現在の標高は4～5mで、現況は水田及び農道である。遺跡は角田山東麓から南東約4kmの距離にあり、その北東約2kmには昭和40年代初頭まで鎔瀉が広がっていた。

検出遺構 遺構確認面は現地表面下0.5～1.0mで、掘立柱建物1棟、井戸1基、土坑3基、性格不明遺構2基、溝10条、ピット40基が検出された。遺構は調査区中央から東側を中心に分布している。西側は徐々に標高が低くなっており、遺構は検出されなかった。

調査区東側では、並行する9条の溝が検出された。調査区壁面を見ると、溝と溝の間に畝状の高まりが確認されたため、この溝群を畑跡とした。さらに、この畑跡で行った花粉分析の結果、調査地点やその周辺で陸稲やアブラナ科の植物栽培の可能性が指摘された。

出土遺物 8・9世紀の土器を中心にコンテナで10箱の遺物が出土した。8世紀の土器は須恵器無台杯や土師器長甕などが確認されており、9世紀の土器は須恵器有台杯・杯蓋、土師器無台碗・小甕などが出土している。8世紀に位置付けられる非ロクロ成形の土師器長甕が主体となる。このほかに、石製品・木製品がわずかに出土した。

まとめ 今回の調査では、建物や井戸、畑といっ



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (南東から)



畑跡 (下が北)

た生活痕跡の一部が確認された。出土した土器からは、奈良・平安時代の遺跡であると推定される。調査区西側は遺構がなく低地化することから、調査地は集落の縁辺に位置していた可能性が考えられる。

近年、西蒲区の平野部では下新田遺跡〔龍田ほか2015〕や島灘瀬遺跡〔遠藤ほか2016〕などの発掘調査事例が増加し、8世紀前後に平野部への開拓進出が活発化する様相が明らかになってきた。赤鎔砂山遺跡もこうした動きに連動して成立した遺跡の一つであると考えられる。

なお、報告書は平成30年度に刊行した〔立木・澤野ほか2019〕。
(澤野慶子)

(2) 細池寺道上遺跡 第50次調査 (2017002)

所在地 新潟市秋葉区飯柳1170-1 外
調査の原因 両新地区圃場整備事業（公共事業）
調査期間 平成29年7月18日～12月28日
調査面積 1,746.9㎡
調査担当 立木宏明
調査員 奈良佳子、
細野高伯・長澤展生(株シン技術コンサル)
処置 記録保存

調査に至る経緯 両新地区圃場整備事業は、平成7年度に計画され、平成32年度に終了する予定である。平成29年度の調査は、新潟県地域振興局から平成29年5月24日付で本発掘調査の依頼文書が提出された。これを受けて平成29年7月14日付で着手報告を提出し、圃場整備工事により保護層（20cm）が確保できない範囲を対象とした本発掘調査を実施した（図1）。

位置と環境 細池寺道上遺跡は、新津丘陵の東側を流れる能代川と阿賀野川に挟まれた沖積地に立地する古代から近世の遺跡である。遺跡の広がり、南北1.7km・東西1.2kmに及ぶ。現地表面の標高は9～10mである。

これまでも複数回の調査が行われており、古代・中世の遺物やそれらと同時代と考えられる遺構が確認されている〔立木・奈良ほか2017ほか〕。

検出遺構 検出された主な遺構は土坑41基、性格不明遺構4基、溝41条、水田・畑跡21基、掘立柱建物7棟、旧河道1条、道路状遺構1基である。基本層序は6層に分かれ、地表面下0.5～1.0mで遺構確認面に達する。古代の遺構としては、調査区南北に縦断する旧河道（NR3）を検出した。調査区北東部の微高地では、多数の柱穴や土坑が検出され、集落の中心域とみられる。遺構の一部には、長甕を埋設した土坑（SK64）や道路状遺構、カマド状遺構も確認されている。

中世以降は、主に圃場として利用されたとみられ、調査区全域で、水田・畑跡や水路跡を検出した。周囲より地面を一段深く掘り下げて造られた「掘込田」と言われる形態の水田や、耕作面に溝跡や無数の耕作痕を残す帯状の圃場跡などが見つかっている。

出土遺物 コンテナで290箱出土した。古代では、8世紀末から9世紀後半の須恵器（無台杯、有台杯、長頸瓶、横瓶、甕など）、土師器（無台碗、鍋、長甕、小甕など）が旧河道を中心に多量に出土した。出土品の中には、墨書土器など希少な遺物も含まれる。中世では、13世紀代の珠洲焼播鉢が出土している。そのほかに、円盤・板・杭・加工木などの木製品が多量に出土した。

まとめ 古代においては、河道とその兩岸の微高



図1 調査位置図（1/10,000）



調査区全景（西から）



旧河道（NR3）全景（南から）



埋設土器（SK64）（東から）

地に発達した内水面交通の要衝的な集落が存在したと考えられる。中世以降になると、土地利用のあり方が変化し、埋没した河道上も含め広範な圃場が営まれた様相がみられる。なお、報告書は平成31年度以降に刊行する予定である。（立木宏明）

(3) 浦木東遺跡 第3次調査 (2017003)

所在地 新潟市北区浦木字浦木45番 外
 調査の原因 主要地方道新潟中央環状線 (浦木工区)
 道路改良工事 (公共事業)
 調査期間 平成29年7月13日
 ~平成30年1月15日
 調査面積 1,452.2㎡
 調査担当 金田拓也
 調査員 稲垣裕二 (㈱イビソク)
 処置 記録保存

調査に至る経緯 浦木東遺跡は、新潟市を東西につなぐ市道改良工事に伴い平成27年度に実施された試掘調査(第1次・2015238)で、古墳時代の土師器などが出土し発見された。翌年、本発掘調査範囲を確定するため確認調査を実施した(第2次・2016182)。調査結果を受け、事業者より『法』94条の通知が提出された(平成29年5月25日付)。その後、平成29年7月3日付新歴F第4号の14で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 越後平野の中央よりやや北東の福島町の西約3km、現在の駒林川左岸に位置し、旧駒林川の自然堤防上に立地している。地表面の標高は2m前後を測り、調査前の現況は水田及び社屋や駐車場、道路となっている。周辺には、浦木遺跡のみ所在しているが、古代の土器の採集にとどまってお実態は不明瞭である。

概要と層序 基本層序は大きく12層に分かれ、古墳時代の層(遺物包含層：V層、遺構確認面：VIa層)が確認された。特に遺物包含層は後世の耕作の影響を受けているため一部でしか確認できず、土器は後世の攪乱層からも出土している。また、遺構確認面下約1.5mから埋没林(コナラ属コナラ節・ケンボナシ属・ハンノキ属ハンノキ節)が検出され、自然科学分析の結果、弥生時代中期から後期頃の可能性が指摘された。

検出遺構 明確な遺構は検出されていないが、土器廃棄に伴う2か所の土器集中範囲を確認した。調査区は北から南側に向かって緩やかに傾斜しており、土器の集中は低くなった南側で確認された。

出土遺物 土器集中範囲を中心に、古墳時代前期の土師器が出土した。多くは甕であるが、壺や器台も確認される。土師器の多くは小破片であるが、復元率の高い個体も一括で出土した。また、後世の耕作による影響を受けている層から平安時代の須恵器などが出土している。

まとめ 今回の本発掘調査では、明確な遺構は検出することができなかった。しかし、確認された土器集中範囲は、当時の微地形や土師器の器種・出土状況などか

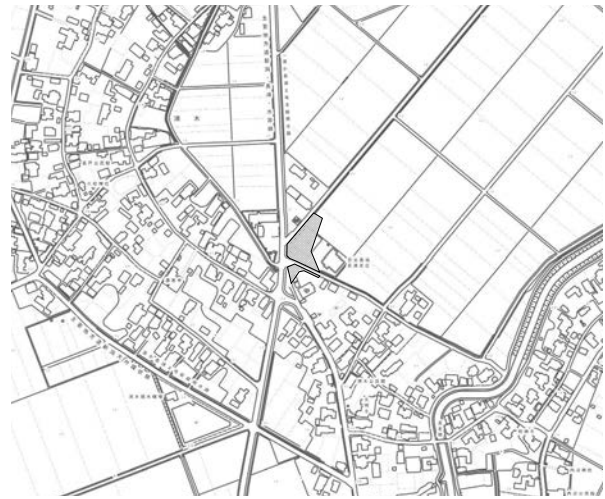


図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (北から)



土器出土状況 (土器集中・南西から)

ら、自然堤防上に営まれた集落縁部での土器廃棄と考えられ、周囲に集落がある可能性が高いと推測される。

旧駒林川の自然堤防上には、上土地亀A・B遺跡や豊栄長場遺跡、城の湯遺跡など古墳時代前期の集落の可能性のある遺跡が、採集資料やこれまでの発掘調査で確認されている。浦木東遺跡もこのような集落のひとつであったと考えられる。今回の調査によって、旧駒林川の自然堤防上に点在する集落の状況が明らかとなった。なお、報告書刊行は平成31年度の子定である。(金田拓也)

(4) 亀田道下遺跡 第2次調査 (2017004)

所在地 新潟市江南区荻曾根二丁目14-4 外
調査の原因 市道亀田南線道路整備工事 (公共事業)
調査期間 平成29年8月1日～11月30日
調査面積 1,675.4㎡
調査担当 遠藤恭雄
調査員 澤野慶子、
千田幸生 (榎ノガミ)
処 置 記録保存

調査に至る経緯 亀田道下遺跡は、市道建設工事に伴い、平成27年度に行われた試掘調査によって新たに発見された(第1次・2015106)。試掘調査の結果から、幅15m、延長約100mの範囲について本発掘調査を行うこととなった。当初、平成28年度に本調査を行う予定で新潟市東部地域土木事務所より『法』94条の通知(平成28年3月11日付)が提出されたが、同年度は実施が見送られた。平成29年度に入り、7月28日付新歴F第37号の4で着手報告を提出し、本調査を実施した(図1)。

位置と環境 遺跡は、亀田砂丘西端部にあたる沖積地の微高地に立地し、標高は1.1～1.4m前後である。調査区北側は県道亀田-白根線に面し、周辺は宅地化が進む。

概要と層序 層序は大きく4層に分けられ、I層が近現代の盛土層、II層が近世以降の遺物包含層、III層が古代の遺物包含層及び遺構埋土、IV層が基盤層で、その上面が遺構確認面である。遺構確認面標高は0.6～0.7m前後でほぼ平坦な地形である。また、遺構確認面下1.5mの深度で立木(トネリコ属)が出土している。自然科学分析の結果、4世紀第3四半期(古墳時代前期～中期)の年代値が得られ、トネリコやハンノキなどが繁茂するような湿地林が広がっていたと推定された。

検出遺構 古代の遺構は、土坑10基、溝7条、畑の畝間と推定される小溝2条、ピット22基が主に調査区南半で確認された。近世以降の遺構は、掘立柱建物3棟、井戸18基、北西から南東方向及びこれに直交する溝などが確認された。この大部分が調査区北西側の県道寄りに集中し、時代ごとで分布に偏りがある。

出土遺物 古代では、溝や土坑などの遺構内から平安時代前半(9世紀代)を中心に一部奈良時代(8世紀代)のものを含む土師器食膳具や煮炊具、須恵器の食膳具や貯蔵具がコンテナで21箱出土した。近世では、18世紀代を中心に17世紀中頃から19世紀代の肥前陶磁器や越中瀬戸、京焼といった陶磁器や、漆器の椀や櫛、銭貨などの各種製品が出土した。このほか、鎌や多様な砥石の出土からは農業との関連が推測される。

まとめ 古代は、掘立柱建物は確認されず、溝と



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (西から)



近世以降の井戸群 (南東から)

土坑に限られることから、調査区は集落の縁辺部にあたると思われる。

遺跡の所在する荻曾根新田は、亀田町本町通から1kmほど西に位置し、江戸時代初期の元和-寛永年間(1615-1644)から開発が進められたとされる〔小村1959〕。明治26年の土地更正図では、北側が道路に面した宅地、南側が果樹園・畑となっており、調査で確認された近世以降の遺構配置との一致が見られた。また、調査区北端の10m四方の範囲では、井戸7基が切り合う形で確認され(下写真)、17世紀後半から近現代の遺物が出土しており、継続的に井戸が掘られたと推定される。

上記の様相から、調査区は開村後の遅くとも18世紀代から継続して道路沿いに営まれた農村の屋敷地の一部にあたり、同時期の農村の一様相を示している。なお、報告書は平成31年度の刊行予定である。(遠藤恭雄)

(5) 秋葉遺跡 第12次調査 (2017005)

所在地 新潟市秋葉区秋葉一丁目4682番地6 外

調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成29年6月12日～6月26日

調査面積 97.9㎡

調査担当 今井さやか

処置 記録保存

調査に至る経緯 調査区を含む一帯は、平成10年に宅地造成に伴う確認調査 (第1次・1998114) が行われ、縄文時代の遺物包含層が造成区域全体に残存していることが確認されている。そして、この宅地造成における個人住宅部分については個別に対応をすることとなり、平成21・24年にはそれぞれ盛土による遺跡の保護を行い、個人住宅が建設されている。平成29年に入り、事業者より歴史文化課宛てに造成区内における個人住宅建設の相談があった。工事は、建設範囲全体の地盤改良 (表層改良) を伴うことが分かり、本発掘調査が必要であると判断された。平成29年5月26日付けで『法』93条の届出が提出され、同6月12日付新歴B第59号の4で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した (図1)。

位置と環境 新津丘陵の北端の尾根に立地する。遺跡の標高は約21mである。周辺は、現在は住宅地が広がるが、戦後しばらくまで茶畑として利用されていた。かつて、遺跡南側にあった秋葉ブドー園遺跡は、平成19年の下水道整備の際に行われた工事立会によって、秋葉遺跡に統合されている。

概要と層序 I・II層は宅地造成時の盛土と輾転された旧表土である。III・IV層が縄文時代の遺物包含層であり、地表下40～60cmの厚さで調査区全体に広がっている。それぞれの層から掘りこまれた遺構があるが、遺構覆土と遺物包含層の土の見分けがつきにくいことから、V層の明黄褐色土で遺構確認を行った。V層は砂利を多く含む地山で、南東から北西に傾斜していた。

検出遺構 縄文時代中期から後期と考えられる土坑とピット (柱穴) が約80基確認された。ほとんどの柱穴が深さ約10cmだったのに対し、一部の柱穴は深さ30～40cmほどで規則的に並ぶことから縄文時代の掘立柱建物と判断した。

出土遺物 縄文時代中期から後期の土器・土製品・石器がコンテナで81箱出土した。中期の土器は大木8b式の時期が主体であり、後期の土器は三十稲場式に限定される。石器は、磨製石斧・石皿・磨石などのほか石棒が2点出土した。また、唯一出土した縄文時代後期の土偶頭部は、真後ろに胴部との接合部が認められ、いわゆる「仮面土偶」と考える。

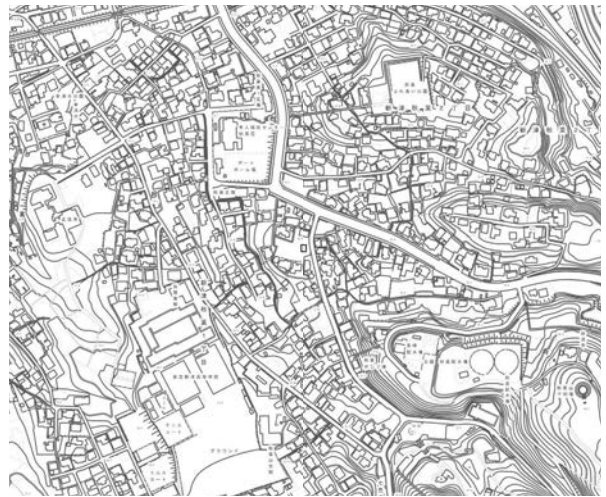


図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (下が北)



土偶正面と背面 (SK54)

まとめ 秋葉遺跡は、これまでの調査などを通じ縄文時代中期に形成された集落跡と認識されてきた。今回の調査でも、これまで捉えられていた縄文時代中期中葉から後期前葉という比定時期を踏襲する時期の遺構・遺物が確認された。また、調査面積に対する土器の出土量は非常に多く、石棒や土偶などの祭祀関係遺物も出土することから、当該時期の拠点集落であったことが再確認されたといえる。

なお、報告書刊行は平成31年度以降の予定である。

(今井さやか)

(6) 程島館跡 第7次調査 (2017006)

所在地 新潟市秋葉区程島字館ノ内1616番2 外

調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)

調査期間 平成29年7月21日～8月22日

調査面積 124.6㎡

調査担当 相澤裕子・龍田優子

処置 記録保存

調査に至る経緯 個人住宅建設に伴い、平成29年6月に確認調査(第6次・2017132)を実施した。その結果、表土直下に遺物包含層が確認され、遺構確認面も良好に残っていることが分かった。調査結果を基に事業主と協議を行い、基礎工事などで遺物包含層が掘削される範囲について、本発掘調査が必要となり、平成29年6月30日付で発掘調査依頼書、同日付で『法』93条届出が提出された。平成29年7月10日付新歴B第51号の14で着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

位置と環境 新津丘陵の北西末端部に位置し、標高は6m前後である。程島館跡は一辺110mの方形とされ、明治28年に作成された旧更正図では水田に囲まれた区画を確認できる。堀として掘削された部分は地盤が低くなっていることから水田として利用され、堀を掘削した土は内側に盛って土塁を築いたようである。土塁部分は旧更正図では畑として記載され、土塁の一部は現在も残っている。また、水田部分は城ノ越、水田に囲まれた内側には館ノ内という小字名も残る。程島館跡は、過去に6回の確認調査が行われたが、本発掘調査に至ったのは今回が初めてである。

検出遺構 遺構確認面の標高は5.3～5.7mで北へ向かって下がる。遺構はピット(柱穴など)81基、土坑12基、溝3条、性格不明遺構3基、掘立柱建物1棟を検出した。基本層序はI層:表土、IIa層:暗褐色土、IIb層:黒褐色土(古代・中世の遺物包含層)、III層:黒褐色土(縄文・古代の遺物包含層)、IVa層:におい黄褐色土(漸移層)、IVb層:褐色土(地山)である。大部分の遺構は出土遺物や覆土の色調から、古代・中世に属すると考えられる。形状・深さから井戸と考えられるような中世の土坑を1基検出したが、水が溜まった痕跡は確認されなかった。水脈に当たらず湧水がなかったため、掘削直後に掘った土で埋め戻されたものと判断した。

出土遺物 遺物はIIb層からは平安時代の土師器・須恵器と中世陶磁器、III層からは縄文土器(前期～中期)・石器・石製品、平安時代の土師器・須恵器が出土した。縄文土器がもっとも多く、次いで土師器、館が存在したであろう中世の遺物はごく少量である。黒曜石の原石や剥片も多数見つかったが、土坑(SK98)から出土した「の」

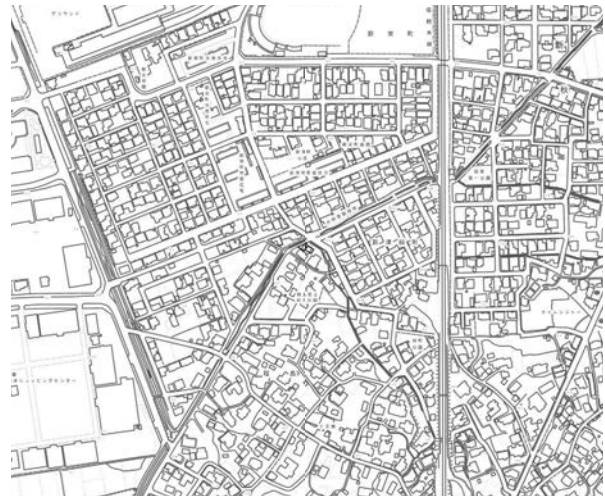
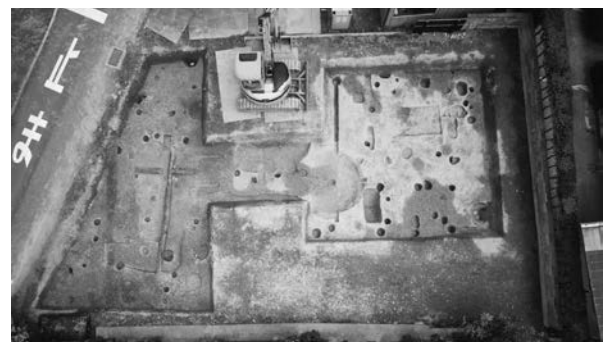


図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (左上が北)



「の」字状石製品 (SK98)

字状石製品は特筆される。縄文時代前期末～中期初頭に限定される垂飾で、全国的にも非常に珍しいが、市内ではほかに西蒲区角田山麓で3点出土している。また、環状粘土紐を貼り付けた土器の存在も特筆できる。これは径1mmほどの粘土紐を環状にし、土器に貼り付けた繊細な文様で縄文時代前期終末にみられる施文技法である。

まとめ これまで程島館跡では確認されていなかった縄文時代、平安時代にも人々が活動していたことが明らかになった。また、出土した黒曜石は原石1点が新津丘陵産だったほかは長野県星ヶ塔産と同定分析され、直接的あるいは間接的な交流を示す。なお、報告書は平成30年度に隣接地で行われた本発掘調査と併せて、平成31年度以降に刊行する予定である。(相澤裕子)

3 整理作業の概要

平成29年度に文化財センターが実施した発掘調査などの整理作業の一覧を調査番号順に表4に示した。整理作業のうち、主要なものについて以下に記す。

(1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

試掘・確認調査、工事立会は歴史文化課で実施し、出土遺物については文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

平成29年度は、前年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物の整理を行い、56調査分でコンテナ約30箱を収蔵した。報告書刊行済みの掲載資料は、コンテナ収納状況の点検を行い、接着剤や充填材の経年劣化により破損した資料の再接合などを適宜行っている。

(相澤裕子)

(2) 細池寺道上遺跡第29・31・46・48・50次調査の整理作業

整理作業の概要 細池寺道上遺跡は、県営圃場整備事業に伴い、平成19年度から毎年本発掘調査を行っている。南北1.8km、東西1.1kmに及ぶ広大な範囲内を継続して調査することで、新津丘陵と阿賀野川に挟まれた沖積地における古代から中近世の様相が、次第に明らかになってきている。

第25次調査(平成19年度調査)以降の県営圃場整備事業に係る細池寺道上遺跡の本発掘調査報告書は、『細池寺道上遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ』〔潮田2014、立木・相澤(高野)ほか2014、立木・細井ほか2015、立木・奈良ほか2017〕として平成25年度から順次計画的に刊行している。

整理の流れ 第29・31次調査(平成21・22年度調査)については、1冊にまとめて刊行する計画であり、平成29

年度は金属製品などの実測図のデジタルトレースと図版作成を外部委託して行った。

第46次調査(平成27年度調査)については、平成28年度に報告書編集作業まで終了していたため、平成29年度末の3月に『細池寺道上遺跡Ⅶ』〔立木・奈良ほか2018〕として刊行した。

第48次調査(平成28年度調査)は、平成28年度に遺構図面校正、遺物水洗・注記、分類・集計を行っており、平成29年度は遺物実測図作成、遺物写真撮影、図版作成、観察表作成、報告書原稿編集を外部に委託して行った。なお、第48次調査については、平成30年度に『細池寺道上遺跡Ⅷ』〔立木・奈良ほか2019〕として刊行した。

第50次調査(平成29年度調査)は、本発掘調査と並行して遺構図面校正、遺物水洗・注記、分類・集計などの基礎整理作業を行った。

整理作業の成果 第46次調査(平成27年度調査)区は、奈良・平安時代(8世紀後半から9世紀後半)と鎌倉・室町時代(13世紀前葉から15世紀前葉)、江戸時代(17世紀後半から19世紀)に断続的に営まれた集落跡とみられる。

古代は、焼土坑などが確認され集落の一端が明らかになった。中世の道路状遺構は3段階の変遷を経て、近世に埋没し、先行する第26次調査(平成20年度調査)〔立木・相澤(高野)ほか2014〕や第43次調査(市道改良に伴う平成26年度調査)〔遠藤・青木ほか2015〕で検出された道路状遺構との連続性を指摘することができた。また、近世の屋敷地では17世紀後半から18世紀前半の肥前系磁器がまとまって出土し、居住者の階層を推定できたことも大きな成果である。

なお、第50次調査(平成29年度調査)の報告書は、平成31年度以降に刊行する予定である。(立木宏明)

表4 平成29年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
道上遺跡	6	2005003	圃場整備	立木宏明・龍田優子・奈良佳子、 細野高伯・石川博行・重留康宏・安生素明・ 長澤展生・菊池康一郎(㈱シン技術コンサル)	基礎整理・遺物実測・報告書作成・印刷刊行
下久保遺跡	3	2006003			
細池寺道上遺跡	29・31・ 46・48・50	2009003・2010003・ 2015002・2016002・ 2017002			
大沢谷内遺跡	15・17・19	2009001・2010004・ 2011006	道路整備	相田泰臣	基礎整理・遺物実測・報告書作成
大沢谷内遺跡	25	2016001	道路整備	遠藤恭雄・澤野慶子	写真整理・報告書作成・印刷刊行
筑木遺跡	3	2016003	道路整備	龍田優子、 伊藤正志(㈱吉田建設)	報告書作成・印刷刊行
赤鎗砂山遺跡	5	2017001	商業施設建設	立木宏明・澤野慶子・奈良佳子	基礎整理・写真整理・遺物実測
浦木東遺跡	3	2017003	道路整備	金田拓也、 稲垣裕二(㈱イビソク)	基礎整理・写真整理・遺物実測
亀田道下遺跡	2	2017004	道路整備	遠藤恭雄・澤野慶子	基礎整理・写真整理・遺物実測
秋葉遺跡	13	2017005	個人住宅建設	今井さやか	基礎整理・写真整理
程島館跡	7	2017006	個人住宅建設	相澤裕子・龍田優子	基礎整理・写真整理
試掘調査・確認調査・ 工事立会・本発掘調査再整理事業	-	-	各種事業	相澤裕子	収蔵作業・台帳作成・遺物修復

4 資料の収蔵・保管

各項の概要及び基本的事項の詳細は、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014b〕。

(1) 収蔵方針

文化財センターでは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。

なお、文化財センター開館前の平成22年以前の発掘調査によらない考古資料は、各区の博物館や資料館などで保管・管理が行われている。

(2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫はⅢ4（6）に記載した。

埋蔵文化財収蔵庫 土器や石器など温湿度変化の影響を受けにくい資料を収蔵している。平成30年3月末時点でコンテナほか11,420箱、段ボール箱42箱が収蔵されている。

特別収蔵庫1・2 保存処理が完了した木製品や金属製品などを収蔵している。平成30年10月末時点で特別収蔵庫1にコンテナ899箱（木製品）、特別収蔵庫2にコンテナ191箱（金属製品99箱、骨・骨製品92箱）収蔵されている。特別収蔵庫2についてはコンテナへの資料入れ替え作業を行った結果、前年度より3箱減少した。

資料収蔵庫 発掘調査の図面や写真フィルム・測量成果簿、CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

図書室 Ⅲ6（6）に記載した。

(3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査（試掘・確認調査、本発掘調査、そのほかに工事立会を含む）に対して年度ごとに調査番号（7桁）を付けている。

(4) 再整理作業

文化財センター開館以前の調査資料について、平成29年度も継続して台帳整備などの作業を行っている。また、報告書刊行済みの資料は、適宜点検を行い、接着剤や充填材の経年劣化による破損が認められるものについて修復を進めた。

(5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺物・遺構に関しては台帳を作成し、図面や写真などの記録類はデジタル化されている。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータとしている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入力する前もしくはその後にpdfデータを作成している。

収蔵図書についても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。（相澤裕子）

(6) 民俗資料など

民俗資料収蔵庫には、農具・漁労具・生活用具などの民具を中心に収蔵している。平成28年度途中から非常勤職員を雇用し台帳作成などを行ってきたが、平成29年10月より本格的な再整理作業を開始した。民具収蔵庫内を11のブロックに分け、ブロックごとに旧黒埼町で作成された台帳との照合作業を進めている。台帳に記載されている整理番号の重複や、実物の所在不明、貼付されている写真との相違など、多くの問題が明らかになっている。

平成29年度の収蔵数は、台帳に記入が確認できる範囲で2,123件であり、未整理分も含めると3,000件近くになる。その内、平成30年3月末時点で598点の所在確認と台帳の照合作業を終了した。また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大形民具収蔵庫」として利用され、敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。（久住直史）

(7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

平成21年度にシステムを構築し運用を始め、その後統合型GISのOS変更に伴い平成27年度に再構築を行い、同年6月から改めて運用している。

システムの機能としては、「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」「図書検索」「地図表示」を備えている。

運用は開始されたが、「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」の記録類などをエクセルデータで一括取り込みが可能にできるようにするための機能については、現在も構築作業中である。（今井さやか）

5 資料の公開・展示

(1) 展示概要

『新潟市文化財センター条例』の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。詳しい方針及び概要については、『年報』第1号に記載している〔今井2014a〕。

平成26年度に文化財センターでは初めて企画展を開催し平成29年度で4年目を迎えた。内容は、市内8区の遺跡について時代や地域に偏りが無いようテーマを選び全4回開催した(表5)。今年度は、江南区、秋葉区、西蒲区、南区の遺跡をそれぞれ取り上げた。また、エントランスでは民俗資料の再整理中に発見された亀貝坂井家のガラス乾板の写真パネルを展示した。館外展示については1か所で行った。なお、企画展と館外展示事業は、経費の50%について国の補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を受けた。

展示室1 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器や木製品を壁一面に展示している。また、緒立遺跡出土の網代や御井戸遺跡の木柱などの大形木製品や、市内出土の木簡レプリカ104点、近世新潟町出土の陶磁器をケース内で展示している。なお、平成29年度は展示の変更は行っていない。

展示室2 「新潟市文化財センターの活動」、「遺跡が語る新潟市の歴史」、「企画展示コーナー」の大きく3つの展示に分かれている。

「新潟市文化財センターの活動」の一角には、平成28年度から「日本遺産関連展示」コーナーを設置して、秋葉遺跡と大沢谷内遺跡の紹介をしている。企画展示でケースを使用する時期を除き、通年で展示を行った。平成29年度は、大沢谷内遺跡のアスファルト付着遺物について「アスファルト精製実験」から考えるという内容の展示を新たに追加した。

また、展示室中央の企画展示コーナーでは4回の企画

展を開催した。各展示詳細についてはⅢ5(2)～(5)に記載する。

エントランス エントランスでは、大形品の展示のほか速報性のある出土品の展示を行っている。平成29年度には、新しく発見された「亀貝坂井家の写真」を展示した。このガラス乾板の詳細は『年報』5号に記載している〔金田・久住2018〕。

館外展示 平成29年度は文化財センター及び弥生の丘展示館の企画展以外に江南区郷土資料館での館外展示を行った。郷土資料館からの申し出によるもので、企画展示「国史跡 古津八幡山遺跡の過去と未来—これまでの発掘調査・整備とこれからの保存活用—」を同館で行った。展示詳細についてはⅢ5(6)に記載する。

まとめ 平成29年度の企画展示は、これまでよりも個別地域に主眼を置いた展示となった。このため、来館者も当該展示をした地域の方が多く、各地域の歴史の掘り起し・見直しに貢献できたといえる。特に、エントランスで行った「亀貝坂井家の写真」展示では、西区内の来場者から「西区に居住しているが坂井家の存在を知らなかった」などの感想が寄せられた。

なお、来館者からは「企画展パンフレットのバックナンバーを置いて欲しい」、「企画展パンフレットを冊子にしたものが欲しい」、「近代遺跡の企画展を行って欲しい」、「もっと市外にもセンターの企画展をPRしたほうがいい」などの声が寄せられた。企画展パンフレットのバックナンバーは、配架スペースが限られているため、希望があった場合に限り配布している。(今井さやか)



展示風景 (亀貝坂井家の写真)

表5 平成29年度文化財センター企画展一覧

企画展名	会期	企画担当	入館者数(人)	関連講演会・イベント			
				演目 イベント名	年月日	講師	参加者数 (人)
砂丘と遺跡Ⅰ —信濃川左岸の砂丘上の遺跡—	2017/4/18(火) ～7/2(日)	今井さやか	3,469	古代の塩づくり	2017/4/29(土・祝)	小林隆幸氏 (新潟市歴史博物館)	35
				新津丘陵の縄文社会を探る —土器に混じる砂粒からの情報—	2017/7/23(日)	前山精明	39
新津丘陵の縄文社会を探る —土器に混じる砂粒からの情報—	2017/7/11(火) ～10/1(日)	龍田優子 前山精明	3,287	展示解説	2017/9/3(日)	前山精明	56
				古墳時代の角田・弥彦山麓周辺	2017/11/3(金・祝)	相田泰臣	61
角田・弥彦山麓周辺の古墳社会を探る —西蒲区周辺の古墳時代—	2017/10/11(水)～ 2018/1/8(月・祝)	相田泰臣	2,834	展示解説	2017/10/13(金)・28(土)	相田泰臣	60
				中世越後における材木の生産・流通とその場 —新潟市木津のルーツにせまる—	2018/1/21(日)	高橋一樹氏 (武蔵大学教授)	74
木製品から見た中世の暮らし —南区の低湿地遺跡—	2018/1/16(火) ～2018/3/29(木)	今井さやか 渡邊朋和	2,035				

(2) 企画展1 「砂丘と遺跡Ⅰ

—信濃川左岸の砂丘上の遺跡—

会 期 平成29年4月18日(火)～7月2日(日)

担 当 今井さやか

入館者数 3,469人

展示概要 新潟市には、海岸に並行した10列の砂丘と、その砂丘に阻まれて排水不良となった海岸平野が広がっている。砂丘上には古くは6,500年前の縄文時代から多くの遺跡がある。本展示はその中でも信濃川左岸の西区を中心とする砂丘上に立地する遺跡を紹介した。

展示構成

- 1) 新潟の砂丘—新潟砂丘はどうできたか
- 2) 砂丘に進出した人々—縄文時代・弥生時代
- 3) 砂丘に築かれた古墳—古墳時代
- 4) 内水面交通の要所—古代
- 5) 砂丘で塩づくり—古代～近世
- 6) 赤塚に多い中世遺跡—中世
- 7) 砂丘から砂州へ—近世
- 8) 近代から現代の砂丘利用

主要展示 1) では、開発が進み意識しないと分からない砂丘の地形を感じてもらう目的で、新潟市内全域の明治44年の帝国陸軍陸地測量部地図と昭和23年の米軍撮影空中写真を展示した。

2) では、市内の砂丘上に立地する遺跡で最も古い布目遺跡から出土した縄文時代前期の深鉢形土器(新潟大学考古学研究所蔵)をはじめ、六地山遺跡の弥生土器(長岡市立科学博物館蔵)を展示した。4) では、的場遺跡・四十石遺跡といった潟端に立地する砂丘での漁労や流通などについて紹介した。5) では、古代の砂丘上の遺跡で出土する製塩土器から、9世紀に越後・佐渡の塩と米が陸奥国志波城と出羽国雄勝城の造営のために送られていた社会背景を解説した。また、近年まで西区から西蒲区の海岸で塩を生産していたことも紹介した。6) では、木山古銭出土地の古銭を展示した。赤塚には木山古銭出土地を含め6か所の古銭出土地があり、市内の古銭出土地のほとんどが赤塚にある。また、大藪遺跡では県内では2例しかない黄釉陶器が出土していることから、中世の赤塚をもっと注目していただけるような展示を行った。

8) では、近現代の砂丘利用として赤塚地域でダイコンやタバコの栽培が盛んなことを紹介し、赤塚で使われていたタバコの葉を平らにするための「ハノシガメ」などの民俗資料を展示した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 古代の塩づくり

講 師 小林隆幸氏(新潟市歴史博物館)

日 時 平成29年4月29日(土・祝)

午後1時30分～3時30分

参加者数 35人

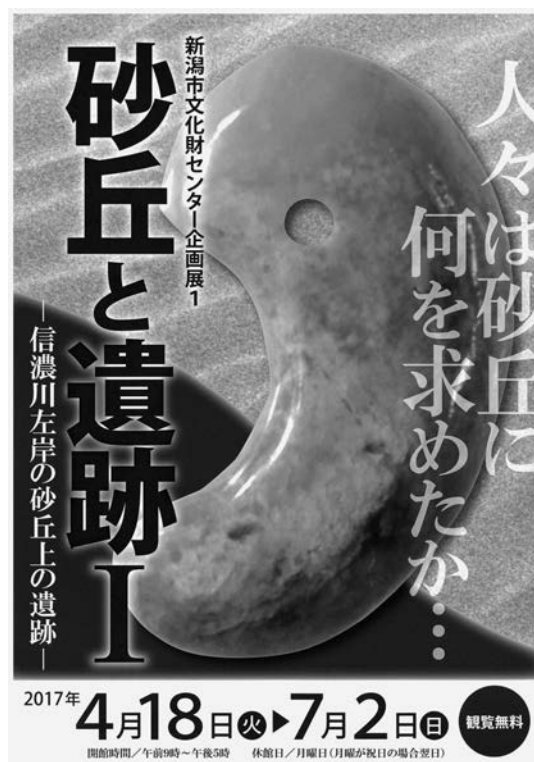
新潟市歴史博物館で製塩実験を行ってきた小林氏から、実験の結果を中心に、古代の塩づくりと市内の製塩遺跡について講演していただいた。

展示解説 講演会終了後に展示担当による展示解説を行った。

入館者の声 「遺跡の立地状況がある程度理解できた。当時の社会・経済に関心を持つことができた」、「低湿地に早くから人々が住むことができたのも砂丘列が関係していることがよくわかった」などの感想が寄せられた。

また、赤塚・中原邸保存会の歴史ガイドのご協力をいただき、展示と赤塚地域のまちあるきをセットにしたバスツアーを企画した。砂丘の地形と大藪遺跡をコースに入れたこのまちあるきは、人気番組の影響もあって定員を大幅に上回る企画となった。また、参加者の評判も良かったため、今後もこのようなまちあるき連動企画を計画していきたい。なお、このツアーは広聴相談課の「個人で参加する動く市政教室」の制度を利用している。

ま と め 砂丘への関心がこれまでになく高まっていることから、遺跡にも目を向けてもらうよう企画した展示であったが、市内の砂丘上に立地する遺跡は1回の企画展では紹介しきれないため、来年度以降もシリーズ化していく予定である。(今井さやか)



チラシ表

(3) 企画展 2 「新津丘陵の縄文社会を探る
—土器に混じる砂粒からの情報—」

会 期 平成29年 7月11日(火)～10月1日(日)
担 当 前山精明・龍田優子
入館者数 3,287人

展示概要 縄文時代の遺跡が60か所ほど分布する新津丘陵に焦点を当てた企画展である。新津丘陵周辺では、約5,500年前の縄文時代中期前葉に定住生活が始まる。それ以来、丘陵上に集落を構え周辺にはキャンプ地を設けていたが、新津丘陵の縄文人の活動は亀田砂丘や角田山麓にまで及んでいる。最新の調査成果に基づき、新津丘陵に居住した人々の活動を土器に含まれる砂粒の特徴などから検討した。新津丘陵産の黒曜石を混ぜ合わせた可能性がある土器や、大沢谷内遺跡から出土したアスファルトなど、約500点に及ぶ展示品を多角的に紹介し、当時の社会の様子を探った。

展示構成

- 1) 新津丘陵の主な縄文遺跡
- 2) 土器に混じる砂粒からの情報
- 3) 集落とキャンプ地
- 4) 遠隔地との交流
- 5) 大沢谷内遺跡群を考える

主要展示 新津丘陵に分布する遺跡の中から、企画展で取り上げた11遺跡の立地と概要を写真パネルで紹介した。各遺跡出土の土器に含まれる混和材と、周辺河川などで採取した砂粒の共通性から集落遺跡とそのキャンプ地として考えられる遺跡を類推した。また、そこから想定される縄文時代の人々の活動範囲についても探った。新津丘陵産黒曜石が土器に含まれている可能性を指摘し、板山産や長野県星ヶ塔産の黒曜石とともに焼成実験を行った。発泡温度は一様でなく新津丘陵産黒曜石が950℃と高いことを示し、土器の混和材である可能性を高める結果となった。最後に、新津丘陵の東側に立地する大沢谷内遺跡群は、出土品から当時の交易キャンプ的な性格であることを見出した。

関連講座 企画展の関連講座を開催した。

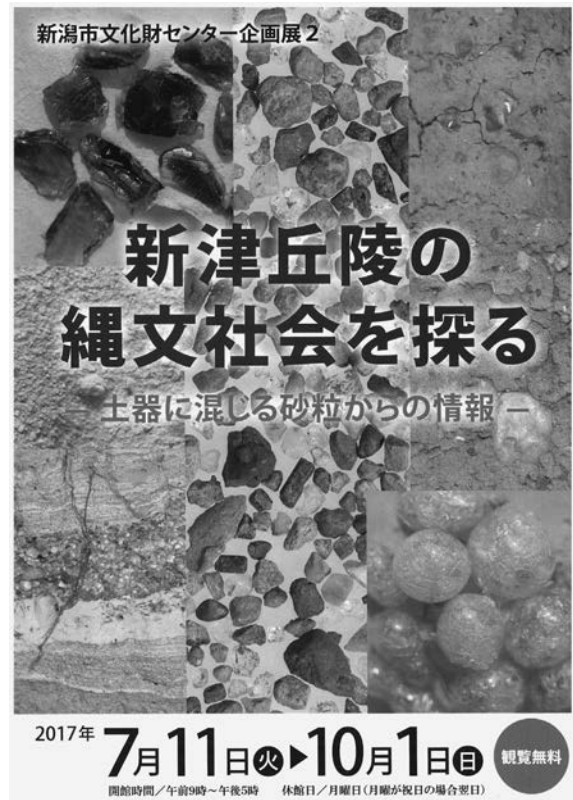
演 目 新津丘陵の縄文社会を探る—土器に混じる砂粒からの情報—
講 師 前山精明
日 時 平成29年 7月23日(日)
午後1時30分～3時30分
参加者数 39人

土器に含まれる砂粒等から新津丘陵周辺の縄文社会の動きをセンター職員が解説した。参加者は皆、熱心に聞き入っていた。

展示解説 展示担当による展示解説を2回開催した。
日 時 平成29年 7月23日(日) 講座終了後、
9月3日(日) 午後1時30分～3時30分
参加者数 39人(7/23)、56人(9/3)

入館者の声 「根気のいる作業を基にした展示」、「地域に根差した緻密な展示」など、概ね好評であったが「解説がないと難しい」という意見も寄せられた。

まとめ 新津丘陵に焦点を絞り、形の分かるような土器や文様からだけではなく、周辺の川砂を分析し、破片資料から読み取れる縄文時代の人々の動きを推測する画期的な企画展となった。混和材としての可能性が指摘できる新津丘陵産黒曜石と、その発泡温度は新発見であり大きな成果であった。(龍田優子)



チラシ表



関連講座風景 (新津丘陵の縄文社会を探る)

(4) 企画展3 「角田・弥彦山麓周辺の古墳社会を 探る—西蒲区周辺の古墳時代—」

会 期 平成29年10月11日（水）～

平成30年1月8日（月・祝）

担 当 相田泰臣

入館者数 2,834人

展示概要 角田・弥彦山麓は、県内において古墳時代前期に有力な古墳が多く造られた地域であり、前方後方墳・前方後円墳の分布における日本海側の北限に位置する。一方、北海道に起源をもつ続縄文土器については、古墳時代の分布における日本海側の南限に位置している。これらのことは、角田・弥彦山麓が古墳時代における文化の大きな境界域に位置していたことを示している。企画展では、角田・弥彦山麓周辺に焦点を当て、古墳時代の古墳や集落、当時の社会や地域間交流とその特色などについて展示や解説を行った。

展示構成

- 1) 角田・弥彦山麓の考古学研究のあゆみ
- 2) 古墳時代の角田・弥彦山麓の古環境
- 3) 古墳出現前夜の角田・弥彦山麓
- 4) 角田・弥彦山麓の古墳と集落

角田・弥彦山麓の古墳時代前期

角田・弥彦山麓の古墳時代中期

角田・弥彦山麓の古墳時代後期

角田・弥彦山麓の古墳時代終末期

主要展示 2)では、ボーリングデータを基に地質学から復元されている越後平野の古環境について紹介するとともに、遺構や遺物など考古学の面からも越後平野の古環境について若干の推定を行った。

4)では、角田・弥彦山麓の古墳と集落について前期から終末期の4つの時期に分けて展示・解説を行った。

前期では山谷古墳や菖蒲塚古墳、御井戸遺跡、南赤坂遺跡、蒲田遺跡のほか、海岸部の遺跡として穴口遺跡、うぶすめ遺跡などを取り上げた。南赤坂遺跡では、北方社会との交流がうかがえる県指定文化財である続縄文土器や折衷土器、石器類のほか、御井戸遺跡出土の続縄文土器についても展示、解説を行った。中期では御井戸遺跡、後期では夷塚遺跡を中心に展示、解説を行った。なお、夷塚遺跡は文献などの記録や出土品などから古墳であった可能性が高い。展示前に夷塚遺跡から出土したとされる鉄刀1振りの所在が判明したため、所有者から借用して展示した。また、終末期では大島橋遺跡の資料を中心に展示を行った。

関連講座 企画展の関連講座を開催した。

演 目 古墳時代の角田・弥彦山麓周辺

講 師 相田泰臣

日 時 平成29年11月3日（金・祝）

午後1時30分～3時

参加者数 61人

展示構成に沿って、越後平野の古環境や角田・弥彦山麓の古墳や集落、出土遺物などを紹介し、その動向や他地域との地域間関係、その背景などについて解説した。

展示解説 関連講座終了後に展示担当による展示解説を行ったほか、広聴相談課主催の「動く市政教室」の事業として10月に2回「西蒲区古墳巡り」を実施し、その中で各回とも担当による展示解説を行った。

日 時 平成29年11月3日（金・祝）講座終了後、

平成29年10月13日（金）・10月28日（土）

午前10時～11時

ま と め 上記したが、本企画展に合わせて角田・弥彦山麓の古墳巡りを実施した。展示を見て解説を聞いた古墳を現地で実際に見て回り、その構造や大きさ、立地、眺望などを確認し、体感してもらおうという企画である。途中、林道や坂道など、場所によっては険しいところもあったが、両日とも天候に恵まれ、参加者からは大変好評であった。また、2回の定員60人のところ2倍以上の123人の応募で抽選が行われたという。今後も機会があればこのような企画をぜひ実施したい。（相田泰臣）



展示風景（展示室2）



展示解説風景（動く市政教室「西蒲区古墳巡り」）

(5) 企画展4 「木製品から見た中世のくらし
—南区の低湿地遺跡—」

会 期 平成30年1月16日(火)～3月29日(木)
担 当 今井さやか・渡邊朋和
入館者数 2,035人

展示概要 木製品は、当時の生活を詳細に復元できる遺物のひとつである。土器や陶磁器だけでは、工具や農具といった生産活動を知ることは難しい。南区には、馬場屋敷遺跡・浦廻遺跡・小坂居付遺跡など木製品が大量に出土した中世の遺跡がある。それらの遺跡で出土した木製品から、生業やまじないなど当時の人々の生活を考えた企画展である。

展示構成

- 1) 馬場屋敷遺跡—木製品から見るくらし—
- 2) 木製容器と木取りの変化
- 3) 新潟の職人
- 4) 小坂居付遺跡—水害に何度も見舞われた水田—
- 5) 絵図から見る中世の履物
- 6) 調理具の変化
- 7) 浦廻遺跡—中世の葬送—

主要展示 1) では、南区の代表的な遺跡で1983年に本発掘調査された馬場屋敷遺跡出土の木製品を展示し、農具・漁労具・紡織具など種類ごとに紹介した。立った状態で検出された柱の展示を行い、広葉樹が主体であること、分割材には鉾や鉋の加工痕が明瞭に残っていることを示した。2) では、容器の木取りについて「横木取り」と「縦木取り」の再現モデルを展示し、放射組織を年輪と誤認してしまう報告書が多数あることを示した。3) では、鋸・曲物・下駄など昔からの技術を今に伝える県内の職人を紹介した。遺跡から出土した遺物を基にした道具の復元にご協力していただいた方々である。

4)～6) では、小坂居付遺跡出土の10,000点を超す木製品の中から漆器椀などの食膳具、まじないなどに使用した人形などの祭祀具、下駄や草履などの履物を展示した。また、出土した木製品の使われ方について、中世の絵巻物を参考にパネル展示を行った。

7) では、中世の葬送が分かる浦廻遺跡の出土品を展示した。墓石や土盛りを持たない地上葬であっても、脚付膳などの高級な漆器や「南無阿弥陀仏」と書かれた卒塔婆が供えられていることから、決して粗雑な扱いを受けていなかったことを紹介した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 中世越後平野における材木の生産・流通とその場—新潟市木津のルーツにせまる—

講 師 高橋一樹氏(武蔵大学教授)

日 時 平成30年1月21日(日)
午後1時30分～3時30分

参加者数 74人

中世史研究の第一人者である高橋一樹氏の講演会を行った。講演会では、京都や奈良の有力な寺社が建築材の調達のために山林を荘園として確保していたことや、その材木の集散地が「木津」という地名であったことに着目し、市内江南区にある「木津」も阿賀野川からの材木集散地であった可能性について触れた。

展示解説 講演会終了後に展示担当による展示解説を行った。

入館者の声 「縄文土器のような派手さは無いが、他では見られない内容の展示で参考になった」、「新潟平野の特徴を表す展示。これからも継続的に新しい成果を展示して欲しい」などの意見があった。

ま と め 南区は市内でも遺跡数の少ない区である。しかし、今回取り上げた南区の3遺跡は中世の暮らしぶりを知ることができる貴重な木製品が大量に出土している。県指定されている浦廻遺跡出土品とともに、馬場屋敷遺跡の出土品や遺跡自体が再評価された非常に意味のある展示となった。(今井さやか)



展示風景 (展示室2)



関連講演会風景 (中世越後平野における材木の生産・流通とその場)

(6) 館外展示 「国史跡 古津八幡山遺跡の過去と未来—これまでの発掘調査・整備とこれからの保存活用—」

会 期 平成29年7月29日(土)～8月28日(月)

会 場 江南区郷土資料館

担 当 相田泰臣

入館者数 1,907人

展示概要 本企画展は、平成29年度に弥生の丘展示館で開催した企画展1「古津八幡山遺跡の保存・活用」(IV 1 (2) で記載)のタイトルや展示内容を一部変更して、江南区郷土資料館で開催したものである。なお、展示解説は行わなかった。

展示構成

- 1) これまでの発掘調査の概要
- 2) これまでの整備の概要
- 3) 今後の計画(保存管理)
- 4) 今後の計画(活用)
- 5) 今後の計画(整備)
- 6) 古津八幡山古墳の土層剥ぎ取り標本
- 7) 古津八幡山遺跡フォトコンテスト入賞作品

主要展示 弥生の丘展示館で開催した企画展示に加え、新たに古津八幡山古墳の土層剥ぎ取り標本や、平成28年度に実施した第1回古津八幡山遺跡フォトコンテストの入賞作品を展示した。また、これまでの古津八幡山遺跡発掘調査と整備事業についてまとめた映像や、遺跡のガイドブックなどを閲覧できるスペースを設けた。

ま と め 広い展示スペースが確保できたため、普段は展示することが出来ない古津八幡山古墳の剥ぎ取り標本を解説とともに展示することで、古墳の築造方法やその特徴について実際に見て理解してもらえるよう心掛けた。

また、フォトコンテストの入賞作品は、いずれも普段とは異なる遺跡の姿を見せ、現地へ行ってみたいと思わ



展示風景(入口)

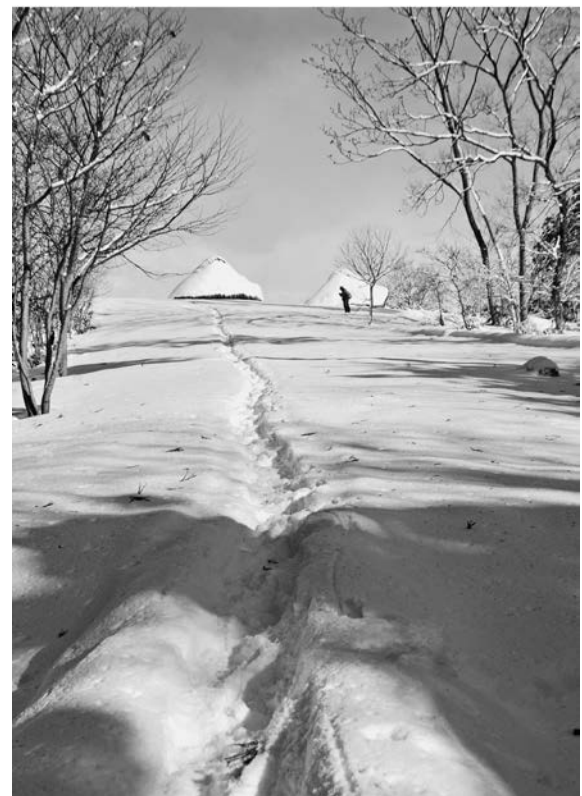
せる作品ばかりであった。このような館外展示をきっかけに、古津八幡山遺跡をはじめ、遺跡や郷土の歴史に対する愛着や理解がより深まって欲しいと思う。(相田泰臣)



展示風景(展示室)



展示風景(展示室)



第1回古津八幡山遺跡フォトコンテストグランプリ
「八幡山遺跡への道」(撮影者:今井富夫氏)

6 教育普及活動

(1) 公開講座

文化財は地域の成り立ちなどを知る上で重要な役割を担っている。文化財センターでは市民が地域の歴史や文化に対する理解を深められるように、収集している考古資料及び民俗資料を積極的に公開・活用し、様々な講座・体験イベントを実施している。以下、平成29年度に実施した公開講座の概要について述べる(表6)。

講座 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座は、企画展の内容に関連した講座を行った。詳細は各企画展の頁を参照いただきたい。民俗学講座では、新潟県民俗学会の会員を講師に招き2回の講座を行った。

また、観察再現講座と題して遺物を観察し、当時の技術と工夫を体感する講座を開催した。平成29年度も引き続き縄文土器を観察して再現する講座を年2回行った。

体験イベント 子ども向け歴史体験「縄文土器づくり」「文化財センター仕事体験」を夏休みに開催した。いずれも6年継続している定番事業である。今年度は新たに「藍の生葉染め体験」として、古代から使われてきた染料の藍について知り、簡単にできる生葉染め体験を行った。藍はタデアイをセンターの敷地内で育てて使用した。12月には新規事業として坂井輪切り絵同好会を講師に「切り絵で干支の正月飾りをつくる」を開催した。季節の行事が減る中、伝統の正月飾り作りは好評だった。

また、旧武田家住宅を会場にして地域の方々との交流を目的とした2つのイベント「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」と「民具と民話を楽しむ会」を開催した。

表に記載はないが、9月24日(日)に西区地域課が主催する「ふれふれ西区ふれあいまつり」に文化財センターのブースを設けて「ドキドキ弓矢体験」を行い543人が体験した。

速報会 平成29年度の遺跡発掘調査速報会では、講演の部に株式会社パレオ・ラボの佐々木由香氏を招き、「新潟市における植物資源利用史」と題して講演いただいた。報告の部では、本発掘調査を行った7遺跡すべての報告が行われた。

出前講座・職員派遣 文化財センターでは、依頼に応じて、研究団体、地方自治体、市民団体などへ職員派遣を行っている。平成29年度は、市民団体からの講座や学習会の依頼が多く、公民館・各区地域課からの体験講師依頼も5件と増加した。小学校の利用は、3学年の「昔の暮らし」において出前授業を4件行った(表7)。

(2) 施設利用

文化財センターでは、展示見学のほかに「体験コーナ

ー」として研修室の一部を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができる場所を設けている。体験コーナーでは、「開館時間中であれば、いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当を負担していただいている。また、無料の体験として新潟市などから出土した土器を基に制作した「土器パズル」が5点ある。

今年度から、通常体験「勾玉・和同開珎づくり・銅鏡づくり」に加え、これまで季節限定でゴールデンウィークと夏休み期間・冬休み期間に行っていた火起こし体験や土器づくり体験などを月別の体験メニューとして行うことにした。その結果、前年度まで行っていた火起こし体験が447人(前年度352人)、土器・土偶づくりが127人(前年度102人)となり、新たに追加したメニューの弓矢体験が216人、総体験参加者数が個人1,890人(前年度1,315人)、団体3,024人(前年度2,197人)と大幅に伸びた(表8)。

また、旧武田家住宅及び体験広場(芝生)の貸出(有料)を行っている。利用状況は表9のとおりである。古民家の雰囲気を楽しむサークルでの活動や、企業の商品イメージ撮影など様々な目的で利用されている。

(3) 入館者数

当センターの入館者数は表10のとおりで12,767人である。平成28年度に比べて137人増加した。

入館者のアンケートからは、「動画を活用し、より分かりやすい展示をできないか」、「もっとPRを頑張った方が良い」、「広域農道側に入口看板を設置して欲しい」などの要望やご指摘をいただいた。アクセス経路への要望は、依然として多くの方から寄せられている。また、「展示品の数に圧倒された」、「他の県にはない充実した体験メニューだと思う」という嬉しい感想もいただいている。

平成30年3月末までの開館からの累計入館者数は80,779人である。

(4) 団体見学・施設見学

小学校や子ども会などの子どもが主体の団体では、見学だけではなく体験活動を組み込むことが多い。特に小学校では社会科の授業として4・5月には6学年の歴史で、11～1月は3学年の昔のくらしの学習で利用する傾向にある。平成29年度では、小学校・中学校の利用は35校で平成28年度よりわずかに増加した。社会科の授業以外では、総合学習で利用する学校もある。総合学習では地域の水害史や地名の由来といった地域史の内容での授業が多い(表11)。(今井さやか)

表6 平成29年度文化財センター公開講座一覧

企画展関連講演会・イベント

年月日	内 容	講 師	人数
2017/4/29 (土・祝)	古代の塩づくり	小林隆幸 (新潟市歴史博物館)	35
2017/7/23 (日)	新津丘陵の縄文社会を探る—土器に混じる砂粒からの情報—	前山精明	39
2017/11/3 (金・祝)	古墳時代の角田・弥彦山麓周辺	相田泰臣	61
2018/1/21 (日)	中世越後における材木の生産・流通とその場—新潟市木津のルーツにせまる—	高橋一樹 (武蔵大学教授)	74

観察再現講座

年月日	内 容	講 師	人数
2017/6/3 (土)	海揚がりの縄文土器をつくる 【大人向け】3週連続 (6/3、6/10、6/17)	今井浩男・佐藤英世・齋藤純子・ 笹川信栄・押味竹男・高橋正子・ 頼所邦雄・廣川司 (まいぶんポートボランティア)	10
2017/11/4 (土)	十日町市笹山遺跡の国宝火焔型土器をつくる 【大人向け】5週連続 (11/4、11/11、11/18、11/25、12/2)	今井浩男・佐藤英世・齋藤純子・ 笹川信栄・押味竹男・高橋正子・ 頼所邦雄・廣川司 (まいぶんポートボランティア)	10

民俗講座・イベント

年月日	内 容	講 師	人数
2017/5/27 (土)	黒埼の低湿地の生産具	森行人 (新潟市歴史博物館)	30
2017/7/2 (日)	黒埼の民具と民話を楽しむ会	新潟民話の語り手交流会黒埼とんと	65
2017/9/9 (土)	路傍の石仏に学ぶ	渡邊三四一 (新潟県石仏の会)	63
2017/10/1 (日)	黒埼の民具とお茶を楽しむ会	江戸千家新潟不白会	69
2017/12/9 (土)	切り絵で正月飾りを作ろう	坂井輪切り絵同好会	21
2017/12/14 (木)	高機で裂き織 (12/14、12/15、12/16 3日間開催)	田村陽子・齋藤純子 (まいぶんポートボランティア)	15

夏休み子ども歴史体験

年月日	内 容	講 師	人数
2017/7/30 (日)	文化財センター仕事体験 君も考古学者	今井さやか・龍田優子	9
2017/8/6 (日)	ドキドキ 土器づくり	今井さやか、 まいぶんポートボランティア	31
2017/8/11 (金・祝)	藍の生業染め	今井さやか、 丸山富子・押味竹男 (まいぶんポートボランティア)	21

新潟市遺跡発掘調査速報会

年月日	内 容	講 師	人数
2018/2/18 (日)	講演 新潟市における植物資源利用史	佐々木由香 (株式会社パレオ・ラボ/明治大学黒曜石研究センター)	100
	報告 秋葉遺跡 —新津丘陵を拠点とした縄文人のくらしと折り—	今井さやか	
	報告 程島館跡 —新津丘陵末端に立地する縄文時代・平安時代・中世の遺跡—	相澤裕子	
	報告 古津八幡山遺跡 —新たに見つかった弥生時代の掘立柱建物と堅穴住居—	相田泰臣	
	報告 浦木東遺跡 —旧河川の自然堤防上に点在する古墳時代の集落の痕跡—	金田拓也	
	報告 赤縮砂山遺跡 —低地に進出する奈良・平安時代の遺跡—	澤野慶子	
	報告 亀田道下遺跡 —亀田砂丘西端の古代と近世の遺跡—	遠藤恭雄	
	報告 細池寺道上遺跡 —古代の河川の集落と中世の水田跡—	立木宏明	

ボランティアステップアップ講習会

年月日	内 容	講 師	人数
2017/8/4 (金)	ステップアップ勉強会「秋葉遺跡の土器の洗浄」	今井さやか	10
2017/9/13 (水)	ステップアップ勉強会「細池寺道上遺跡発掘調査現場体験」	立木宏明	7

表7 平成29年度文化財センター職員派遣・出前講座一覧

年月日	内 容	会 場	依 頼 者	派遣職員名
2017/5/10 (水)	遺跡についての学習会	西地区公民館	きらめきの会	今井さやか
2017/6/10 (土)	親子で一緒に森の学校—弥生染め・勾玉づくり—	秋葉山公園	新津青年会議所	渡邊朋和・ 相澤裕子
2017/7/31 (月)	昔のくらし体験—民具体験・勾玉づくり	小針青山公民館	小針青山公民館	今井さやか・ 久住直史
2017/8/1 (火)	縄文土器づくり教室	北地区公民館	北区郷土博物館	今井さやか
2017/8/7 (月)	縄文土器づくり教室	江南区郷土資料館	江南区地域課	今井さやか・ 龍田優子・ 久住直史
2017/8/18 (金)	新潟市の遺跡についての学習会	坂井輪地区公民館	きままクラブ	今井さやか
2017/8/22 (火)	勾玉づくり・火起こし教室	江南区郷土資料館	江南区地域課	龍田優子・ 久住直史
2017/8/23 (水)	的場遺跡・緒立遺跡について	的場遺跡公園	越後の古城めぐり	今井さやか
2017/9/14 (木)	的場遺跡について	的場遺跡公園	坂井輪地域学	今井さやか
2017/9/15 (金)	祖父母学級—民具について	鑑郷小学校	鑑郷小学校	今井さやか
2017/9/17 (日)	西川地区の縄文から平安時代	西川地域コミュニティセンター	西川地域コミュニティ協議会	前山精明
2017/11/2 (木)	勾玉づくり	地域活動支援センター日だまり	地域活動支援センター日だまり	今井さやか
2017/11/10 (金)	遺跡調査の見学	細池寺道上遺跡	新関小学校	立木宏明
2018/1/19 (金)	3学年社会科授業「昔のくらし」	亀田小学校	亀田小学校	今井さやか・ 久住直史
2018/1/24 (水)	3学年社会科授業「昔のくらし」	早通南小学校	早通南小学校	今井さやか・ 久住直史
2018/1/26 (金)	3学年社会科授業「昔のくらし」	立仏小学校	立仏小学校	久住直史
2018/1/30 (火)	3学年社会科授業「昔のくらし」	大形小学校	大形小学校	今井さやか・ 久住直史
2018/3/10 (土)	文化財保存新潟県協議会講演会	新潟産業大学	文化財保存新潟県協議会	渡邊朋和
2018/3/27 (火)	昔のくらし体験—民具体験・土鈴づくり	坂井輪地区公民館	坂井輪地区公民館	今井さやか・ 久住直史

表 8 平成29年度文化財センター体験利用人数

個人

メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり	47	89	66	26	165	47	40	50	26	37	24	41	658
鋳造体験(和同開珎)	5	32	12	6	68	38	19	17	12	10	16	3	238
鋳造体験(鏡)	7	23	8	11	12	2	8	18	6	1	4	10	110
火起こし(5・6・8月)		134	82	-	231	-	-	-	-	-	-	-	447
弓矢体験(4・11・3月)	86	-	-	-	-	-	-	-	54	-	-	-	216
裂き織り(7・12月)	-	-	-	29	-	-	-	-	65	-	-	-	94
土器・土偶づくり(9・10・1・2月)	-	-	-	-	-	27	28	-	-	25	47	-	127
合計	145	278	168	72	476	114	95	139	109	73	91	130	1,890

団体

メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり	164	239	25	9	17	0	11	61	0	0	0	0	526
鋳造体験(和同開珎)	0	0	0	4	0	18	2	0	0	0	0	0	24
土器・土鈴・土偶づくり	114	210	25	13	9	147	124	0	0	0	0	0	642
弓矢体験	77	0	0	0	0	179	0	47	0	0	0	26	329
火起こし	508	413	0	13	87	292	117	47	0	0	0	26	1,503
合計	863	862	50	39	113	636	254	155	0	0	0	52	3,024

※出前分は含まない

表 9 平成29年度旧武田家住宅利用状況

年月日	利用者名	目的
2017/6/24(土)	新潟市歴史博物館	「みなとびあワラ部」活動
2017/6/28(水)	ニューズライン	広告イメージ撮影
2017/8/4(金)	西区農政商工課	茶豆講話会
2017/8/6(日)	足立茂久商店	商品イメージ写真撮影
2017/9/24(日)	志賀 洋子	歌声のつどい
2017/9/30(土)	黒崎南小学校	ふれあいスクールまめっ子 活動
2018/1/27(土)	おらって市民エネルギー	月例会

表10 平成29年度文化財センター入館者数

月	開館日数	入館者数(人)				累計(開館から)
		個人	団体	全体	1日平均	
4	26	781	576	1,357	52	69,369
5	26	849	611	1,460	56	70,829
6	26	806	217	1,023	39	71,852
7	26	763	72	835	32	72,687
8	27	1,158	254	1,412	52	74,099
9	25	832	380	1,212	48	75,311
10	26	821	416	1,237	48	76,548
11	24	782	347	1,129	47	77,677
12	22	651	166	817	37	78,494
1	24	690	209	899	37	79,393
2	24	618	0	618	26	80,011
3	26	719	49	768	30	80,779
合計	302	9,470	3,297	12,767	42	

表11 平成29年度文化財センター団体利用・行政視察一覧

年月日	団体名	利用内容	人数
2017/4/13(木)	地域の茶の間「絆」(江南区)	見学	30
2017/4/20(木)	木場保育園(西区)	広場	13
2017/5/10(水)	いきいき男のセミナー(西区)	見学	25
2017/5/14(日)	新潟南福祉会(西蒲区)	見学	8
2017/5/17(水)	西区農政商工課	見学	6
2017/5/24(水)	西区農政商工課バスツアー	見学	32
2017/5/24(水)	木場保育園	広場	18
2017/5/26(金)	新潟市歴史博物館館長バスツアー	見学	28
2017/5/30(火)	動く市政教室「砂丘と遺跡」	見学	32
2017/6/3(土)	新潟日報カルチャースクール	見学	11
2017/6/6(火)	坂井輪地域学(西区)	見学	11
2017/6/9(金)	動く市政教室「砂丘と遺跡」	見学	28
2017/6/10(土)	川西3丁目サロン会(北区)	見学	22
2017/6/15(水)	木場保育園(西区)	広場	19
2017/6/16(金)	西区農政商工課バスツアー	見学	19
2017/6/16(金)	自由が丘自治会地域の茶の間(西区)	見学	12
2017/6/17(土)	弁湯小学校1年生学年行事(西蒲区)	見学・勾玉・土鈴	43
2017/6/18(日)	西区農政商工課バスツアー	見学	22
2017/6/25(日)	レストランバスツアー	見学	25
2017/7/9(日)	ふれあい味方(南区)	見学	10
2017/7/22(日)	西川地域コミュニティ協議会(西蒲区)	見学	15
2017/7/23(日)	旗屋子ども会(西蒲区)	見学・火起こし・勾玉・和同開珎	28
2017/7/25(火)	放課後等デイサービスココロ館(中央区)	見学・土偶	19
2017/8/4(金)	動く市政教室「大鷲子ども会」(南区)	見学	29
2017/8/4(金)	西区農政商工課「くろさき米豆堪能ツアー」	見学	17
2017/8/16(水)	明田子ども会(西区)	見学・火起こし・土器	15
2017/8/18(金)	株式会社水倉組(西蒲区)	見学	10
2017/8/20(日)	ゆうばえの家(西区)	見学	12
2017/8/22(火)	動く市政教室「晴美団地自治会」(西区)	見学	40
2017/8/25(金)	動く市政教室「浦山3区1区自治会」(西区)	見学・火起こし	21
2017/8/25(金)	動く市政教室「本町12番町自治会」(中央区)	見学・火起こし	9
2017/9/20(水)	ゆうばえの家(西区)	見学	12
2017/9/27(火)	有徳の家(西区)	見学	31
2017/9/30(土)	黒崎南小学校まめっ子クラブ	見学・弓矢	37
2017/10/5(木)	岩室地区公民館(西蒲区)	見学	23
2017/10/6(金)	きまクラブ(西区)	見学	15
2017/10/13(金)	動く市政教室「西蒲区の古墳めぐり」	見学	32
2017/10/14(土)	小林コミュニティ協議会(南区)	見学・勾玉・和同開珎	13
2017/10/21(土)	放課後等デイサービスハッピーハート真砂(西区)	見学・土鈴	12
2017/10/25(水)	豊栄セリア株式会社(北区)	見学	19
2017/10/26(木)	木場保育園(西区)	広場	13
2017/10/28(土)	動く市政教室「西蒲区古墳めぐり」	見学	30
2017/10/31(火)	姥ヶ山南もみじ会(中央区)	見学	13
2017/11/12(日)	シービーツアーズ(札幌市)	見学	13
2017/11/18(土)	新潟市国際課	見学・火起こし・弓矢・勾玉	44
2017/11/28(火)	中之口地区ボランティア協議会(西蒲区)	見学・勾玉	21
2017/11/30(木)	西蒲原土地改良区南地区事務所(燕市)	見学	11
2017/12/7(木)	新潟南福祉会(西蒲区)	見学	6
2017/12/8(金)	新潟南福祉会(西蒲区)	見学	7
2017/12/10(日)	新潟南福祉会(西蒲区)	見学	6
2018/1/27(土)	おらっていが市民エネルギー協議会	見学	15
2018/3/23(金)	大野まわりクラブ第2(西区)	見学・火起こし・弓矢	29
2018/3/27(火)	新栄寿会(中央区)	見学	20
合計			1,051

利用日	団体名	利用内容	人数
2017/4/14(金)	女池小学校(中央区)	見学・火起こし・弓・土器	164
2017/4/21(金)	赤塚小学校(西区)	見学・火起こし・弓・土器	41
2017/4/25(火)	浜浦小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	69
2017/4/25(火)	木山小学校(西区)	見学・火起こし・弓・土器	11
2017/4/26(水)	坂井東小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	65
2017/4/27(木)	味方小学校(南区)	見学・火起こし・勾玉	30
2017/4/27(木)	錦郷小学校(西蒲区)	見学・火起こし・弓・土器	33
2017/4/28(金)	小針小学校(西区)	見学・火起こし・土偶・土器	120
2017/5/2(火)	亀田小学校(江南区)	見学・火起こし・勾玉	123
2017/5/9(火)	内野小学校(西区)	見学・火起こし・土偶・土器	124
2017/5/11(木)	日和山小学校(中央区)	見学・火起こし・土偶・土器	59
2017/5/11(木)	坂井輪中学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	5
2017/5/12(金)	山の下小学校(東区)	見学・火起こし・勾玉・土器づくり	39
2017/5/16(火)	黒崎南小学校(西区)	見学	22
2017/5/17(水)	新山小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	90
2017/8/25(金)	三条市立第四中学校	見学	101
2017/9/5(火)	東山の下小学校(東区)	見学・火起こし・弓・土偶・土器	155
2017/9/22(金)	五十嵐小学校(西区)	見学・火起こし・土器	132
2017/10/3(火)	坂井輪小学校(西区)	見学・火起こし・土器板	122
2017/10/13(金)	黒崎南小学校(西区)	総合学習	8
2017/10/27(火)	新津第一小学校(秋葉区)	見学・民具学習	58
2017/10/31(火)	南方小学校(中央区)	見学・民具学習	58
2017/11/10(金)	小瀬小学校(西区)	見学・火起こし・弓・土器	9
2017/11/14(火)	有明小学校(中央区)	見学・民具学習	35
2017/11/21(火)	黒崎南小学校(西区)	見学	29
2017/11/21(火)	沼垂小学校(中央区)	見学・民具学習	83
2017/11/28(火)	赤塚小学校(西区)	見学・民具学習	40
2017/11/30(木)	矢代田小学校(秋葉区)	見学・民具学習	55
2017/12/7(木)	黒崎南小学校(西区)	見学・民具学習	34
2017/12/12(火)	明治大学考古学研究室	見学	11
2017/12/19(火)	根岸小学校(南区)	見学・民具学習	30
2017/12/21(木)	坂井東小学校(西区)	見学・民具学習	63
2018/1/16(火)	弁湯小学校(西蒲区)	見学・民具学習	9
2018/1/18(木)	立江小学校(西区)	見学・民具学習	66
2018/1/23(火)	錦郷小学校(西蒲区)	見学・民具学習	38
2018/1/25(木)	桃山小学校(東区)	見学・民具学習	81
合計			2,212

行政視察・研究会

利用日	団体名	利用内容	人数
2017/9/24(日)	アスファルト研究会	研究会・資料見学	13
2017/11/25(土)	新潟考古近世世帯	研究会・資料見学	7
2017/12/17(日)	西安博物院	視察	9
合計			19

III

文化財センターの事業



「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」



ボランティア講習会「細池寺道上遺跡発掘調査現場体験」



民俗講座「路傍の石仏に学ぶ」



「縄文土器づくり（上級編）」

(5) 資料利用

A 手続きに関する条例・規則

特別利用許可 文化財センター内で考古資料の熟覧・実測・撮影などを行う場合：『新潟市文化財センター条例』及び『新潟市長から委任を受けた新潟市文化財センター管理に関する規則』により許可申請書を新潟市教育委員会宛に提出する。

貸出許可 考古資料の寄託・借用・貸出などをする場合：『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』により許可申請書などを新潟市教育委員会宛に提出する。

寄附申込 考古資料の寄附申込みをする場合：『新潟市物品管理規則』により物品寄附申込書を新潟市長宛に提出する。

民俗資料 民俗資料の利用・貸出をする場合：『新潟市物品管理規則』により許可申請書を新潟市長宛に提出する。

なお、分析資料提供・掲載許可手続き、写真データの提供及び掲載許可申請については『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』で対応している。

B 利用件数

以下、平成29年度の各利用件数について記す（表12）。

特別利用許可 考古資料に関して熟覧・実測・撮影の利用件数は12件（前年度比7件増）である。

貸出許可 考古資料と民俗資料の貸出許可は、博物館などでの常設展示に伴う年度単位の貸出と企画展などの短期間の貸出がある。前者では次年度も引き続き貸出を希望する場合は年度ごとに手続きを行っている。公民館などでは地域の歴史に親しみを感じてもらふ観点からその地域の遺跡から出土した遺物の貸出を行っている。資料の貸出期間などは『新潟市文化財センター考古資料の寄託、借用及び貸出に関する規則』に規定されている。常設展示に伴う長期貸出6件（前年度比同）、企画展などに伴う短期貸出3件（前年度比2件減）である。

掲載許可 文化財センターが保管する写真や報告書などの掲載資料の提供を希望する場合や申請者が貸出を受けて撮影したものを印刷物などで使用する場合がある。利用件数は12件（前年度比同）であった。

寄附申込 採集資料を個人より1件受理した（前年度比同）。
（相澤裕子）

表12 平成29年度資料対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

件数	申請者	資料	点数(点)	来館日	備考
1	個人	角田沖海揚がりの縄文土器 他	13	2017/6/29 (木)	『縄文美術館』改訂版編集準備
2	個人	浦廻遺跡 人骨	61	2017/6/26 (月)	燕市炭ヶ島出土の損傷人骨との比較研究
3	九州国立博物館 志賀智史	緒立八幡宮古墳 他 土器 他	30	2017/8/24 (木)	出土赤色顔料に係る調査研究
4	岩手大学教育学部 佐藤由紀男	鳥屋遺跡 他 石斧	44	2017/9/6 (水)	縄文時代晩期後葉から弥生時代の磨製石斧研究
5	新潟大学考古学研究室 齋藤瑞穂	緒立遺跡 他 土器	99	2017/9/15 (金)	縄文・弥生移行期の遺跡の型式学的検討
6	新潟県考古学会30周年記念誌刊行事業 近世部会 部長 相羽重徳 利用責任者 渡邊ますみ	近世新潟町跡 他 陶磁器	43	2017/11/25 (土)	新潟市内で出土した近世遺物の検討会
7	個人	近世新潟町跡 他 陶磁器	10	2017/12/12 (火)	新潟市内で出土した近世遺物の調査
8	個人	南赤坂遺跡 他 土器	102	2018/1/18 (木)	調査研究
9	アスファルト研究会事務局 澤田 敦	大沢谷内遺跡 アスファルト	2	2017/12/26 (火)	アスファルト研究会共同研究
10	個人	江内遺跡 他 陶磁器	1	2018/1/11 (木)	新潟市内で出土した近世遺物の調査
11	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 理事長 廣瀬 渉 利用責任者 植松暁彦	前田遺跡 他 製塩土器	9	2018/2/26 (月)	遊佐町野田遺跡・下中瀬遺跡出土の製塩土器などの資料比較
12	個人	西郷遺跡 骨角器	19	2018/3/23 (金)	日本列島出土骨角器研究の一環

貸出許可

件数	申請者	資料	点数(点)	来館日	備考
1	医療社団法人幸人会 理事長 阿達 朗	諏訪畑遺跡 土器	5	2017/4/1 (土) ~ 2018/3/31 (土)	常設展示
2	新潟市江南区郷土資料館 市長 篠田 昭	砂崩遺跡 他 土器 他	51	2017/4/1 (土) ~ 2018/3/31 (土)	常設展示
3	新潟市北区郷土博物館 館長 頓所洋一	鳥屋遺跡 土製品・石器 鳥屋遺跡 土器レプリカ	23 12	2017/4/1 (土) ~ 2018/3/31 (土)	常設展示
4	新潟市長 篠田 昭 (担当 西蒲区役所地域課)	茶院A遺跡 土器 他	8	2017/4/1 (土) ~ 2018/3/31 (土)	常設展示
5	新潟市長 篠田 昭 (担当 秋葉区役所地域課)	原遺跡 土偶	10	2017/4/1 (土) ~ 2018/3/31 (土)	常設展示
6	新潟市歴史博物館 館長 小林昌二	笹山前遺跡 他 土器 他	84	2017/4/1 (土) ~ 2018/3/31 (土)	常設展示
		的場遺跡 土錘・石錘	48		
		的場遺跡 レプリカ	54		
		近世新潟町跡 陶磁器・泥面子	27		
7	信濃川火焔街道連携協議会 監事(新潟市長) 篠田 昭	秋葉遺跡 他 王冠型土器 他	10	2017/9/1 (金) ~ 10/24 (火)	京都大学総合博物館平成29年度特別展「火焔型土器と西の縄文 FlamePots -Jomonque Japan 2017-」展示
8	アスファルト研究会 澤田 敦	大沢谷内遺跡 アスファルト	2	2017/11/9 (木) ~ 11/11 (土)	アスファルト塊等の構造分析を目的とした高精度CT撮影
9	新潟歴史博物館 館長 小林昌二	近世新潟町跡 磁器 他	60	2017/12/1 (金) ~ 2018/2/2 (金)	企画展「ワンダーランド近世新潟町」展示

掲載許可

件数	申請者	資料	点数(点)	来館日	備考
1	個人	海揚がり縄文土器 他 写真データ	20	2017/4/27 (木)	平成29年度新潟県考古学講演会で報告するため、報告資料としてパワーポイント・配布資料を作成
2	東京法令出版株式会社 代表取締役 星沢卓也	的場遺跡 木簡 写真データ	1	2017/7/14 (金)	『日本遺産II 時をつなぐ歴史旅』掲載
3	株式会社 アム・プロモーション	大沢遺跡 土器 写真データ	1	2017/9/27 (水)	『縄文カレンダー2018』(仮称)掲載
4	フォカール 代表 鶴田浩規	大沢谷内遺跡 土器 写真データ	1	2017/10/13 (金)	会社PR用印刷物に実績例として掲載
5	一戸町教育委員会 教育長 古館英彦	大沢谷内遺跡 土器 写真データ	1	2017/11/14 (火)	平成29年度御所野縄文博物館企画展「えっ!縄文時代にアスファルト?」展示図録掲載
6	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 池田幸博	大沢谷内遺跡 土器 写真データ	1	2017/12/26 (火)	『埋文にいがた』101号掲載
7	個人	近世新潟町跡 写真データ	4	2018/1/19 (金)	新潟シティガイドでガイドの際に使用
8	株式会社ベネッセコーポレーション 著作 権申請窓口 担当部長 小林圭一郎	大沢谷内遺跡 木簡 写真データ	1	2018/1/19 (金)	中学生向け通信教育教材に問題資料の一部として掲載
9	新潟歴史博物館 館長 小林昌二	近世新潟町跡 写真データ	3	2018/3/1 (木)	『新潟市歴史博物館研究紀要』掲載
10	新潟市長 篠田 昭 (担当 西区農政商工課)	緒立八幡宮古墳 写真データ	1	2018/3/16 (金)	新潟市ホームページ内の西区まち歩きページに掲載
11	株式会社スタジオダック 千葉文菜 大久保さつき	古津八幡山遺跡 写真データ	1	2018/3/16 (金)	書籍『今こそ乗りたい 蒸気機関車の旅』掲載
12	新潟県教育庁文化行政課 課長 午藤 明	角田山沖発見の縄文土器 写真データ	1	2018/3/30 (金)	新潟遺跡情報マガジン「新潟まいぶんナビ2018春夏号」掲載

寄附申込

件数	申請者	資料	点数(点)	来館日	備考
1	個人	原遺跡 他 縄文土器 他	991	2017/11/9 (木)	

(6) 図書の収蔵と閲覧

A 収 蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式移動7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書に関しては、隣接する埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きをし、登録が終わったものから順次配架を行っている。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じることになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室のほか、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。

書誌情報の入力作業は、司書(臨時職員)2名を雇用して、入力作業を継続して行っている。なお、書誌情報の入力は平成21年度に構築した埋蔵文化財情報管理システムを利用している。平成27年度にシステムの再構築が完了・運用しており(Ⅲ4(7))、書誌情報の入力も再構築されたシステムで行っている。入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベル・バーコードを貼る作業を行っている。平成29年10月末までの入力数は48,523冊である。

B 利用状況

図書室では、2名分の閲覧スペースがある。大まかに配架作業が終了した平成24年6月から閲覧開始するとともに、著作権法の範囲内でコピーサービス(有料)も開始した。平成28年4月1日から、土曜日・日曜日・祝日の図書室の利用については事前申し込み制としている。平成29年度の図書室の利用人数とコピーサービス利用人数は表13のとおりである。前年度比では利用者数は5人増、コピーサービス利用人数は4人減である。コピー申込冊数は22冊であり、考古学に関する雑誌10冊、発掘調査報告書8冊、一般書4冊である。

なお、収蔵図書は発掘調査報告書などの発行部数の少ない稀覯本がほとんどのため、館外貸出は行っていない。

(相澤裕子)

表13 平成29年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用(人)	コピー利用(人)
4	3	2
5	0	0
6	2	1
7	2	0
8	4	1
9	1	0
10	2	1
11	2	1
12	4	0
1	2	1
2	3	1
3	4	2
合計	29	10

7 保存処理

(1) 木製品の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG(ポリエチレングリコール)含浸法を中心に行っている。しかし、PEG含浸法では漆被膜が剥がれてしまう漆器や、PEGの色により墨痕が見えにくくなってしまう墨書のある遺物についてはトレハロース含浸法で行っている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014b〕。

平成29年度 平成29年度には12遺跡14調査分421点の木製品の保存処理を行った(表14)。市町村合併後初の本発掘調査となった日水遺跡(2005001)のほか、県から譲与を受けた小坂居付遺跡(2009007)から出土した木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。これらの処理はPEG含浸処理装置で行うが、厚みが5cm以下の小形木製品については、プラスチック製密閉容器を使ったPEG含浸を温風定温乾燥機内で行っている。また、墨書のある近世新潟町跡の板材などは、トレハロース含浸法で処理を行った。

(2) 金属製品・その他の保存処理について

処理の概要 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行っている。保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014b〕。また、本調査において脆弱遺物が出土した際には、取り上げと仮強化処理を行っている。

平成29年度 中谷内遺跡(2000004)出土鉄製品を中心に、7遺跡11調査分116点の保存処理を行った(表14)。青銅製品は、新潟市史編纂のために調査された大藪遺跡(1989008)や山木戸遺跡(1991004・1994004)の遺物など6遺跡10調査分103点の保存処理を行った。

また、亀田道下遺跡(2017004)の本発掘調査で出土し、土ごと取り上げた櫛などの脆弱遺物について保存処理室でクリーニングを行った。

(3) 保存処理外部委託について

PEG含浸法に向かない木製品や大形の木製品など文化財センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。平成29年度は沖ノ羽遺跡(2008002)の木柱3点の保存処理と、県が調査した西郷遺跡(2006012)の足形付土版2点の強化処理を外部に委託した(表15)。

(今井さやか)

表14 平成29年度木製品、鉄製品、銅・青銅製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数	備考
結七島遺跡	2003001	木製品	木柱	PEG	1	
日水遺跡	2005001	木製品	井戸枳材	PEG	3	
駒首湯遺跡	2006008	木製品	木柱ほか	PEG	13	
大沢谷内北遺跡	2007002	木製品	木柱ほか	PEG	13	
上大川遺跡	2008001	木製品	木柱ほか	PEG	7	
大沢谷内遺跡	2008005	木製品	木柱ほか	PEG	74	
小坂居付遺跡	2009007	木製品	杭ほか	PEG	268	
下郷南遺跡	2012103	木製品	曲物底板ほか	PEG	2	
細池寺道上遺跡	2014002	木製品	齋串	PEG	32	
栄木遺跡	2016003	木製品	板状木製品	PEG	1	
上町遺跡	2016120	木製品	井戸枳材	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2016128	木製品	杭	トレハロース	1	
近世新潟町跡	2016192	木製品	板状木製品	トレハロース	4	
近世新潟町跡	2016252	木製品	栓ほか	トレハロース	1	
合 計					421	

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数	備考
細池寺道上遺跡	1996004	鉄製品	燻番ほか	クリーニング・樹脂含浸	3	
細池寺道上遺跡	1997008	鉄製品	鉄斧ほか	クリーニング・樹脂含浸	3	
川根遺跡	1998003	鉄製品	板状鉄製品	クリーニング・樹脂含浸	2	
大淵遺跡	1997004 1998002	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	26	
内野遺跡	1999001	鉄製品	鉄鍋ほか	クリーニング・樹脂含浸	28	
前田遺跡	1999002	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	13	
中谷内遺跡	1997003	鉄製品	鉄滓	クリーニング・樹脂含浸	5	
細池寺道上遺跡	1999007	鉄製品	鉄滓	クリーニング・樹脂含浸	1	
中谷内遺跡	2000004	鉄製品	鎌ほか	クリーニング・樹脂含浸	6	
沖ノ羽遺跡	2005002	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	29	
合 計					116	

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数	備考
大蔵遺跡	1989008	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	65	
山木戸遺跡	1991004 1994004	青銅製品	煙管ほか	クリーニング・樹脂含浸	7	
沖ノ羽遺跡	2005002 2006005	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	9	
居屋敷跡遺跡	2005007	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	2	
細池寺道上遺跡	2007005	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	1	
大沢谷内遺跡	2011006	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	4	
大沢谷内遺跡	2012001	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	4	
大沢谷内遺跡	2013002	青銅製品	古銭	クリーニング・樹脂含浸	11	
合 計					103	

表15 平成29年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)
西郷遺跡	2006012	2	足形付土版	(公財)元興寺 文化財研究所	3,525,984	3,525,984
沖ノ羽遺跡	2008002	3	木柱			

8 決算額

平成29年度における文化財センター決算額は表16のとおりである。(天野泰伸・飯塚和美)

表16 平成29年度文化財センター決算額

区 分	決算額(円)
○歳入(一般会計)	
○使用料及び賃借料	934,900
文化財センター設備使用料	6,900
行政財産使用料	928,000
○国庫補助金	55,666,000
市内遺跡範囲等確認調査	25,954,804
両新地区ほ場整備発掘調査	10,116,196
古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の保存・活用事業	2,839,067
文化財センター保存処理・活用事業	9,755,933
史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	7,000,000
○土地貸付料	110,701
大型民具収蔵庫土地貸付料	110,701
○諸収入	196,002,260
受託事業収入	194,900,000
両新地区ほ場整備発掘調査	182,700,000
小規模緊急発掘調査	12,200,000
雑入	1,102,260
コピー代実費	36,960
文化財センターその他雑入	529,800
弥生の丘展示館その他雑入	535,500
合 計	252,713,861

区 分	決算額(円)
○歳出(一般会計)	
○市内遺跡範囲等確認調査事業	42,422,596
市内遺跡範囲等確認調査事業費	39,451,244
市内遺跡範囲等確認調査事業費(ほ場整備等)	2,971,352
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	224,950,000
両新地区ほ場整備発掘調査費	203,000,000
小規模緊急発掘調査費	21,950,000
○史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	14,126,678
○文化財センターの管理運営	71,541,737
○古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の管理運営	18,421,214
合 計	371,462,225



鉄製品 保存処理前(中谷内遺跡・2000004)



鉄製品 保存処理後(中谷内遺跡・2000004)

IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

史跡古津八幡山遺跡は新潟市秋葉区に所在する弥生時代後期の高地性環濠集落及び新潟県内最大規模の古津八幡山古墳などからなる遺跡であり、平成17年7月に国史跡に指定されている。

現在は「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として、保存・整備・管理・活用が行われており、歴史の広場は、遺跡を当時の姿で復元した「史跡公園」とそのガイダンス施設「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」からなる。平成24年度の弥生の丘展示館開館に伴い、暫定供用を開始し、その後、平成27年4月に全面供用を開始した。

平成28年度には史跡の保存・活用の指針となる保存活用計画を策定した〔相田・金田ほか2017〕。平成29年度はこれを受けた保存活用計画推進のため「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」と、その下部組織として「古津八幡山遺跡調査指導部会」を設置した。この詳細についてはIV 3に記載している。

史跡古津八幡山遺跡の概要や整備の概要、古津八幡山遺跡歴史の広場の詳細な施設情報については、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014c〕。また、これまでの経過も『年報』第1～5号のとおりである。



史跡古津八幡山遺跡（北から）

1 資料の公開・展示

(1) 概要

弥生の丘展示館は、展示室や体験学習室が主な施設であり、古津八幡山遺跡に関わる展示を行っている。

常設展 展示室には古津八幡山遺跡より出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器などを500点以上展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、遺跡への親近感や理解が深まるよう、展示ケースの壁面には全面に考古イラストレーターの早川和子氏による時代ごとの復元画を展示している。そのほか、ガイダンスシアターでは、65インチの大形モニターで、古津八幡山遺跡の概要やこれまでの調査成果などを映像で見ることができる。

企画展 古津八幡山遺跡歴史の広場の全面供用開始を記念して、平成27年度から企画展を開催している。展示室の中央部分に展示ボードと展示ケースを設置し、企画展コーナーとして利用している。平成29年度は4回の企画展を開催した（表1）。各展示詳細についてはIV 1(2)～(5)に記載する。

また、各企画展では関連した講座や講演会を開催している。しかし、企画展会場である弥生の丘展示館には、講座などが行えるような大人数の収容空間がない。そのため、講座・講演会については、平成28年度から西区木場の文化財センターで行っている。なお、企画展1の関連講座は史跡古津八幡山遺跡現地で行った。

講座・講演会の当日資料は新潟市のホームページで公開しているほか、講座・講演会の内容とアンケート調査結果をまとめた記録集を、4回全てに参加した人へ配布した。（牧野耕作）

表1 平成29年度弥生の丘展示館企画展一覧

年度毎の番号	企画展名	会期	企画担当	来館者数(人)	関連講演会・イベント			
					演目 イベント名	開催日	講師	参加者数(人)
1	古津八幡山遺跡の保存・活用	2017/4/4(火) ～6/25(日)	相田泰臣	13,430	国史跡古津八幡山遺跡と今後の保存活用計画について(実地講座)	2017/4/23(日)	相田泰臣・金田拓也	26
2	鐵(てつ)一北陸における鉄生産一	2017/7/4(火) ～9/24(日)	渡邊朋和	8,446	我が国の製鉄遺跡の歴史—東日本を中心とした古代から中世まで—	2017/8/20(日)	穴澤義功氏 (たたら研究会委員・製鉄遺跡研究会代表)	99
					展示解説	2017/7/23(日)	渡邊朋和	12
3	古墳時代のお祭り—石に籠めた祈り—	2017/10/3(火) ～12/17(日)	金田拓也	5,552	石で作られた祭りのための道具(祭祀具) —不可解な石製模造品—	2017/10/22(日)	金田拓也	26
					展示解説	2017/10/9(月)	金田拓也	16
4	邪馬台国の時代5 —柏崎・上越・頸城の世界—	2018/1/4(木) ～2018/3/25(日)	渡邊朋和	3,964	石器から見た弥生時代の稲作農耕文化	2018/2/11(日)	澤田 敦氏 (〔公財〕新潟県埋蔵文化財調査事業団)	35
					展示解説	2018/2/4(日)	渡邊朋和	5

(2) 企画展1 「古津八幡山遺跡の保存・活用」

会 期 平成29年4月4日(火)～6月25日(日)

担 当 相田泰臣

入館者数 13,430人

展示概要 古津八幡山遺跡は、標高約50mの丘陵上にある弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落で、古墳時代には県内最大の古墳、古津八幡山古墳が築かれた。弥生時代から古墳時代にかけての変遷や、北陸や東北における地域間関係など、当時の日本列島の社会情勢を考える上で核となる重要な遺跡であることから、平成17年7月14日に国史跡に指定された。

指定後、弥生時代の高地性環濠集落の復元整備やガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」の建設などを行い、平成24年4月21日に史跡公園と弥生の丘展示館からなる「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として暫定オープンした(第1次整備事業)。さらに、古津八幡山古墳の復元整備(第2次整備事業)を実施し、平成27年4月17日から全面供用を行っている。

新潟市教育委員会では、この貴重な文化財を今後も適切に保存管理し、後世に確実に継承するとともに、より充実した活用や整備を実施していくことを目的とし、平成28年度にそのための指針となる『国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画』を策定した〔相田・金田ほか2017〕。本企画展では、この保存活用計画に加え、これまでの発掘調査や整備の概要についての展示・解説を行った。

展示構成

- 1) これまでの発掘調査の概要
- 2) これまでの整備の概要
- 3) 今後の保存活用計画(保存管理)
- 4) 今後の保存活用計画(活用)
- 5) 今後の保存活用計画(整備)

主要展示 昭和62(1987)年の確認調査(第1次調査)によって古津八幡山遺跡が発見されてから30年目の節目にあたり、これまでに実施した19次の発掘調査成果をパネルで振り返った。2)では、平成16年度から平成27年度にかけて行った整備事業(第1次・第2次整備事業)を、3)～5)では保存活用計画で示された今後の保存や各種整備・活用計画について展示・解説を行った。

関連講座 企画展の関連講座を開催した。

演 目 国史跡古津八幡山遺跡と今後の保存活用計画について(実地講座)

講 師 相田泰臣・金田拓也

日 時 平成29年4月23日(日)

午後1時30分～3時30分

参加者数 26人

企画展の展示解説を行った後、これまでの発掘調査の成果や整備・活用状況などについて、実際に現地を見ながら解説を行った。

来館者の声 実地講座では、「現地での解説で遺跡への理解が深まった」、「現地の地形や立地を肌で感じながら遺跡の今昔を学べた」、「天気が良くて気持ちよかった」などの意見があった。なお、本企画展はタイトルや一部展示内容を変更して、新潟市江南区郷土資料館で出張展示を行った(Ⅲ5(6)に記載)。 (相田泰臣)



展示風景(展示室)



関連講座風景



関連講座風景

(3) 企画展2 「鐵(てつ)

—北陸における鉄生産—

会 期 平成29年7月4日(火)～9月24日(日)

担 当 渡邊朋和

入館者数 8,446人

展示概要 史跡古津八幡山遺跡のある丘陵の麓から新潟県立植物園にかけての南北450m、東西650mの範囲(通称 金津丘陵)では、奈良時代から平安時代の製鉄炉7基や木炭窯20基以上、鉄滓約9.2tなどが見ついている。約400年間、砂鉄を原料に木炭を燃料として大規模な鉄の製錬が行われていた。ここで生産された鉄素材が村々へ運ばれて鋤鋤先や斧・鉄鍋などが作られた。開発や農耕を行うのに鉄素材はなくてはならないものだった。この地域は現在「金津」という地名になっているが、「金津」の名前は鎌倉時代の文献にも見られ、奈良時代・平安時代の鉄づくりに由来すると考えられる。

金津丘陵では鎌倉時代、14世紀になると鉄製錬が行われなくなるが、この現象は新潟県内や北陸地域なども同様であることが最近の研究で分かってきた。

県内の事例として、金津丘陵製鉄遺跡群以上に大規模操業が行われていた柏崎市藤橋東遺跡群・軽井川南遺跡・宝童寺遺跡の遺跡動向、鳥崎川・別山川流域の製鉄関連遺跡を分析し、金津丘陵と同じく箱型炉と半地下式木炭窯の操業から堅型炉と地下式木炭窯の操業へ移行すること、過渡的な段階として堅型炉と半地下式木炭窯の操業が行われた時期があること、14世紀代になると鉄製錬が行われなくなることを紹介した。金津丘陵同様に当初は律令体制のもと、大規模な鉄製錬が行われていたが、やがて周辺地域の影響から、効率的な操業形態に改造されていったと考えられた。

また、製錬遺跡の動向をみると、県内だけではなく、山陰地域を除く北陸以北の日本海側の各地で14世紀以降の製錬遺跡が見られなくなるが、その理由はなぜなのかということ为主要な課題の一つとして展示を行った。

製錬遺跡がなくなる13～14世紀頃に、新潟県内だけではなく、遠く離れた鳥取県・鳥根県でも出土事例が増えている「スマキづくりの羽口」と、貿易陶磁器・船などから北陸以北の日本海側の鉄製錬の終焉を考えた。

展示構成 金津丘陵製鉄遺跡群のほか、新潟県内の古代から中世前期の製鉄関連遺物や製錬遺跡のほか、東日本で大規模に鉄生産を行っていた富山県射水丘陵製鉄遺跡群・福島県金沢地区製鉄遺跡群を紹介した。

貿易陶磁器・海揚がり品・韓国の難破船・新潟と山陰で出土しているスマキづくり羽口などから日本海海運の発展を考え、当初は物資・情報の流通だったものが、や

がて山陰の大量生産の廉価な鉄素材そのものが流通するようになったことによって、各地の鉄製錬が行われなくなったと考えた。

主要展示 製錬遺跡終焉の鍵を握っている県内出土の三条市大林遺跡などのスマキづくり羽口を全て集成し、借用できるものを展示した。また、製作技法や使用方法が酷似する鳥根県板屋Ⅲ遺跡の精錬遺構やスマキづくりの「板屋型羽口」をパネルで紹介した。さらに、この頃の北陸から東北日本海側の製錬遺跡や鑄造遺跡で出土した銑鉄・鑄型などを実物とパネルで展示した。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 我が国の製鉄遺跡の歴史—東日本を中心とした古代から中世まで—

講 師 穴澤義功氏(たたら研究会委員・製鉄遺跡研究会代表)

日 時 平成29年8月20日(日)

午後1時30分～3時30分

会 場 文化財センター研修室

参 加 者 99人

講師は生涯をかけて鉄のみならず非鉄金属も含めた金属加工の歴史を研究されており、国内における製鉄遺跡研究の第一人者である。講演は次の6項目に分かれて行われた。①西アジアから始まった鉄づくりの文化がどのように日本列島に到達し、その後どうなったか。②列島において最初に鉄とであった段階で、まだ製鉄を知らなかった頃の日本。③製鉄が始まって東日本、新潟でも製鉄が始まった時期。④各地域の様子。⑤日本全体の鉄技術の発達史。⑥古代末から中世・近世にどうなったか、現在に至る流れ。

講演は、西アジア・中国・韓国などの広い視点で話があり、なおかつ国内の製鉄関連遺跡は殆ど現地に立っているという豊富な経験に基づいた話で説得力があった。一般参加者、考古学研究者の両者にとって満足のいく講演であった。

展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成29年7月23日(日)

午後1時30分～3時30分

参 加 者 12人

古代の鉄の重要性、金津丘陵で鉄づくりを行わなくなった原因が汎日本海的理由であることに関心があるように見受けられた。

ま と め 新潟県内の古代・中世の製鉄遺跡の動向を整理するとともに、14世紀の日本海沿岸における製鉄遺跡終焉の理由もある程度解明することができた。

(渡邊朋和)

(4) 企画展3 「古墳時代のお祭り」

—石に籠めた祈り—

会 期 平成29年10月3日(火)～12月17日(日)

担 当 金田拓也

入館者数 5,552人

展示概要 古津八幡山古墳が築造された古墳時代中期に特徴的な遺物として石製模造品が挙げられる。石製模造品は確認される時期や地域に偏りがあり、その理由として古墳時代中期の地域間関係が影響していると考えている。新潟県内は石製模造品が少数ながら確認されている地域で、新潟市では御井戸B遺跡から出土している〔前山・相田2004〕。また、石製模造品は祭祀具と考えられ、古墳時代の祭祀を考える上で欠かすことのできない資料である。

本展示では、古墳時代の祭祀について概観し、新潟県内の石製模造品を展示した。また、新潟県における古墳時代中期の地域間関係について示し、新潟県の石製模造品の導入において、重要な地域のひとつである魚沼地域と様相が類似している福島県郡山市の資料を展示した。

展示構成

1) 古墳時代の祭祀と石製模造品

祭祀について、石製模造品について

2) 新潟県の石製模造品

阿賀野川以北地域、信濃川左岸地域、魚沼地域、上越地域、糸魚川地域

3) 福島県の石製模造品

主要展示 1) では、現在考えられている古墳時代の祭祀の内容や種類について、パネルで紹介した。さらに、石製模造品の基礎的な知識として、種類や特徴についてパネルで説明し、代表的な形の模型を展示した。

2) では、新潟県内の遺跡から出土した石製模造品(9市町村14遺跡)を展示し、県内で糸魚川地域と魚沼地域で石製模造品が出現し、2つの地域における種類や特徴と魚沼地域から信濃川左岸地域へ波及する状況を示した。また、糸魚川地域の遺跡から出土した古墳時代前期の玉製品とその製作資料を展示し、前期の玉製品と中期の石製品を比較できるようにした。

3) では、魚沼地域と様相が類似している福島県郡山市の正直古墳群及び正直A遺跡の石製模造品などを展示した。魚沼地域は、県内で唯一、古墳(群集墳)から石製模造品が出土し、麓の集落では多くの石製模造品が出土している。石製模造品が副葬される丘陵上の群集墳と、それを生産し祭祀に使用する麓の集落という様相の類似性に着目した。

関連講座 企画展の関連講座を開催した。

演 目 石で作られた祭りのための道具(祭祀具)

—不可解な石製模造品—

講 師 金田拓也

日 時 平成29年10月22日(日)

午後1時30分～3時30分

会 場 文化財センター研修室

参加者 26人

石製模造品とはどのようなものかなど、基礎的な知識に始まり、最新の研究成果等を簡単に解説した。さらに、新潟県内の各地域の石製模造品の状況から、その出現と地域間関係について迫った。

展示解説 展示担当による展示解説を1回開催した。

日 時 平成29年10月9日(月・祝)

午後1時30分～3時30分

参加者 16人

参加者は新潟県内の石製模造品の状況などについて熱心に聴き入っていた。また、解説後には複数の質問があり、参加者には石製模造品について、興味・関心を持ってもらえた。

入館者の声 「初めて見たり、聴いたりする機会となったため、興味深い」などの意見がある一方で、「内容が細かすぎる」という意見もあった。どのような遺物でも企画次第で興味をもってもらえるが、展示及び講座内容は基礎的な知識を含め、より分かりやすくする必要がある。

ま と め 古津八幡山古墳が築造された古墳時代を考える上で、重要な遺物である石製模造品に焦点を当てた展示を行った。新潟県内の資料を一堂に展示することができ、新潟県の石製模造品の状況が一目で分かるものとなった。一般にはあまり知られていない遺物を題材とした展示であったが、講座・展示解説ともに想定よりも多くの方に参加していただき、興味を持ってもらえたと考える。このような知名度の低い遺物からでも、地域の歴史に興味を持ってもらえる機会となる。(金田拓也)



展示解説風景(展示室)

(5) 企画展4 「邪馬台国の時代5—柏崎・上越・頸城の世界—」

会 期 平成30年1月4日(木)～3月25日(日)

担 当 渡邊朋和

入館者数 3,964人

展示概要 弥生の丘展示館では、これまでに「邪馬台国の時代」と銘打った4回の企画展を開催し、古津八幡山遺跡と概ね同時代の新潟県内や会津地域の弥生時代中期後半から古墳時代初頭の遺跡・遺物の様相を見てきた。平成27年度「邪馬台国の時代1 北陸と会津を結んだ古津八幡山—東北南部(会津)の世界—」、「邪馬台国の時代2 縄文のある弥生土器—新潟県北部(阿賀北)の世界—」、平成28年度「邪馬台国の時代3 古津八幡山の頃の信濃川右岸の世界」、「邪馬台国の時代4 古津八幡山の頃の信濃川左岸の世界—六地山遺跡里帰り展—」である。

本企画展はこのシリーズの5回目である。県内で最も早く稲作農耕文化が定着した柏崎平野や高田平野・糸魚川地域などの弥生時代中期から古墳時代初頭の遺跡を紹介した。柏崎平野や高田平野では弥生時代中期から後期にかけて継続する遺跡が極めて少なく、県内の他地域同様に中期から後期にかけての断絶が見られる。地域によって多寡はあるが、中期までの北陸系・長野系から構成される土器様相は、後期になると妙高山麓を除くとほぼ北陸系に一本化される。

また、古津八幡山遺跡など阿賀野川以北で主体となる北方系・東北系の遺物にも注目したが、中期・後期ともに非常に少なく、かえって長野県北部や富山県の方が多いような状況が確認できた。後期天王山式期の土器は、信濃川流域の魚沼市・南魚沼市や長野市吉田高校グラウンド遺跡では見られるが、高田平野では殆ど確認することができなかった。

後期になると土器が少なくなり、鉄器化が進んだ。長野県木島平村根塚遺跡で出土した「渦巻文装飾付鉄剣」は韓国金海市良洞里古墳で酷似した鉄剣が出土しており、韓国加耶地方で作られたものと考えられている。大陸から海運でもたらされ、高田平野を通過して陸路で運ばれたと推測される。その交換物は何だったのだろうか。鉄・碧玉製管玉・ヒスイ製勾玉や米・毛皮などの流通が鍵を握っている。

展示構成・主要展示 柏崎市・上越市・糸魚川市より、弥生時代中期後半から後期終末にかけての遺物を借用して展示した。柏崎市萱場遺跡・小丸山遺跡・下谷地遺跡・戸口遺跡・亀ノ倉遺跡、上越市吹上遺跡・裏山遺跡・下馬場遺跡・釜蓋遺跡・今泉釜蓋遺跡・子安遺跡、妙高市

斐太遺跡・矢代山墳丘墓群・小野沢西遺跡、糸魚川市後生山遺跡などの遺物・写真パネル。柏崎市内越遺跡・西岩野遺跡・野崎遺跡・田塚山遺跡群、刈羽村西谷遺跡の写真パネルなどである。

弥生時代後期の独立棟持柱建物が発見され注目を浴びていた西岩野遺跡に近接する開運橋遺跡出土の北部九州系土器を借用・展示し、日本海を介した鉄器の流通を考えた。

関連講演会 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 石器から見た弥生時代の稲作農耕文化

講 師 澤田 敦氏

((公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団)

日 時 平成30年2月11日(日)

午後1時30分～3時30分

会 場 文化財センター研修室

参 加 者 35人

講師は新潟県内の弥生時代の石器の使用痕分析を数多く手がけており、自らの研究に基づいた講演であったために分かりやすかった。

使用痕分析により、磨製石庖丁・直縁刃石器などがイネ科植物の穂摘み用に用いられたこと、大形磨製石庖丁や大形直縁刃石器がイネ科植物を刈り取ったりする際に用いられたことがよく分かった。

古津八幡山遺跡では石器が殆どなく、鉄器も鉄剣や鉄鏃の他はなく、耕作具・収穫具ともよくわからない。耕作具に使用されたと考えられる石器は判然としないが、収穫具に関しては剥片類が使用された可能性を考慮に入れて、今後使用痕分析なども行っていく必要性を感じた。

展示解説 展示担当による展示解説を開催した。

日 時 平成30年2月4日(日)

午後1時30分～3時30分

参 加 者 5人

根塚遺跡の鉄剣など日本海を介して朝鮮半島から鉄器がもたらされた資料があること、その鉄器の流入経路が高田平野から飯山街道の可能性のあることを説明した。また、企画展開催時に話題になっていた西岩野遺跡やその近くの開運橋遺跡の北部九州系の土器も県内の鉄器の流通を考える際に鍵を握る重要な資料であることに関心があるようだった。

ま と め 柏崎市別山川流域には弥生時代中期から古墳時代前期の遺跡が多く分布する地域として位置づけられるが、その北側にある島崎川流域の弥生時代の遺跡群も一体として今回の企画展で扱うべきであった。

(渡邊朋和)

2 教育普及活動

(1) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる事前申込み不要の体験学習メニューを月ごとに決めている(表2・3)。これは、季節やこれまでの状況から、年度ごとに変えている。

平成29年度の体験学習の参加者数は、個人4,216人(前年度比2,697人減)、団体3,090人(前年度比403人増)、全体7,306人(前年度比2,294人減)であり、平成28年度よりも個人の参加者数が減少しており、結果全体の参加者数も減少している。この理由は、弥生の丘展示館の入館者数が減少したためである。一方で、団体の体験学習参加者数は平成28年度より増加しており、これは見学だけでなく体験学習も行う団体が増えてきたためである。

団体の利用については、概ね10人以上の団体の場合は事前に申込みをお願いしている(表4・5)。平成29年度は団体利用件数85件(前年度比21件増)、利用人数2,416人(前年度比306人減)であった。団体利用が多い小学校の利用も平成28年度より減少(前年度比団体利用件数9件減、利用人数728人減)している。利用件数は増加しているものの、小学校の利用が減少しているため、団体利用人数は減少している。小学校の利用減少は交通手段の確保などが影響している可能性もある。この変化が一時的なものか今後注視し、対応を検討する必要がある。

(2) イベントなど

平成29年度もイベントや体験学習、企画展の情報などをまとめた年間スケジュールを作成し配布した。また、新潟県教育委員会が発行している『まいぶんナビ』に、イベントなどの情報提供をして掲載してもらっている。

イベントは市報や新潟市の公式ホームページなどで広報し、事前に募集して行うイベントを月に2回から3回程度実施している(表6)。イベントの許容人数の関係から、20人以下と少人数ではあるが、好評な企画が多い。「植物観察」や「自然観察」、「弥生時代の稲作体験」は恒例のイベントとなり、複数回参加されている方が相当数にのぼる。

平成29年度はさらに、複数回の日程で材料であるカラムシの収穫から編みまで行う「アンギン」づくりや普段の勾玉づくりよりも大形で複雑な形状の「子持勾玉づくり」など新しいイベントも行った。

また、当日受付のものでは、例年大規模なイベントとして、6月に新潟県立植物園をメイン会場として行う「第16回にいつ花ふるフェスタ」の協賛イベントとして、複数の体験学習などを行った。史跡公園へ足を運ぶ人を増

やす目的でスタンプラリーも行った。しかし、当日はあいにくの荒天で体験学習参加者など延べ人数は748人(前年度比830人減)であった。次に、10月には新潟県立植物園にて、植物園主催の秋の植物園祭りや秋葉区役所主催の「アキハアウトドアスポーツフェスタ」と同日開催として、新潟県埋蔵文化財センターと連携した「まいぶん祭り」を開催した。まいぶん祭りでは、体験学習や史跡公園見学によるスタンプラリーを開催した。こちらも延べ人数995人(前年度比168人減)と平成28年度より減少した。

さらに、平成28年度に引き続き「第2回古津八幡山遺跡フォトコンテスト」を開催し、80作品(前年度比11作品増)もの応募があった。どの作品も様々な遺跡の表情が見られる力作揃いで、平成29年度に審査により受賞作品を決定した。古津八幡山遺跡の広報を目的として始めたイベントだが十分な成果といえる。

(3) 入館者数

平成29年度の弥生の丘展示館入館者数(表7)は、個人32,043人(前年度比11,417人減)、団体2,416人(前年度比306人減)、全体34,459人(前年度比11,723人減)であり、平成28年度よりも個人の入館者数が3割近く減少しており、結果として全体の入館者数も大幅に減少している。

この理由として、やはり隣接する新潟市新津美術館で開催された展覧会の影響が非常に大きいと考えられる。従前の傾向では、親子連れを対象とした内容の展覧会である場合、弥生の丘展示館の入館者数も増加している。

冬季(12~3月)の入館者は5,211人(前年度比1,628人減)であった。例年同様に入館者数は少なく、さらに平成28年度よりも減少しており、今後も継続して冬季の入館者数が増加するようにイベントなどを考えていく必要がある。また史跡公園への入場者数は、弥生の丘展示館の入館者数よりも少ないため、今後、展示館同様に史跡公園の利用者が増加するよう、引き続き検討していく必要がある。(牧野耕作)



「アンギン2」(お引き)

表2 平成29年度弥生の丘展示館体験学習(事前申込み不要)一覧

無料/有料	メニュー	単位	料金(円)	所要時間(分)
無料	火起こし体験	-	-	15
	弓矢体験	1人3本	-	10
	石斧体験	破れるまで	-	10
	里山のクラフトづくり	竹の輪1個	-	30
	土器パズル	飽きるまで	-	10
	ぬりえ	飽きるまで	-	5
	貫頭衣試着	満足するまで	-	5
有料	勾玉づくり	1個 紐付	200	60
	管玉づくり	1組4個 紐付	200	60
	土器・土偶づくり	-	100	120
	土笛・土鈴づくり	粘土500g	100	60
	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)	銅鏡1個 紐付	400	30
		銅鏡1個 紐付	900	30
	編布(アングレン)	初心者コース カラムシ5g	300	120
	鹿角ペンダントづくり	先端部以外1個 紐付	100	60
		先端部1個 紐付	500	15
	木の枝の鉛筆づくり	桜の枝1本 鉛筆芯1本	100	30
	弥生染め	1枚	200	60

表5 平成29年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分類名	団体利用数(件)	人数
保育施設・幼稚園	2	84
小学校	21	1,234
中学校	5	73
大学	2	27
その他学校	5	93
動く市政教室(個人)	1	8
市関係	1	6
行政・議会関係	3	35
自治会・町内会など 地域コミュニティ関係	17	434
各種サークルなど	13	194
企業企画ツアーなど	3	40
企業	0	0
福祉施設	9	65
その他	3	123
合計	85	2,416

表4 平成29年度弥生の丘展示館団体利用一覧

来館日	団体名	人数(人)
小・中学校		
2017/4/19(水)	市立結小学校(秋葉区)	128
2017/4/25(火)	市立笹口小学校(中央区)	49
2017/4/25(火)	市立岩室小学校(西蒲区)	30
2017/4/26(水)	市立金津小学校(秋葉区)	24
2017/4/27(木)	市立小林小学校(南区)	33
2017/5/2(火)	田上町立羽生田小学校	45
2017/5/9(火)	市立根岸 犬鷲小学校(南区)	41
2017/5/12(金)	市立新飯田 庄瀬 茨倉根小学校(南区)	57
2017/5/12(金)	市立新津第二中学校(秋葉区)	5
2017/6/23(金)	県立吉田特別支援学校(茨市)	5
2017/6/23(金)	市立白新中学校2学年(中央区)	5
2017/6/28(火)	市立金津中学校(秋葉区)	70
2017/6/29(水)	市立金津小学校(秋葉区)	20
2017/7/13(木)	県立新高野小学校(中央区)	99
2017/9/1(金)	市立松浜小学校(北区)	12
2017/9/20(水)	市立小台東小学校(秋葉区)	132
2017/9/22(金)	市立五十嵐小学校(西区)	95
2017/9/26(火)	市立東青山小学校(西区)	62
2017/9/27(水)	市立立小小学校(西区)	71
2017/10/11(木)	市立江南小学校(東区)	70
2017/10/12(木)	市立新津第二小学校(秋葉区)	59
2017/10/13(金)	市立大野小学校(西区)	27
2017/10/17(火)	上越市立城北中学校	31
2017/10/19(水)	市立五十嵐中学校(西区)	45
2017/11/7(火)	市立小須戸小学校(秋葉区)	41
2017/11/10(金)	市立和崎小学校(西蒲区)	45
2017/12/1(金)	市立万代長嶽小学校(中央区)	26
2017/12/12(火)	市立西川小学校(江南区)	1,332
合計		

表3 平成29年度弥生の丘展示館体験学習(事前申込み不要)参加者数

月	体験学習メニュー		参加者数(人)				
	屋内体験(有料)	屋外体験(無料)	個人	団体	合計	1日平均	累計(開館から)
4	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	石斧体験	285	304	589	23	40,764
5	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	716	362	1,078	39	41,842
6	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	弓矢体験	338	159	497	18	42,339
7	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)	火起こし体験	472	554	1,026	37	43,365
8	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	弓矢体験	1,228	228	1,456	52	44,821
9	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)	石斧体験	234	555	789	30	45,610
10	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	弓矢体験	306	690	996	37	46,606
11	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)	石斧体験	159	36	195	8	46,801
12	土器・土偶・土笛・土鈴づくり	火起こし体験	71	171	242	11	47,043
1	鋳造体験(銅鑄・銅鏡)	里山のクラフトづくり	111	8	119	5	47,162
2	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	里山のクラフトづくり	66	4	70	3	47,232
3	アングレン編み	火起こし体験	230	19	249	9	47,481
	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	火起こし体験	230	19	249	9	47,481
合計/平均			4,216	3,090	7,306	23	

※土器パズル・ぬりえ・貫頭衣試着は、特定のイベント時以外年間を通じて屋内で体験できる。
無料の屋外体験も冬季は屋内にて行っている(里山のクラフトづくり)。

表6 平成29年度弥生の丘展示館イベント・体験学習(事前募集)・公開講座一覧

開催日	内容	人数
2017/4/29(土)	植物観察1(春)	15
2017/5/14(日)	弥生の稲作体験1(田起こし・田植え)	34
2017/5/21(日)	昆虫標本づくり1	34
2017/6/4(日)	第16回いっぴく花ふるフェスタ	748
2017/6/11(日)	弥生の稲作体験2(草取り・雑穀植え付け)	40
2017/6/18(日)	昆虫標本づくり2	29
2017/6/25(日)	植物観察2(初夏)	22
2017/7/1(土)	昆虫標本づくり3	28
2017/7/8(土)	アングレン1(カラムシ刈り取り)	4
2017/7/9(日)	アングレン2(お引き)	6
2017/7/16(日)	弥生の稲作体験1	5
2017/7/17(月・祝)	弥生の稲作体験3(草取り)	22
2017/7/23(日)	弥生の稲作体験2	5
2017/7/30(日)	弥生の稲作体験3	30
2017/8/5(土)	菟摺体験	5
2017/8/6(日)	昆虫標本づくり4	27
2017/8/11(金)	弥生の稲作体験4(草取り)	28
2017/9/3(日)	アングレン3(糸取り)	4
2017/9/10(日)	弥生の稲作体験5(稲刈り)	31
2017/9/24(日)	植物観察3(秋)	11
2017/10/1(日)	まいぶん祭り	995
2017/10/15(日)	ドングリを食べよう1	16
2017/10/29(日)	弥生の稲作体験6(脱穀・おぼろぎ・試食)	57
2017/11/12(日)	ドングリを食べよう2	14
2017/11/19(日)	石製模造品づくり	2
2017/11/26(日)	稲わらリースづくり	13
2017/12/10(日)	土器カレンダーづくり	13
2017/12/17(日)	ドングリを食べよう3	16
2017/12/24(日)	冬の自然観察1	14
2018/1/7(日)	弥生の餅つき	540
2018/1/28(日)	アングレン4(編み)	3
2018/2/18(土)	冬の自然観察2	8
2018/3/17(土)	子持勾玉づくり1	4
2018/3/18(日)	子持勾玉づくり2	4
合計		2,827

表7 平成29年度弥生の丘展示館入館者数

月	開館日数	入館者数(人)			1日平均	累計(開館から)	外カウンター
		個人	団体	全体			
4	26	3,451	284	3,735	143.7	226,964	3,386
5	28	6,644	273	6,917	247.0	233,881	4,896
6	28	3,276	232	3,508	125.3	237,389	3,180
7	28	2,405	322	2,727	97.4	240,116	3,032
8	28	3,466	83	3,549	126.8	243,665	2,394
9	26	2,955	421	3,376	129.8	247,041	3,509
10	27	3,201	338	3,539	131.1	250,580	3,460
11	25	1,585	312	1,897	75.9	252,477	1,573
12	23	785	91	876	38.1	253,353	733
1	24	1,971	8	1,979	82.5	255,332	1,782
2	24	576	15	591	24.6	255,923	401
3	27	1,728	37	1,765	65.4	257,688	2,175
合計/平均		32,043	2,416	34,459	109.7		30,521

※外カウンターは史跡公園利用人数の把握を目的として、弥生の丘展示館に設置した計数機の数値である。

来館日	団体名	人数(人)
小・中学校以外		
2017/4/18(火)	秋葉区まちづくり研究会	9
2017/4/19(水)	豊栄手話サークル「かけはし」(北区)	11
2017/5/12(金)	「古代の越中・越後・佐渡を訪ねて」	15
2017/5/14(日)	新潟大学考古学研究室	16
2017/5/16(火)	秋葉区教育相談室	6
2017/5/20(土)	メディアショップ主催古津八幡山遊覧見学	12
2017/5/21(日)	郡山市大坂安史跡公園	42
2017/5/24(水)	新潟県高等学校退職者の会	23
2017/5/25(木)	新潟県立図書館内ボランティアの会	11
2017/6/7(水)	五里市連絡指導教室	5
2017/6/20(火)	中央区天明町自治会(お茶の会・にんめい)	35
2017/6/25(日)	ボーイスカウト阿賀野第1団ガスカウト隊	20
2017/6/27(火)	Akiba森のようちん	38
2017/6/28(水)	田上町特別支援学校三校交流会	30
2017/6/29(木)	巻郷土資料館友の会(西蒲区)	19
2017/7/1(土)	文化財保存全国協議会 第48回新潟大遺跡見学会	17
2017/7/2(日)	天神町内会(秋葉区)	10
2017/7/11(火)	亀田昭和会(江南区)	10
2017/7/12(水)	巻町西山地産会(西蒲区)	18
2017/7/17(月)	放課後等デイサービス ecoインターナショナル(江南区)	17
2017/7/22(土)	村松小学校北地区子供会(五泉市)	13
2017/7/22(土)	村松小学校I地区子供会(五泉市)	20
2017/7/26(水)	絆の会(中央区)	19
2017/7/27(木)	みかわ・かみかわ児童クラブ(阿賀町)	91
2017/7/28(金)	つがわ児童クラブ(阿賀町)	41
2017/8/6(日)	田上町保明上機場子供会	35
2017/8/10(水)	横川浜町内会(秋葉区)	10
2017/8/22(火)	阿賀町ひで児童クラブ	10
2017/8/27(日)	ボーイスカウト阿賀野第一団ガスカウト隊	18
2017/8/27(日)	ボーイスカウト阿賀野第一団ビーバー隊	10
2017/9/29(金)	新潟市教育相談センターくみの木教室	21
2017/10/3(火)	NGA27・28(中央区)	22
2017/10/17(火)	地域の茶の間「ブランタン」(西区)	29
2017/10/31(火)	西川庭園巡りの会	29
2017/11/1(水)	さくらすまいる(秋葉区)	6
2017/11/2(木)	さくらすまいる(秋葉区)	6
2017/11/5(日)	たて子供会(南区)	15
2017/11/7(火)	若葉会(北区)	30
2017/11/7(火)	さくらすまいる(秋葉区)	6
2017/11/8(水)	春秋会(上越市)	35
2017/11/8(水)	さくらすまいる(秋葉区)	6
2017/11/9(木)	さくらすまいる(秋葉区)	6
2017/11/10(金)	さくらすまいる(秋葉区)	5
2017/11/12(日)	(株)シービーワーズ(札幌市)	13
2017/11/14(火)	新潟地区手をつなぐ育成会 社会事業所つばき	13
2017/11/15(水)	子どもの家保育園(中央区)	46
2017/11/15(水)	軽トレッキングクラブ	4
2017/11/16(木)	菩提寺山の会	9
2017/11/18(土)	長野県カルチャーセンター	26
2017/12/13(水)	明治大学考古学研究室	11
2017/12/17(日)	西安博物院	9
2018/1/17(水)	新潟ダルク	8
2018/2/17(土)	動く市政教室(広聴相談室主催)	7
2018/2/28(水)	NHK文化センター「越後の古城と文化めぐり」	8
2018/3/4(日)	亀田中学校卒業生同窓会	15
2018/3/15(木)	新潟ダルク	9
2018/3/30(金)	ECOインターナショナル	13
合計		1,084

3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進

(1) はじめに

平成29年3月に策定した『国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画』〔相田・金田ほか2017〕（以下、保存活用計画）などを推進するため、平成29年6月に「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」（以下、推進委員会）を新たに設置した。また、保存活用計画に沿って実施する古津八幡山遺跡の確認調査に関する指導や助言を受けるため、推進委員会の下部組織として「古津八幡山遺跡調査指導部会」（以下、調査指導部会）も新たに設置した。

平成29年度は推進委員会を2回、調査指導部会を3回開催した。経過などは表8・9のとおりである。

(2) 平成29年度古津八幡山遺跡確認調査について

保存活用計画では史跡古津八幡山遺跡をより適切に保存・活用していくため、史跡内外の遺跡の状況を把握することを目的とした確認調査を行うこととしており、それに沿う形で平成29年度は古津八幡山遺跡北東域の史跡指定範囲外において、地権者のご理解・ご協力のもと確認調査（第20次調査）を実施した。

調査は調査指導部会の指導や助言を受けながら、1～2m幅のトレンチ調査及び一部面的な調査を実施した。調査期間は平成29年7月19日から11月13日で、調査面積は約218㎡である。

確認調査の結果、縄文時代と弥生時代の遺構・遺物を確認したほか、戦中・戦後の畑の畝などを検出した。遺構の種類別では、竪穴住居1棟、溝23条、土坑2基、ピット92基、性格不明遺構14基である。このうち、弥生時代の主な遺構としては、掘立柱建物の柱穴と推定されるピットが複数検出されたほか、弥生時代の終わり頃の遺物が出土した竪穴住居1棟などを確認した。

①掘立柱建物 断面に柱の痕跡を残すピットが計16基確認され、比較的密に分布することから複数の掘立柱建物の存在が推測される。

出土土器や埋土の特徴などから多くは弥生時代後期のものと推測される。本遺跡で掘立柱建物の存在が確認されたのは今回が初となる。

調査地は標高約25mの丘陵中腹の平坦域から緩斜面域に位置する。北東側の一段低い平場の空間を利用して掘立柱建物が複数存在する可能性がある。

②竪穴住居 規模や構造の確定は今後の課題であるが、一辺約9mと推定される隅丸方形の竪穴住居を1棟（SI1）確認した。出土土器から弥生時代の終わり頃の遺構と考えられる。古津八幡山遺跡でこれまでに見つかった竪穴住居の中では最大の規模である。

本遺跡では、弥生時代の終わり頃になると竪穴住居の分布が環濠外側に広がる傾向が認められ、最高所には前方後方形周溝墓が築造される。今回見つかった大形竪穴住居はその頃のもので、その性格や機能、つくられた背景などについては今後の検討課題である。

(3) おわりに

大形竪穴住居周辺域については平成30年度も継続して確認調査を行う予定であり、今回見つかった竪穴住居の規模や構造の解明に加え、掘立柱建物の規模や広がりなどについて、今後確認していく予定である。

（相田泰臣）

表8 古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会の経過

開催日	開催数	協議・検討事項
2017/7/10	第1回	委員長・副委員長・部会長の選出、スケジュールの概要について、今年度・来年度以降の事業について
2017/3/15	第2回	保存管理関係（平成29年度の確認調査の報告、来年度の調査計画）・整備関係・活用関係・運営・連携体制関係について

表9 古津八幡山遺跡調査指導部会の経過

開催日	開催数	協議・検討事項
2017/7/10	第1回	表8と同じ、確認調査予定地の現地視察・指導
2017/9/26・10/2	第2回	確認調査の現地指導
2017/10/31	第3回	確認調査の現地指導



掘立柱建物柱穴（P70）の断面（南西から）



竪穴住居（SI1）全景（北西から）

V 研究活動－資料紹介・研究ノートなど－

1 近世新潟町長善寺跡出土の木製塔婆と骨蔵器

ここに取り上げる木製塔婆と骨蔵器は、中央区西堀通6番町に所在する長善寺跡から平成18(2006)年の試掘調査に際し出土した。盛土下に埋没した近世新潟町の墓の実態を示す重要な資料であり、以下では調査の概要と出土資料の特徴を述べたのち、木製塔婆が提起する問題を考える。

(1) 長善寺下層墓の概要(図1)

長善寺は、天文2(1533)年開創・元龜2(1571)年開山の浄土宗寺院で、明暦元(1655)年に西堀通に移転した後、平成4(1992)年に西区小新へ転出するまでの337年間にわたり同地に所在した。調査はビル建設に伴うもので、総面積251㎡を対象として平成18(2006)年7月24日から8月1日に実施した。

堆積層は、褐色砂層(I層)・褐色シルト(II層)・灰色シルト(III層)・暗茶色粘土(IV層)・青灰色砂層(V層)に大別できる。I～IV層は、転出時まで存在した近世～現代墓地の下に堆積する盛土層である。近世の墓は地表面下0.7～1.4mのII層と0.9～3.0mのIII層から出土した。

II層出土の墓は4基。いずれも陶製骨蔵器を伴う火葬墓である。本層およびIII層で墓石の存在は確認できなかった。III層出土の墓は20基。北東部と南西部に二つの集中域を形成し、南東部にも5基が点在する(図1右上)。形態別の内訳は、骨蔵器をもたない火葬墓2基、陶製骨蔵器を伴う火葬墓16基、土葬墓2基からなる。陶製骨蔵器を伴う火葬墓(図1右下)は、傍らに木製塔婆の基部が遺存していた(図2A)。火葬骨が単独で出土した墓は直径20cm前後を測り、埋納当初布袋などの柔軟な素材に覆われていた可能性が高い〔前山ほか1985〕。土葬墓は19世紀代の肥前大甕を使用する。後述のような骨蔵器に比べ年代が下降することから、明治6(1871)年から同8(1873)年にかけての「火葬禁止令」下に埋葬された表層部の墓とみられる。このほかIII層からは、木製塔婆や建築部材を井桁に組んだ整地遺構(図2B・C)と区画を意図した切石列(図2D)が中央部と北部から確認された。

(2) 木製塔婆

長善寺跡下層墓で確認された墓標は木製塔婆に限定される。これらは火葬墓の傍らに基部が直立して遺存するもの(図2A)と整地遺構の敷設材として利用したもの(図

2C)からなる。図2には、整地遺構から出土した9点を示す。樹種はいずれも針葉樹で、角柱材を使用する1類と板材を用いる2類に大別できる。

1類(図2-1～6)

「五輪塔形」をなし、上部に地輪(四角)・水輪(球)・火輪(屋根形)・風輪(半球)・空輪(宝珠)の区画をもつ。火葬墓の傍らに直立する角柱材は、本類の基部である。材の太さと木取りから、以下の三種に区分できる。

1a類(6) 樹齢90年以上の芯持材を使用する15cm角の大型塔婆で、球状の宝珠を載せる空風輪と均一な幅をもった火輪が遺存する。火輪の下端付近で腐朽が進み、風輪以下が欠損するが、幅3.6cm・長さ8.4cmの補修用ソケットを端部中央に設ける。火輪の正面を「火燈形」に彫りくぼめ、中央に「六世道誉上人」の文字が刻まれる。現存長は87.5cm。

1b類(1～4) 芯持材を使用する11～12cm角の中型塔婆である。5点出土し、全体形がうかがえる4点を示した。長さは概ね近似し、3.71mの1を最長、3.63mの4を最短とする。地輪・水輪・火輪の形状にも斉一性を認めるが、風輪と空輪(宝珠)に異なりがある。1は風輪の上端が弧を描き、宝珠の中央に稜をもつ。3・4の風輪は角柱状をなす。3の宝珠は基部の括れが小さく、先端が丸みを帯びる。4は基部から1.46m付近を境に遺存状態が異なる。上部が劣化することから地上部と埋設部がうかがえる資料で、前者の比率は60%である。先端部が腐朽する2は中央付近が被熱する。そのやや上部に5本の鉄釘が打ち込まれるが、意図は明らかでない。

1c類(5) 5cm角の割材を使用する細型塔婆で、本例に限定される。全長3.63mを測り、1b類と同様の長さをもつ。先端部の形状としては、水輪がやや縦長な点を除けば1b類と類似し、風輪が1、空輪が3に近似する。基部から1.55m以上で劣化が見られ、地上部の比率は57%と推定できる。

2類(図2-7～9)

いずれも破損した資料で、上半部1点と基部3点が出土した。本類は、木取りによって二分できる。

2a類(7) 柁目材を使用するものである。7は基部から下半部にかけての資料で、長さ101cm・最大幅8.4cm・最大厚2.3cmを測る。断面形は端正な長方形をなす。劣化が進むため図示しなかったが、このほか上半部が残る資料が1点ある。外形が1b類・1c類に類似する五輪塔形の塔婆である。



図1 長善寺跡下層墓の調査（網かけ区域は現存墓地）

2 b類（8・9）板目材を使用するものである。8・9の正面（8 a・9 a）は試掘調査直後の撮影写真で、「七回忌菩提」の墨書が見える。背面に凹凸があり、断面は不整形をなす。厚さはともに1.6cm。最大幅は8が8.8cm、9が9.7cmである。（前山精明）

(3) 骨蔵器

火葬墓に伴う骨蔵器が22点出土した。内訳は、肥前系陶器10点、越中瀬戸1点、産地不明陶器6点、土器5点となっており、肥前系陶器が全体の5割近くを占める。この中には蓋を伴うものが3点あった（図3）。

1～3はⅢ層出土の肥前系陶器。1は内面に刷毛目装飾を行う鉢で、17世紀末から18世紀代の製品と考えられる〔東中川2000〕。口縁部が打ち欠かれ、2の蓋として利用されていた。2・3はタタキ成形を行う甕である。外面に平行タタキ目、内面に格子目あて具が残る。タタキ成形を行ったのち、外面をナデ消し調整を行っている。外面上半に6条の沈線と鉤状突起を施し、口端には砂目が5か所残る。3は外面に格子目タタキ目、内面と内底にも格子目のあて具痕が残る。

4はⅡ層出土の肥前系陶器甕。内側に折りかえす口縁

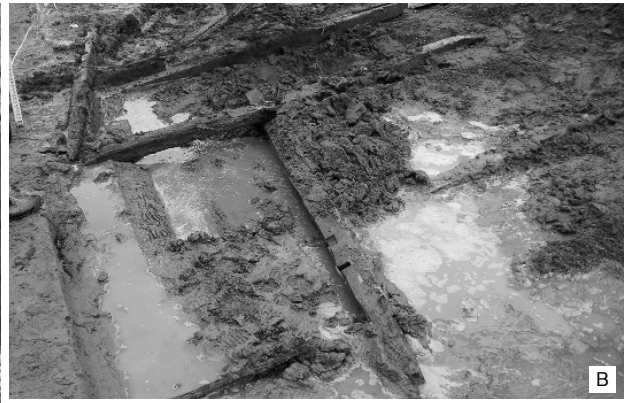
が特徴の18世紀代の製品である。茶褐色の鉄釉がかかる。外面に格子目タタキ目、内面と内底にも格子目のあて具痕が残る。

5はⅢ層から出土した越中瀬戸の長胴壺である。ロクロ成形で、底部は回転糸切りで切り離される。石英・長石を多量に含む粗い胎土で、内外面ともに鉄釉がかけられている。近世新潟町において越中瀬戸の製品は多く見られるが、骨蔵器として使用されるのはこの1点のみである。

6・7はⅡ層出土の素焼きの蓋と壺である。ともに石英・長石を多く含み、ロクロ成形される。7のプローションは、前述の越中瀬戸長胴壺によく似る。

8・9はⅢ層出土の産地不明陶器。口径14～15cm、器高12cm前後の小型甕である。ロクロ成形で、胎土には多量の石英や長石とともに磨耗岩石を多く含む。内外面に鉄釉が施されるが、口縁と底部に大量の石英・長石・砂が付着するのが特徴である。西区の大墓遺跡上層墓でも同様の骨蔵器が出土しており〔戸根ほか1973〕、在地系の陶器の可能性が高い。

相羽重徳氏の考察〔相羽2009〕によると、近世火葬墓



- A 骨蔵器と木製塔婆 I b 類の出土状況
- B 北から見た整地遺構上面の建築部材
- C 東から見た整地遺構下面の木製塔婆
- D 北から見た切石列

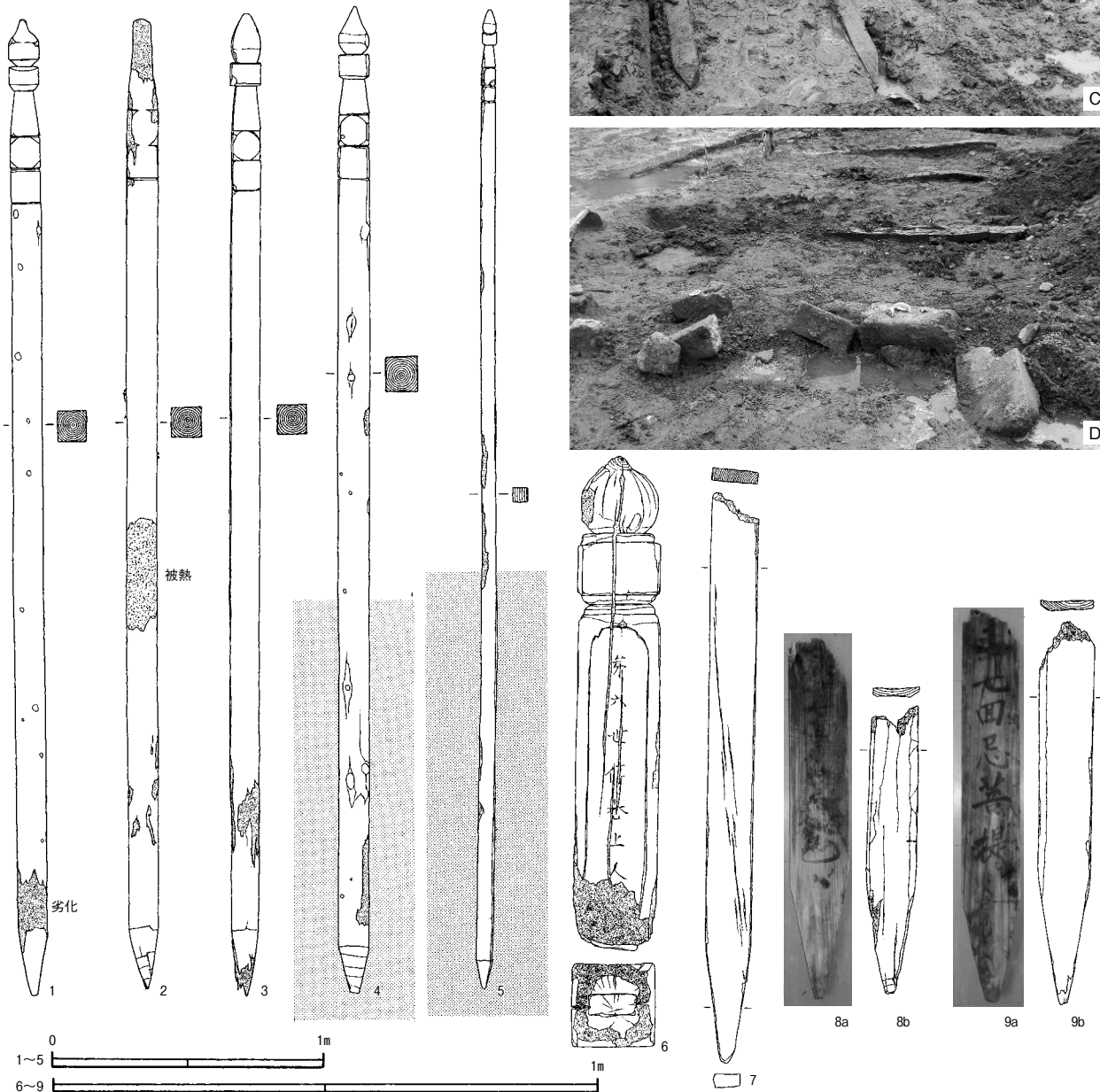
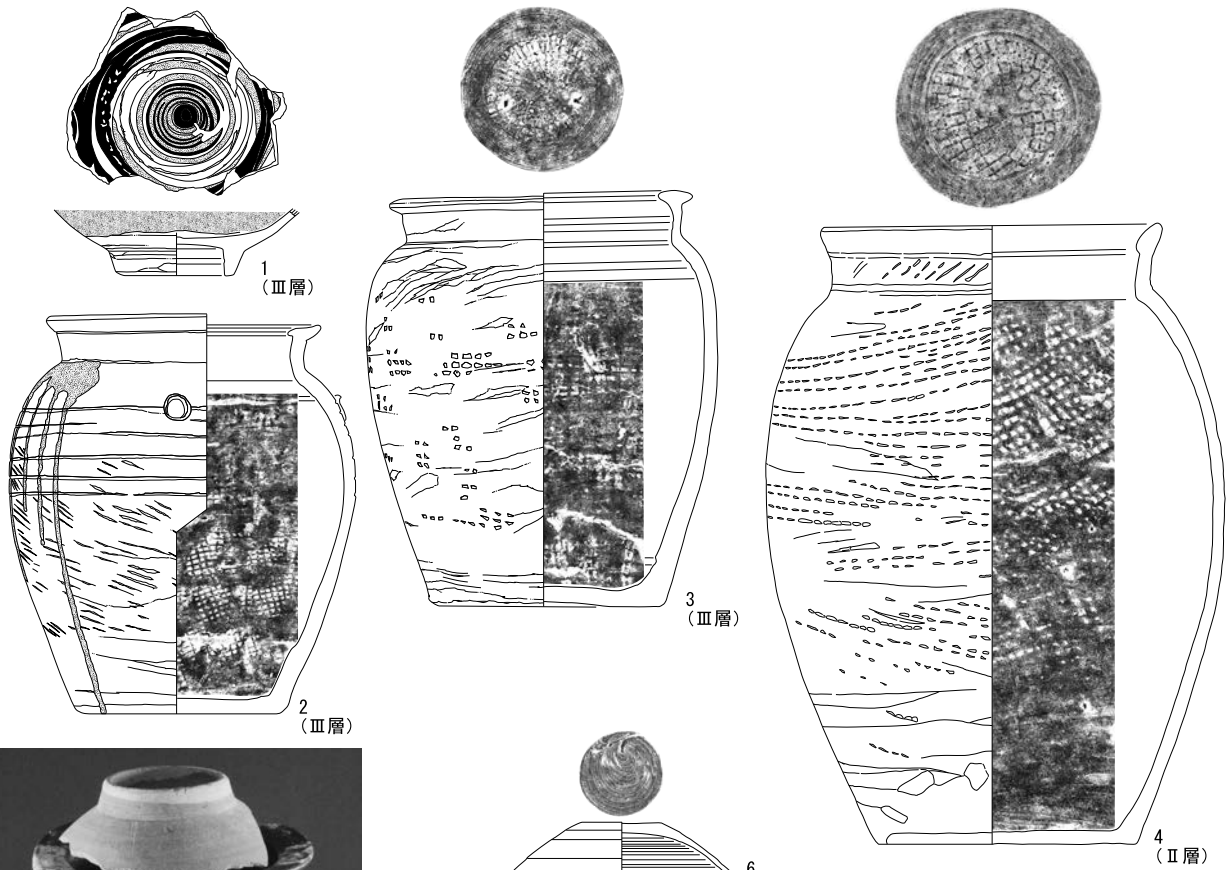
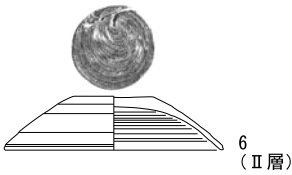


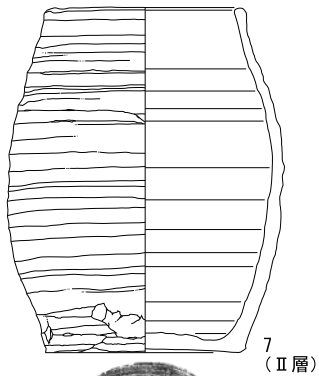
図2 長善寺跡Ⅲ層の遺構と木製塔婆



1・2



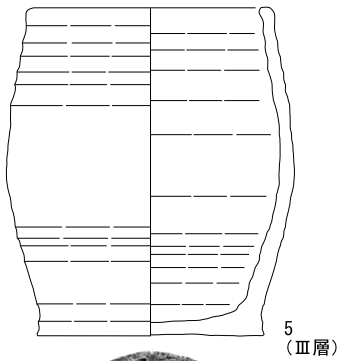
6
(II層)



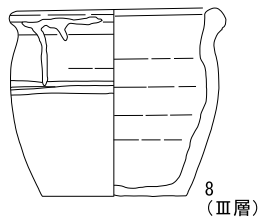
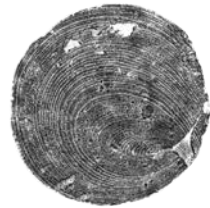
7
(II層)



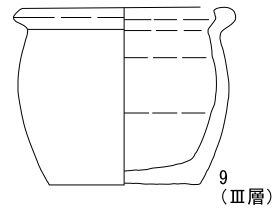
6・7



5
(III層)



8
(III層)



9
(III層)

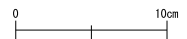
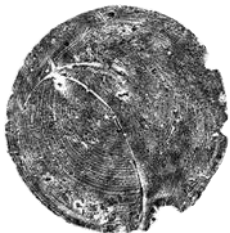
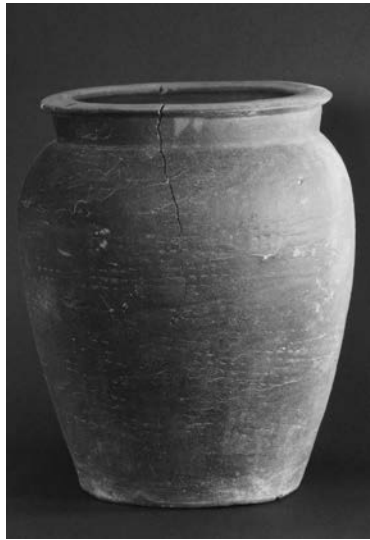


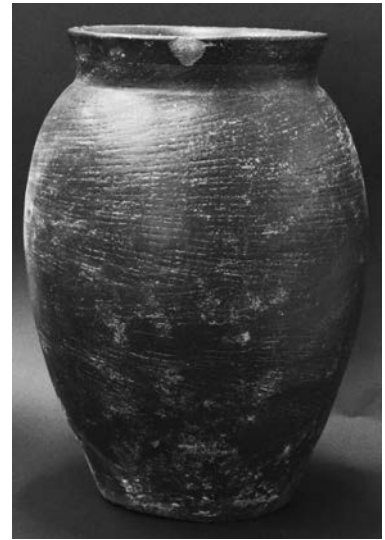
図3 骨蔵器実測図(1/5)



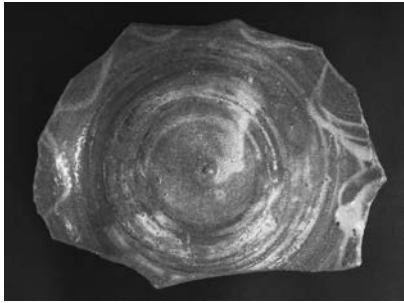
2



3



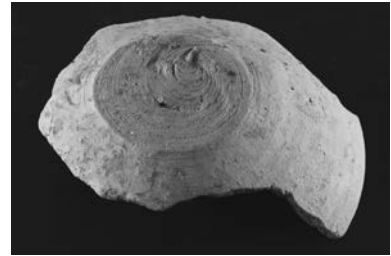
4



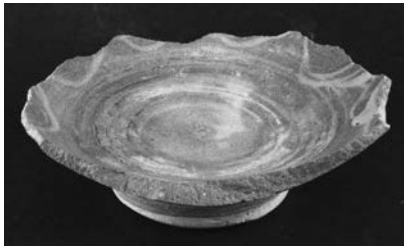
1 a



7



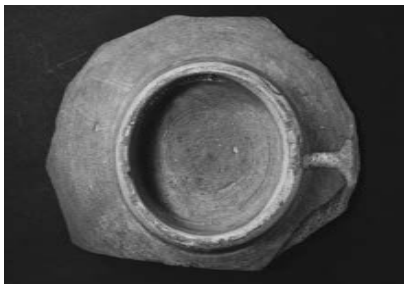
6



1 b



8



1 c



5

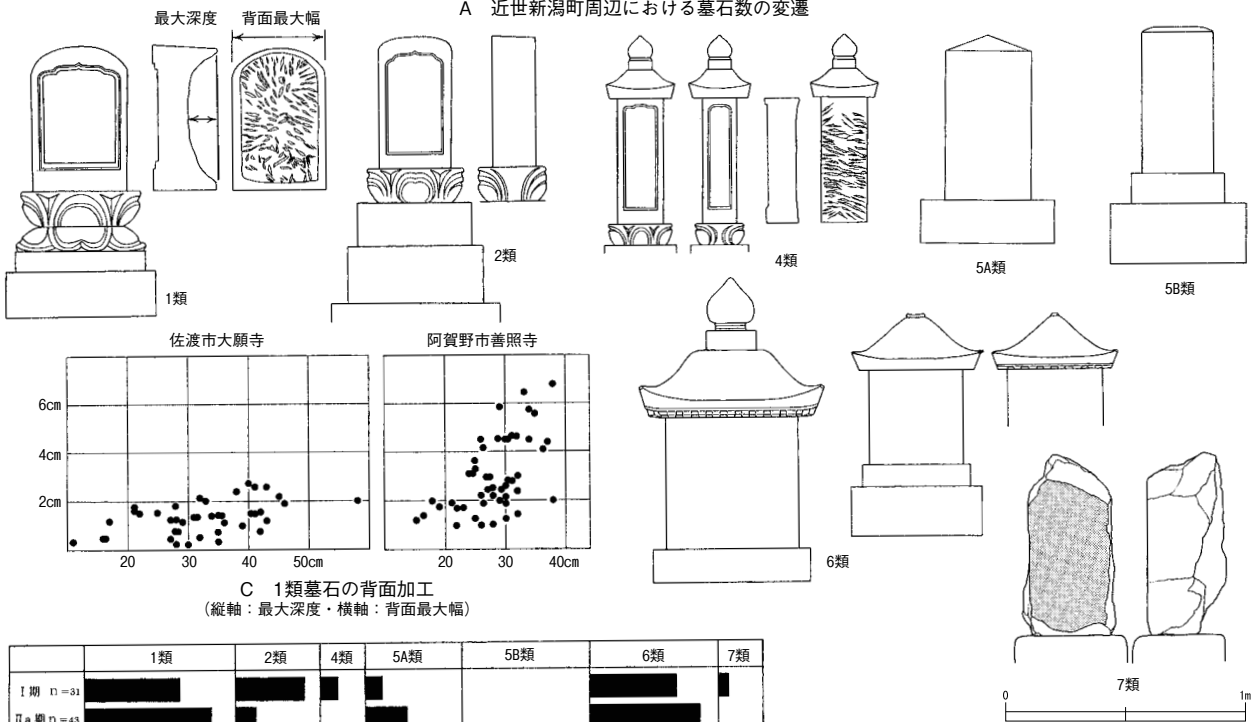
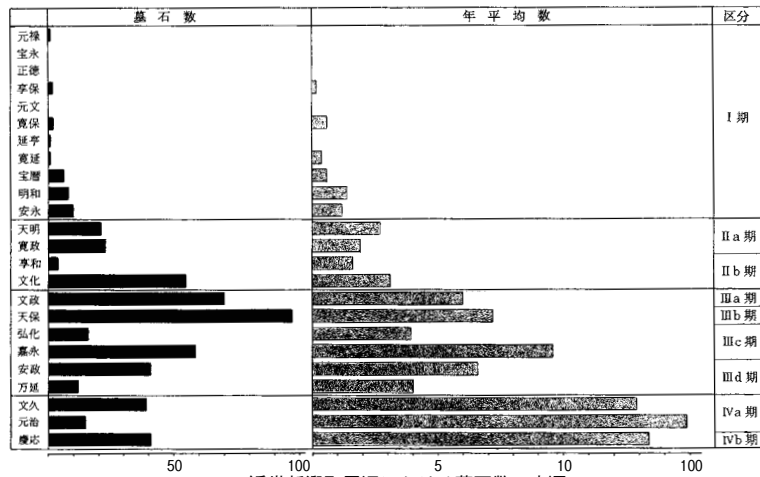


9

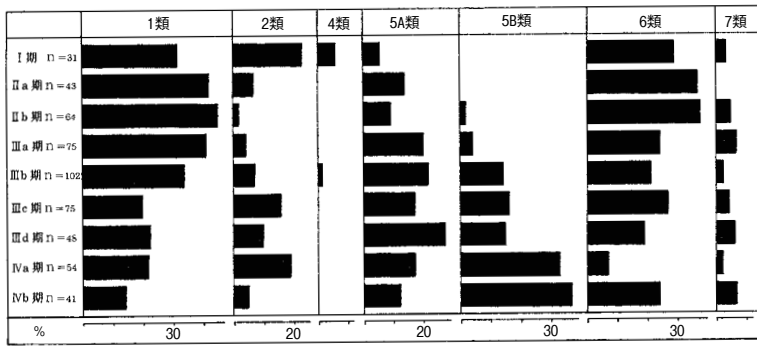
の骨蔵器の使用様相は大きく4期に区分される。I期(16世紀後半～17世紀初頭)は骨蔵器を用いない葬法が主流を占める。II期(17世紀前半～17世紀末)は肥前系の小型・中型甕を中心とし、少量ながらも越前・越中瀬戸などの骨蔵器を使用する。III期(18世紀)は二時期に分けられる。III a期(18世紀前半)は、肥前系のハンズー甕を小型化した肥前系陶器甕が卓越する。III b期(18世紀後半)は骨蔵器専用容器と考えられる土師質土器が登場し、蓋も

転用品でなく専用品が使用される。IV期(19世紀後半)は瀬戸を中心とする磁器製合子が出現する。

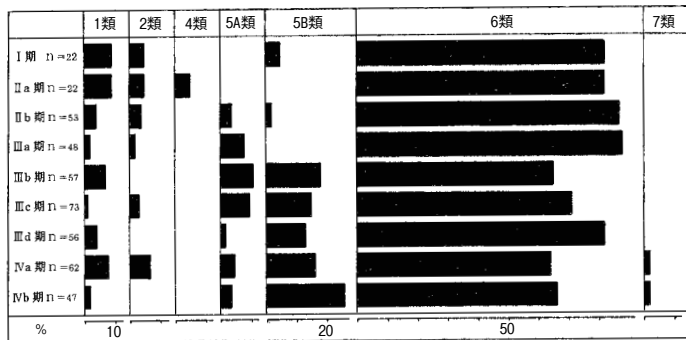
相羽氏の年代観と照らし合わせると、II層には蓋付の土師質骨蔵器(6・7)が存在することから、III b期(18世紀後半)に比定できる。III層では格子タタキ目の肥前系甕を主体とすることから、II期(17世紀前半～17世紀末)と考えられる。ただし1の蓋は17世紀末から18世紀代に比定される肥前系陶器刷毛目鉢の転用品であることが



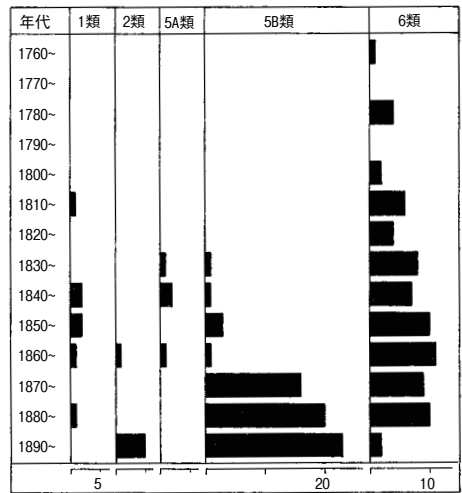
B 越後平野周辺の近世墓石



D 近世新潟町周辺における墓石形態の変遷



E 近世新潟町における墓石形態の変遷



F 新潟町の真宗寺院に見る墓石建立数の変遷

図4 越後平野周辺の墓石

ら、Ⅲ a 期まで下る可能性がある。

なお、肥前系陶器の年代については大橋康二氏（佐賀県立九州陶磁文化館）、越中瀬戸焼の年代観については鹿島昌也氏（富山市教育委員会）よりご教示いただいた。

（今井さやか）

（4）新潟町における墓標の変遷

越後平野の周辺でえられた近世墓の発掘調査と墓石調査の知見から、新潟町における墓標の変遷を考える。

前述のように、長善寺跡下層墓はⅡ層とⅢ層に形成されていた。Ⅱ層の年代は、骨蔵器のあり方から18世紀後半と推定できる。Ⅲ層の年代としては、木製塔婆Ⅰa類に記される「道誉上人」が寛文12（1672）年に逝去しているところから、当地への移転直後から墓地の形成が始まったことをうかがわせる。火葬骨が単独で出土した2基は大墓遺跡下層墓〔戸根^{ほか}1973〕と坊ヶ入墳墓〔前山^{ほか}1985〕に類例があり、前者は17世紀代、後者は17世紀～18世紀代と推定されている。本墓地の中では古様相をもつ形態であるが、一般階層の墓として18世紀代まで残存した可能性もある。Ⅲ層出土の骨蔵器は、17世紀代の肥前甕を主体とする。この中には18世紀代の肥前二彩鉢を蓋として利用する例があり、本層の下限資料となる。

Ⅲ層出土の木製塔婆は、太さや木取りにバラエティーが見られる。太い角柱材を用いる1 a類は、長善寺六世住職の墓標もしくは供養塔である。中型～細型の角柱材を用いる1 b・1 c類は一般階層の墓標と考えられるが、細身の1 c類は割材を用いる点でも格差がある。2類は年忌供養に伴う簡易塔婆である。本類も柁目材を用いた厚手の2 a類と断面が不整形な板目材の2 b類に二分でき、埋葬者の階層が多岐にわたることを物語る。

ところで、越後平野の周辺では、18世紀中ごろから墓石の建立が一般化する。17世紀～18世紀前半と推定される長善寺跡Ⅲ層出土の木製塔婆は、墓石出現以前の墓標の実態を示す貴重な資料となる。以下では、墓石の変遷を概観する中で木製塔婆から墓石への移行過程を検討する。西区小新に移転した現在の長善寺では墓地整理に伴い近世の墓石が著しく減少しているため、近世新潟町と周辺地域における主要な墓石形態を図4 B、その変遷を同図D・Eに示した。時期区分は、新潟町周辺地域での墓石数の推移（図4 A）に基づく。

越後平野周辺の近世墓石は、使用石材で新旧二時期に大別できる。19世紀前半まで多用される石材は、佐渡南部に産出する真珠岩質デイスイト（真野石）である。この時期の墓石の多くは佐渡から供給されたもので、1類（背面にタガネ成形痕をとどめる櫛型碑）の背面には軽量化を意図して入念な抉り加工が行われる（図4 C）。墓石形態を

見ると、新潟町の周辺では天保年間まで1類、万延年間前後に5 A類（頂部が尖る角柱塔）が高率を示す（図4 D）。これに対し新潟町では1類や5 A類が総じて少なく、堅牢な作りの6類（堂塔墓）が卓越する（図4 E）。

19世紀半ばになると、使用石材は長岡市域に産出する安山岩（釜沢石）に変化し、越後の墓石製作は活発化する。新潟町の周辺では、文久年間以後主要形態が5 B類（頂部が平坦な角柱塔）に変わり、現代に連なる墓石様相へと移行する。しかし、新潟町では引き続き6類が卓越し、5 B類の増加は周辺地域ほどみられない。

新潟町の墓石に転機が訪れるのは、5 B類が急激に増加する明治初期（1870年代）である（図4 F）。それらの多くは追葬を意図した「代々墓」である点に特徴がある。長善寺跡下層墓の骨蔵器は、個人埋葬用の小型～中型甕や壺を使用する。19世紀代前半までに建立された墓石の多くも戒名が刻まれた個人墓であり、合葬墓への移行は新潟町における墓制上の大きな画期とみなされる。

近世新潟町の墓石に認める周辺地域との異なりは、1類・5類の乏しさと6類の卓越に求められる。前者は一般階層、後者は富裕層の墓にあたる。近世新潟町で前者が乏しい現象については、墓石1類や5類に代わる墓標として木製塔婆が幕末まで残存する可能性を別稿で指摘した〔前山2018・2019〕。こうした見方に従えば、明治初期の新潟町での5 B類の急増は、恒久的な墓の建立にあたって生じた石への材質転換を意味することになる。長善寺跡下層墓から出土した17世紀～18世紀前半の木製塔婆は、新潟町における墓地景観の変遷を考える上でも示唆に富んだ資料として重要である。（前山精明）

引用・参考文献

- 相羽重徳 2009 「新潟県における近世骨蔵器の様相」『新潟県の考古学』Ⅱ 新潟県考古学会
- 戸根与八郎^{ほか} 1973 『北陸高速自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 西蒲原郡黒埼町大墓遺跡調査報告』新潟県教育委員会
- 新潟市教育委員会 1980 『新潟市文化財調査報告書 寺院Ⅰ』新潟市
- 東中川忠美 2000 「陶器の編年 壺・甕」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 前山精明^{ほか} 1985 『城願寺跡・坊ヶ入墳墓』巻町教育委員会
- 前山精明 2018 「周辺地域からみた近世新潟町の墓」『墓石から近世新潟町の歴史を探るプロジェクト』みなと新潟実行委員会
- 前山精明 2019 「越後平野周辺における墓石出現・普及期の墓－近世墓の発掘調査と墓石調査から－」『磨斧作針－橋本博文先生退職記念論集－』六一書房

【引用・参考文献】

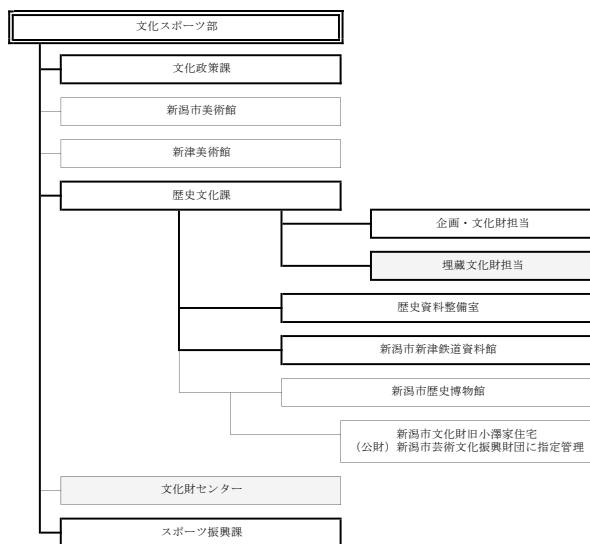
- 相澤裕子 2018 「Ⅱ 2 (3) 山木戸遺跡 第7・8次調査 (2016113・2016150)」『新潟市文化財センター年報-平成28 (2016) 年度版-』第5号 新潟市文化財センター
- 相田泰臣ほか 2017 『平成29年度 国史跡古津八幡山遺跡 弥生の丘展示館 企画展関連講演会・講座 記録集』新潟市文化財センター
- 相田泰臣・金田拓也ほか 2017 『国史跡 古津八幡山遺跡 保存活用計画』新潟市教育委員会
- 朝岡政康・諫山えりか 2017 「新川底樋試掘調査概報」『新潟史学』第75号 新潟史学会
- 諫山えりか 2004 『新潟市山木戸遺跡 マンション等建設予定地内発掘調査報告書』新潟市教育委員会
- 今井さやか 2014a 「Ⅲ 7 教育普及活動」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2014b 「Ⅲ 8 保存処理」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 今井さやか 2017 「Ⅱ 2 (7) 近世新潟町跡 第23・24・27次調査 (2015116・2015140・2015148・2015240)」『新潟市文化財センター年報-平成27 (2015) 年度版-』第4号 新潟市文化財センター
- 潮田憲幸 2014 『細池寺道上遺跡Ⅱ 第25次調査-県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区に伴う細池寺道上遺跡第11次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・澤野慶子ほか 2018 『大沢谷内遺跡Ⅴ 第25次調査-一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第17次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄ほか 2016 『島灘瀬遺跡 第5次調査-県営ほ場整備事業 (経営体育成型) 巻町地区に伴う島灘瀬遺跡第5次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 遠藤恭雄・青木 誠ほか 2015 『細池寺道上遺跡Ⅳ 第43次調査-市道大安寺第5号大関線改良工事に伴う細池寺道上遺跡第3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』日本食研事業株式会社
- 春日真実 1999 「第4章 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 春日真実 2000 「第5章 まとめ」『吉田町史』資料編1 考古・古代・中世 吉田町
- 金田拓也・久住直史 2018 「Ⅴ 2 亀貝坂井家のガラス乾板について」『新潟市文化財センター年報-平成28 (2016) 年度版』第5号 新潟市文化財センター
- 小村 弼 1959 『亀田町史』亀田町
- 齊藤秀平 1944 『新潟県史跡名勝天然記念物調査報告』第12輯 新潟県
- 坂井秀弥ほか 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』2 新潟県考古学会
- 関 雅之 1999 『葛塚遺跡』豊栄市教育委員会
- 滝沢規明 2007 「第Ⅶ章まとめ 1 出土遺物について D煮炊具の形態について」『谷内A遺跡 一般国道116号富永交差点改良関係発掘調査報告書』新潟県教育委員会
- 龍田優子ほか 2015 『下新田遺跡 第6・8・9次調査-県営ほ場整備事業 (経営体育成基盤整備型) 道上地区に伴う下新田遺跡第3・5・6次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 龍田優子・伊藤正志ほか 2018 『芥木遺跡 第3次調査-主要地方道新潟中央環状線道路整備事業に伴う芥木遺跡第3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 龍田優子ほか 2018 『道上遺跡第6次調査 下久保遺跡第3次調査-県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区に伴う道上遺跡第6次、下久保遺跡第3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・相澤 (高野) 裕子ほか 2014 『細池寺道上遺跡Ⅲ 第26次調査-県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区に伴う細池寺道上遺跡第12次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・細井佳浩ほか 2015 『細池寺道上遺跡Ⅴ 第32・38・41次調査 西江浦遺跡第6次調査-県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区に伴う細池寺道上遺跡第15・17・18次 西江浦遺跡第4次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・澤野慶子ほか 2019 『赤鎗砂山遺跡 第5次調査-商業施設建設に伴う赤鎗砂山遺跡第3次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2017 『細池寺道上遺跡Ⅵ 第44次調査-県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区に伴う細池寺道上遺跡第19次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2018 『細池寺道上遺跡Ⅶ 第46次調査-県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区に伴う細池寺道上遺跡第21次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 立木宏明・奈良佳子ほか 2019 『細池寺道上遺跡Ⅷ 第50次調査-県営ほ場整備事業 (担い手育成型) 両新地区に伴う細池寺道上遺跡第25次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 追録中之口村誌編さん委員会 2006 「第四章第五節 文化財と遺跡 四、埋蔵文化財」『追録中之口村誌』新潟市
- 豊栄市 1988 『豊栄市史 資料編』1 考古編 豊栄市
- 新潟市 1990 『新潟市史 資料編』2 近世Ⅰ 新潟市
- 新潟市 2007 『新 新潟歴史双書』2 新潟市の遺跡 新潟市
- 新潟市教育委員会 2018 『平成29年度 新潟市文化財調査概要』新潟市教育委員会
- 新潟市歴史博物館 2003 『新潟の漆器展』新潟市歴史博物館
- 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ 第7・9・11・12・14次調査-一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書-』新潟市教育委員会
- 前山精明 2018 「Ⅴ 1 秋葉区大野中遺跡出土の縄文時代遺物-阿賀野川低地に形成された遺跡の性格をめぐって-」『新潟市文化財センター年報-平成28 (2016) 年度版』第5号 新潟市文化財センター
- 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡Ⅱ-2003年度確認調査の概要-』巻町教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 渡邊朋和 2014a 「Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014b 「Ⅲ 6 資料の収蔵・保管」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014c 「Ⅴ 1 史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和・八藤後智人ほか 2014 『新潟市文化財センター年報-平成23 (2011) 年度・平成24 (2012) 年度版』第1号 新潟市文化財センター

平成29年度刊行発掘調査報告書一覧

書名	副書名	発行年月日	執筆者
大沢谷内遺跡Ⅴ 第25次調査	一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第17次発掘調査報告書	平成30年2月9日	遠藤恭雄・澤野慶子 ^{ほか}
筑木遺跡 第3次調査	主要地方道新潟中央環状線道路整備事業に伴う第3次発掘調査報告書	平成30年2月9日	龍田優子・伊藤正志 ^{ほか}
道上遺跡 第6次調査 下久保遺跡 第3次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う道上遺跡第6次 下久保遺跡第3次発掘調査報告書	平成30年2月9日	龍田優子 ^{ほか}
細池寺道上遺跡Ⅶ 第46次調査	県営ほ場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第21次発掘調査報告書	平成30年3月2日	立木宏明・奈良佳子 ^{ほか}
平成29年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講座・講演会 記録集		平成30年3月30日	相田泰臣（編集）

平成29年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長	外山 孝幸	統 括
所長補佐	福地 康郎	事 務
所長補佐（学芸員）	渡邊 朋和	埋蔵文化財
主幹（学芸員）	遠藤 恭雄	埋蔵文化財
主査（学芸員）	立木 宏明	埋蔵文化財
主査	上田 俊哉	事 務
主査（文化財専門員）	今井 さやか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	相田 泰臣	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	龍田 優子	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	相澤 裕子	埋蔵文化財
主事	山縣 美春	事 務
主事（学芸員）	前山 精明	埋蔵文化財
吏員（文化財専門員）	金田 拓也	埋蔵文化財
非常勤嘱託	久住 直史	民俗文化財
非常勤嘱託	澤野 慶子	埋蔵文化財
非常勤嘱託	八藤後 智人	埋蔵文化財
非常勤嘱託	磯部 保衛	弥生の丘展示館
非常勤嘱託	奈良 佳子	埋蔵文化財
非常勤嘱託	宮下 佐貴子	弥生の丘展示館
歴史文化課埋蔵文化財担当		
係長（文化財専門員）	朝岡 政康	埋蔵文化財
主査（文化財専門員）	諫山 えりか	埋蔵文化財
主査（学芸員）	潮田 憲幸	埋蔵文化財
非常勤嘱託	新井 順	埋蔵文化財



※一部省略

文化スポーツ部の組織機構図（平成29年度）

新潟市文化財センター年報 第6号
—平成29（2017）年度版—

2019年3月29日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25